

# 日本写真家協会会報

NO.157  
(2014. Oct)

- 第30回を迎えた東川町国際写真フェスティバル
- 第10回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる
- 著作権研究 出版に関する新たなる契約社会の幕開け

JPS

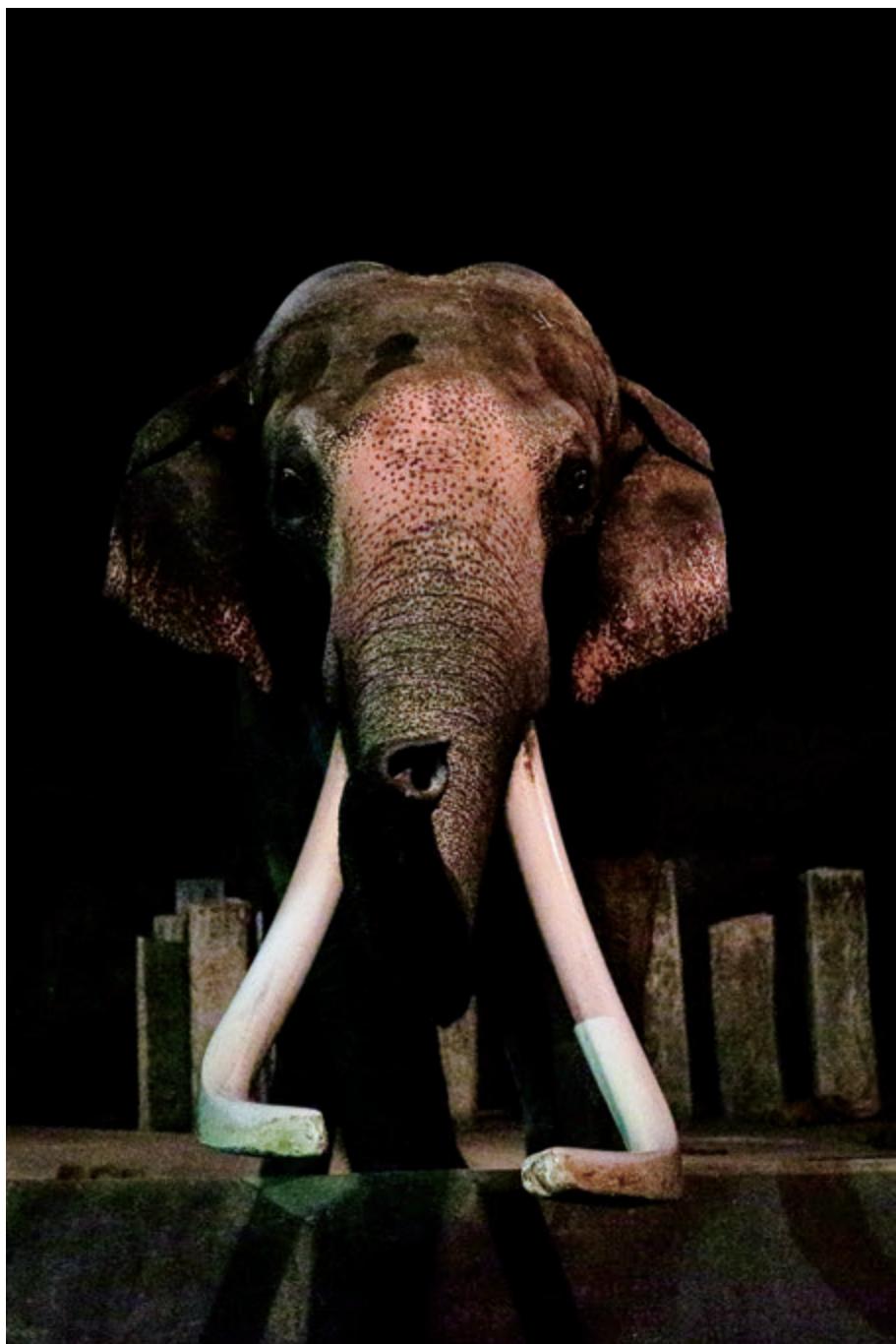


Photo Toyofumi Fukuda

# dp2

## Quattro

Reinvention of camera,  
reinvention of DP.



ハイエンドデジタル一眼をも凌駕する異次元の高解像度を、その手に。

シグマの思想を進化させたどこまでもストレートなカメラです。

フィルムライクな層構造ですべての光情報を取り込み、圧倒的な解像感と豊かな階調、独特の臨場感あふれる像質を実現するシグマ独自・世界唯一の垂直色分離方式イメージセンサー、Foveon。3,900万画素相当の圧倒的な高画質と、最適な画像処理を両立する新世代「Quattro」センサーを搭載した最新シリーズは、先代の「Merill」同様、最高性能の単焦点レンズとセンサーのパフォーマンスを最大化しあうレンズ一体型構造のボディを、焦点距離違いでラインアップしています。

まずは30mm F2.8(35mm換算45mm相当)搭載のdp2 Quattroからリリース。ハイエンドDSLRと同等のシステムを格納しながらも中判クラスの画質を随意に持ち運べる仕様にまとめあげた、どこまでもストレートな「作品撮りのためのカメラ」です。

シグマの基本思想を精錬した「あるべきカメラ」の可能性を体験してください。

●シリーズ初号機は高性能単焦点レンズ30mm(45mm)F2.8一体型の「標準カメラ」dp2 Quattro

●新世代センサー「Quattro」×専用エンジン「TRUE Ⅲ」で3,900万画素相当の高解像と処理最適化を実現

●dp1 Quattro「広角:19mm(28mm)F2.8」、dp3 Quattro「中望遠:50mm(75mm)F2.8」の全3機種

**dp1**  
*Quattro*

Wide  
19mm (28mm) F2.8

**dp2**  
*Quattro*

Standard  
30mm (45mm) F2.8

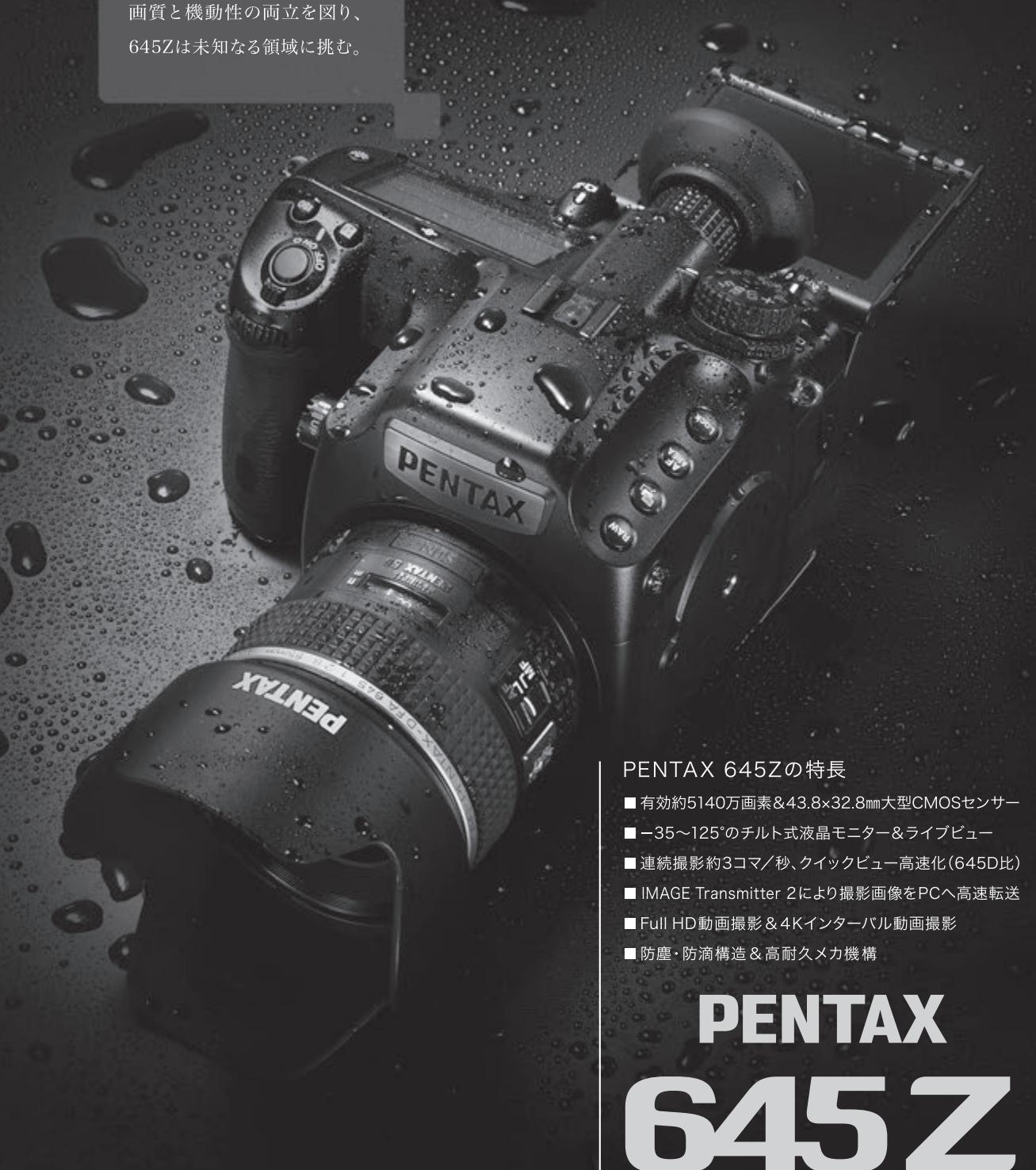
**dp3**  
*Quattro*

Mid-tele  
50mm (75mm) F2.8

**SIGMA**  
[sigma-global.com](http://sigma-global.com)

## 孤高の頂へ。

見る者を圧倒する、解像力。  
そして豊かな諧調と描写力。  
画質と機動性の両立を図り、  
645Zは未知なる領域に挑む。



### PENTAX 645Zの特長

- 有効約5140万画素&43.8×32.8mm大型CMOSセンサー
- -35~125°のチルト式液晶モニター＆ライブビュー
- 連続撮影約3コマ／秒、クイックビュー高速化(645D比)
- IMAGE Transmitter 2により撮影画像をPCへ高速転送
- Full HD動画撮影＆4Kインターバル動画撮影
- 防塵・防滴構造＆高耐久メカ機構

**PENTAX**  
**645Z**

■ <i>Gallery</i>	JPS ギャラリー 松本徳彦、溝縁ひろし、泉谷玄作、北中康文 ..... 5 小倉隆人、笠本恒子、榎並悦子、荒川好夫
■ <i>First Message</i>	時代は着実に変化する ..... 田沼武能 13
■ <i>Focus</i>	美術館から見た写真のいま ..... 金子隆一 14
■ <i>Telescope</i>	「日本の海岸線をゆく—日本人と海の文化」 ..... 島田 聰 16
■ <i>Zooming</i>	写真×写真(連載5) 新山清を中心とした主観主義写真 ..... 河野和典 18
■ <i>Wonder Land</i>	第30回を迎えた「東川町国際写真フェスティバル」 ..... 20 「写真甲子園2014」頂点へと駆け上がり、三人のフォトストーリー！
■ <i>Archives</i>	「日本写真保存センター」調査活動報告(16) ..... 松本徳彦 24 多彩な人物写真—収集・保存した写真原板から—
■ <i>Workshop</i>	著作権研究(連載32) 出版者の権利問題と著作権法改正について .....瀬尾太一 26
■ <i>Topics</i>	賛助会員トピックス ..... 28 シグマ、堀内カラー、ビックカメラ、ニコンイメージングジャパン、タムロン、キヤノンマーケティングジャパン
■ <i>Education</i>	平成25年度小学生を対象とした「写真学習プログラム」報告 ..... 30
■ <i>Report</i>	平成26年度「報道写真論」講座報告 ..... 32
■ <i>Award</i>	2014年第10回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる ..... 34 「名取洋之助写真賞」高橋智史さんの「屈せざる女性たち・カンボジア－変革の願い」「名取洋之助写真賞奨励賞」中塙正樹さんの「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」
■ <i>Congratulation</i>	おめでとうございます 第40回「日本写真家協会賞」受賞 ..... 38 株式会社アイデム 代表取締役社長 植山 亮さん
■ <i>New Face Gallery</i>	JPS2014年新入会員展「私の仕事」 ..... 39
■ <i>Report</i>	セミナー研究会レポート ..... 43 平成26年度第3回技術研究会、平成26年度第1回著作権研究会
■ <i>Digital Topics</i>	デジタル時代の印刷事情 ..... 44
■ <i>Exhibition</i>	2014JPS 展報告・2015JPS 展案内 ..... 46
■ <i>Books</i>	JPS ブックレビュー ..... 49
■ <i>Massage</i>	Message Board ..... 52
■ <i>Annually</i>	2013年受賞・出版・写真展(JPS会員) ..... 54
■ <i>Comment</i>	写真解説 ..... 61
■ <i>Adieu</i>	追悼・高村 規さん(名誉会員) ..... 62
■ <i>Information</i>	日本写真家協会発行出版物のご紹介／お知らせ／経過報告／編集後記 ..... 63
■ <i>International</i>	日本写真家協会の沿革(英文) ..... 65
■ <i>Technical</i>	エプソンのデジタルプリント最前線 ..... 72 「用紙の選択が左右する 作品の本質を引き出すプリントの妙」

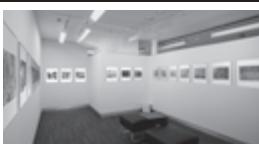
表紙・福田豊文、表4・松本コウシ

広告  
案内

- (株)シグマ
- リコーイメージング(株)
- フレームマン、ギンザ、サロン
- (株)堀内カラー
- キヤノンマーケティングジャパン(株)
- (株)タムロン
- Photo Gallery Artisan
- (株)ニコンイメージングジャパン
- (株)マッシュ
- 富士フィルム(株)
- エプソン販売(株)



■ エキシビションサロン銀座 フレームマン・ギンザ・サロン



銀座での展覧会がなんと!!15万・3万円

個展、グループ展でご利用下さい。  
ご開催者様は作品をご準備頂ければOK。  
これ以上、いっさいかかりません! 早い者順です!!

**ギャラリーII  
スペシャルプラン  
作品30枚まで**

**スペシャルプライスプラン  
¥305,550 のところ  
¥150,000 (税込)**

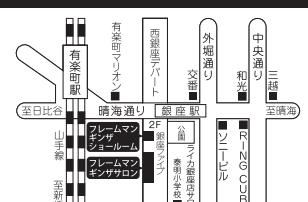


フレームマン・ギンザ・ミニギャラリー  
作品15枚まで 税込 ¥30,000 で  
大好評受付中!!



展覧会・グラフィック発表展におかれます額縁・パネル制作・作品二次加工全般を自社工場で行っております。  
会場施工・作品の美術輸送・展示作業・ライティング作業迄受け賜わり、展覧会の『トータルファニッシュワーカー』  
を目指しております。

詳細はこちらをご覧下さい

<http://www.frameman.co.jp/>

〒104-0061 東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ2F

TEL &amp; FAX 03-3574-1036 フォトサロン

期間中無休/開館時間10時～19時  
(オープン初日12：00～/最終日は17：00閉館)**(株)フレームマン** 本社

〒130-0026

東京都墨田区両国3-10-4

(旧 本所松坂町 吉良邸跡地内)

TEL 03-5638-2211(代)

FAX 03-5638-2219

Eメール frameman@frameman.co.jp



カーニバルの朝——松本徳彦  
写真展「迷宮都市 ヴェネツィア」



店出しの日「舞妓・朋ゆき」——溝縁ひろし  
写真展「先斗町『芸妓・朋ゆき』—舞妓から芸妓への8年間—」



厳島神社と煙火 —— 泉谷玄作  
写真集『泉谷玄作 花火』



朝露のノギク —— 北中康文  
写真集『シャッターチャンス物語』

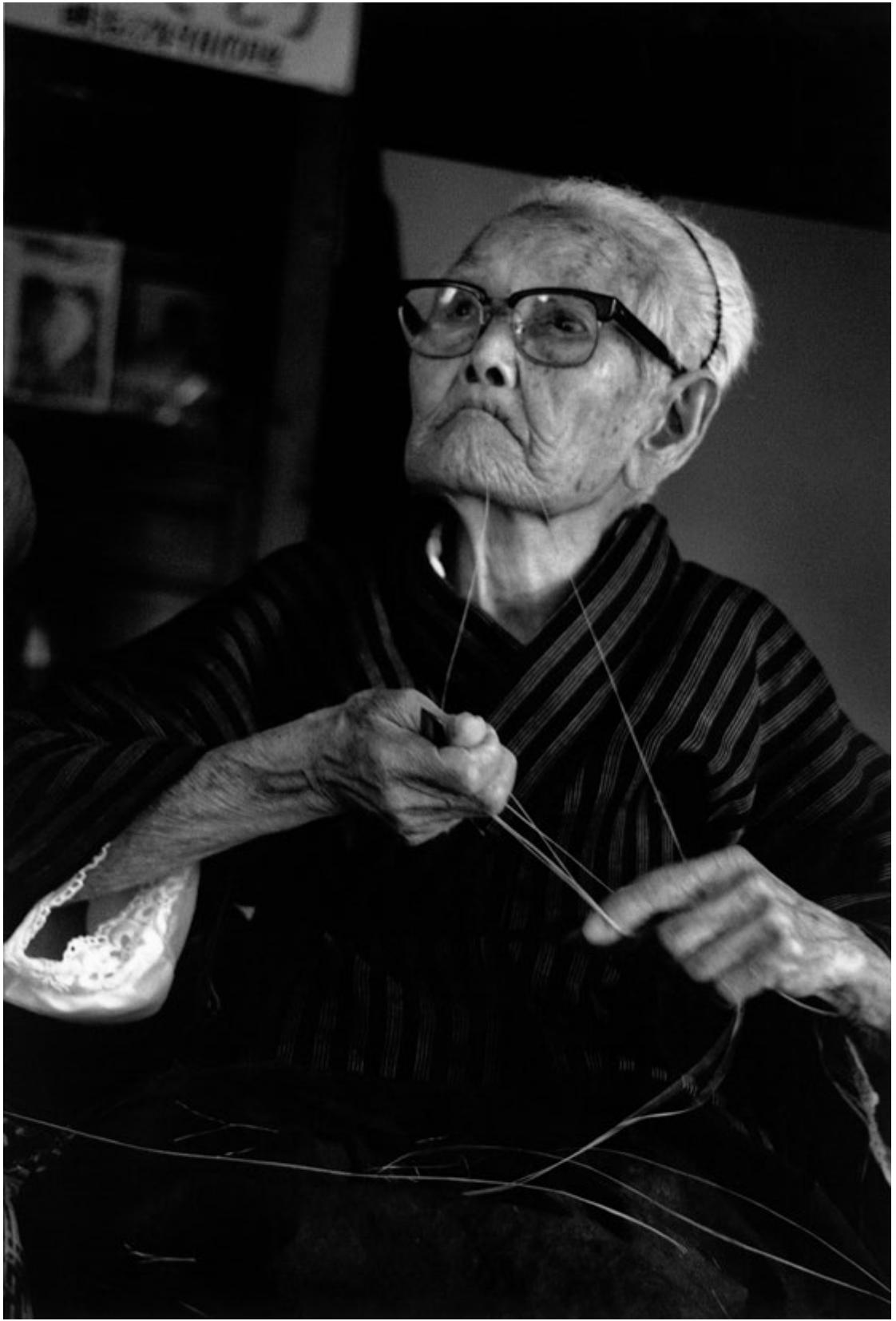


工業地帯（千葉県市原市椎津）—— 小倉隆人  
写真展「工業地帯—足尾と千葉」



「給食だよ！」—— 榎並悦子

写真集『明日へ。—東北の息吹 東日本大震災からの3年—2011-2014』  
写真展「明日へ。—東北の息吹 東日本大震災から3年—」



織り師 金城ナベ —— 笹本恒子  
写真集、写真展「100人の女性たち」



103列車発車!! —— 荒川好夫  
写真展「北海道 冬～蒸気機関車C62 栄光の記録」

# 時代は着実に変化する。

会長 田沼 武能

私が写真の大学に関係していた時、入試の口答試問で木村伊兵衛という写真家を知っていますかと尋ねると、NOである。土門拳を知っていますかと尋ねてもNOで、全く知らないのだ。どんな写真家を知っていますかの問い合わせに、当時写真雑誌の口絵などを賑わせていた若い写真家の名前が出てくる。それは私たちにとって内容の薄い取るに足らぬものと思っても、育った時代、教育された時代が違うと、物に対する感性も変わり、私たちと同じ考えにはならない。この様な形で時代は変化してゆき、私たちの知るものすべて過去の名作になるのである。温故知新で入学してから歴史的作品として学べば良い、と思うのだが所詮興味がないから学ぶこともない。よしあしは別にして斯くして自己中心主義の写真が氾濫することになる。

東京都写真美術館がリニューアルのため2年間休館することになった。写真美術館は1987年に東京都長期計画事業の一つとして、写真映像文化施設の設置構想を決めた。

写真関係者が待望していた写真美術館の第一次開館が1990年5月25日に行われ、5年後の本格開館から20年になる。初期には我々の思いとは異なり入館者数が予想通りに伸びず、苦境が続き、作品の購入予算もどんどん減少し、2億円が0になってしまった。そして石原都知事が誕生するや廃館の案まで浮かんだ。しかし、石原都知事が資生堂の福原義春氏に運営を託した。氏は経団連から人材を呼び、経団連関係の会社に支援団体になってもらい、運営の安定を計ると同時に展示内容も吟味し、旧来の写真作品と新しい感性の写真作品を展示することにより、都民が写真に興味を持ち、たくさん来館してもらうことを心掛けた。そんなたゆまぬ努力が実り、現在は年間40万人を超える集客数となり、目覚ましい発展を遂げている。いまや写真美術館としても収蔵作品が

32,648点という名実ともに世界に誇る写真美術館になっている。20年を過ぎて施設に様々な不具合が起き、それを解決するためのリニューアルをすることになった。協会も毎年「JPS展」をこの館で開いている。その写真展も2年間開催できなくなり、上野の東京都美術館で開催できることになった。2年後の再開には20周年の祝賀会を行うという。我ら写真家たちの誇りとするすばらしい写真美術館として生まれ変わることを楽しみに待ちたい。

写真保存センターの進行は、着々と進んでいる。キヤノン、ニコン、富士フィルムの3社に幹事会社となっていたいただき、センターを運営するための支援組織を作るよう賛助会社にお声かけしたところ、現在11社から名乗りをあげていただいている。保存するフィルムの寄贈、寄託も入ってきているが、それを整理しファイリング・デジタル化するための作業に手がたりない、というのが現状である。それは寄贈された作者について予備知識がないと、整理がなかなか進まない。映画用フィルム保存作業はその多くが映画会社をリタイヤした方々がボランティアで作業しているが、当協会ではフリーの写真家の集団なので定年でボランティアというパターンは不可能に近い。しかし、年齢的に撮影を止めておられる方々にお手伝いいただければ作業もスピードアップするのではないかと思う。徐々に効果的な方法を構築していく。そして写真保存センターがスムーズに運営できるよう務めたい。

何事も同じですが、写真家のための願い事は、写真家自身が行動しなければ誰もやってくれない。規模こそ違うが東京都の写真美術館のように収蔵作品のアーカイブを作り、収蔵した物故写真家の作品展も開けるような写真保存センターができるることを望んでいる。温故知新のためにも・・・。

# 美術館から見た写真のいま *focus*

金子隆一(写真史家、東京都写真美術館学芸員)

写真術が発明された当初、写真は芸術か否かという問い合わせがあったことは、もはや歴史の彼方の出来事となってしまったといってよいだろう。事実今日において、写真の芸術性をことさら問いかけることはしない。しかしその問い合わせが、今日いうところの写真表現を生み出してきたことは、写真史の教えるところである。そしてその芸術性を保障する「場」として美術館がどのような役割を果たしたか、さらに言えば写真をどのように規定してきたか、その結果どのような写真のあり方を生み出してきたかを考えることは、「写真のいま」を考えるうえで、何らかの方途を示唆することができるのではないだろうか。

## 1. その歴史

写真が美術館で正式に認知されたことを雄弁に語るのは、1940年にニューヨーク近代美術館で写真部門が設置されたことである。

それまで芸術性を認めた写真作品を収蔵した美術館としては、1924年にボストン美術館がアルフレッド・スティーグリツの作品を収蔵したことがあげられるが、「写真」というジャンルを認知するというより、スティーグリツというアメリカを代表する偉大な「個性」を認知するものであったというべきである。

ニューヨーク近代美術館における写真部門の設置は、近代芸術(モダンアート)の一ジャンルとして写真を位置づけたのである。初代の写真部長に就任するボーモント・ニューホール(1908～1993)は、直前の1937年に「写真100年展(Photography 1839-1937)」を開催し、同時に刊行したカタログの中で写真の歴史を概観するテキストを著している。これはのちに『写真の歴史——1839年から現在まで(The History of Photography—from 1839 to the present)』(1949年、ニューヨーク近代美術館刊)に発展し、改訂が繰り返されたがもはや批判的対象になっているほどの写真史の古典となっている。そこでの記述の基本は、なによりも自立した芸術ジャンルとしての写真表現の流れをたどっている。

ではこのニューヨーク近代美術館は、近代芸術としての写真を顕彰するために、「もの」としてどのような

写真をコレクションし、そして展示したのであろうか。

ニューホールの写真史には、いわゆる写真表現の発展とは別に「印刷された写真」という章を特別に設けているという特徴がある。いわゆる「報道写真」つまりメディア化された写真を、写真史の周縁として位置づけているのである。それゆえグラフ雑誌や写真集などはあくまでも参考資料となる。同書において厳密に「もの」としての写真のあり方を規定しているわけではなく、「画像」としての写真のあり方をめぐってのみ評価がされており、それゆえ「もの」としての写真の基本は、印画紙に焼き付けられた写真(ダゲレオタイプからピグメント印画、ゼラチン・シルバー・プリントまで)が中心になっていると言つてよい。

つまり今日いうところのオリジナル・プリントという考え方によって、その記述はささえられているといってよいだろう。ニューホールは同書の中でオリジナル・プリントという概念を厳密に規定しているわけではないのだが、作家の個人的な表現の最終的なかたち(もの)としてのオリジナル・プリントという概念を逆説的に規定するだけでなく、そこにある種の絶対性を与えていたといえよう。

## 2. オリジナル・プリントという条件

では、このオリジナル・プリントという概念が、写真表現のあり方にどのような条件を与えることになったのであろうか。

日本で、今日いうところのオリジナル・プリントという概念が登場してくるのは1970年代半ばからで、それが公に論議されるようになるのは横浜美術館、川崎市市民ミュージアム、東京都写真美術館と、写真を正式な部門として設置もしくは総合的な専門美術館の設立が現実的になってきた1980年代に入ってからのことである。これらの公立美術館が収集の対象とした海外の写真家の作品は、すでにマーケットが確立していた海外のギャラリーなどを通して購入するわけだが、日本の写真家の作品のほとんどは写真家から直接に購入するというかたちであった。それは国内ではオリジナル・プリントを売買するマーケットが確立していない状況にあったからである。それゆえ、作品の価格は市

場価格によるのでなく、つまり作家や作品の評価をしないで一点いくらという均一価格で購入がなされ、さまざまな論議がなされたことは関係者の多くが知るところであろう。

またパーマネント・コレクション(永久保存)という条件の中で、プリントのアーカイバル処理が問題になったことも、オリジナル・プリントという概念がもたらした重要な条件の一つであった。

上述した条件は、特に日本の写真表現に大きな影響を与えたことは確かのことである。しかしこれらは、写真表現の本質にそれほど大きな影響を与えたとも思わないし、時代を経るにしたがって条件は整い解決されていった、または解決されてゆくとみて間違いはないだろう。

オリジナル・プリントという条件が、美術館という「場」のなかにコレクションとして位置づけられたときに起こる本質的な問題は、作品を「単写真（一枚の写真）」へと解体することができるということにあるのではないだろうか。

### 3. 構築された写真と一枚写真

この問題は、筆者が東京都写真美術館のコレクションの形成に実際に携わる中でつねに意識させられることであった。

日本の写真家の作品発表、特に1950年代以降においては、一枚の写真を作品として発表することよりも、複数の写真を構築することに拠って表現を成立させることが常識になってきていると言ってよいだろう。例えて言えば、「写真集」という表現のかたちを最上のものとする価値観が根底にあるといってよいのではないだろうか。これは、海外の写真家に比べて日本の写真家に極めて特徴的なことである。美術館は「評価の定まった写真家の評価の定まった作品」をコレクションの核にするわけだが、その評価の根拠の多くが写真集に拠っているのである。ところが実際には、その写真集（複数の写真によって構築された表現）の中から、写真家本人と相談しながらごく一部を選択してプリントを制作してもらって収蔵している。いわばその表現の全体を、代表もしくは象徴するイメージをオリジナル・プリントとして収蔵するわけだ。

だがここまで、表現の主体である作家の何らかの意思というものが反映されているから、そこにある全体性を求ることは可能であろう。しかし美術館での実際展示ということになると、いつもその収蔵された写真全体（複数の写真）を展示するわけではない。その中からさらに展示を担当する学芸員が選択をして、そこにある文脈を新たに与えるわけである。

つまりオリジナル・プリントという条件は、構築された表現と一枚写真の間を自由に往還することを可能にするものであるのだ。

### 4. 美術館から見た「写真のいま」

美術館という「場」のなかで写真を考えるということは、これまで述べてきたようにオリジナル・プリントという枠組みのなかで考えるということになるわけだが、それは絵画のような絶対性を持つものでないことは言うまでもないことである。写真ならではの絶対性がそこに成立しているはずである。

その一つが「複数の写真によって構築された表現」という位相である。それを表わしているのが、いわゆる「写真集」であるといってよいだろう。東京都写真美術館では、コレクションを始めた1980年代末においてすでに、写真集をオリジナル・プリントに準ずる作家の写真表現の最終的なかたちを表わす一次資料として位置づけている。当時、海外の美術館では、写真集は二次資料的な位置しか与えられていなかったが、今日においてその考え方は完全に覆され、多くの美術館がコレクションに欠かすことのできない対象としている。その起爆剤となったのが、日本の「写真集の黄金時代」ともいわれる1960～70年代の写真集であることは、今や世界的な常識である。

つまり「写真集」というかたちは、美術館という「場」において、オリジナル・プリントに対してのもう一つの「もの」としての写真表現のあり方を成立させたといつよい。

このことで言いたいことは、美術館という「場」が写真表現を規定するのではなく、「写真」が美術館を変えてゆくということなのではないか、ということなのである。もちろん美術館が写真表現のあり方に大きな影響を与えたことは確かであろう。しかしそれ以上に、写真家それぞれの営為こそが、美術館という「場」を変えてゆくものであり、広い意味での芸術表現に新しい地平を切り開く原動力として、人間の文化的活動を支えてゆくものであることを強く認識しなくてはならないはずである。

#### 略歴：金子隆一（かねこ・りゅういち）

1948年東京生まれ。立正大学文学部地理学科卒業。1990年より2014年まで東京都写真美術館専門調査員として「芸術写真の精華」（2011年）「日本写真的1968」（2013年）など数多くの展覧会を企画構成。共著として『日本写真集史1956—1981』（2009年、赤々舎）ほか、編著として『定木本村伊兵衛』（2002年、朝日新聞社）などがある。

日本写真家協会創立 65 周年記念事業

# 「日本の海岸線をゆく—日本人と海の文化」

## 編集経過と現状について

島田 聰（常務理事 周年事業実行委員会）

会報 154 号でお知らせしたように、協会創立 65 周年記念事業として、写真展「日本の海岸線をゆく—日本人と海の文化」を開催することが決まった。2013 年 11 月に実行委員会が発足してから、本稿執筆時点でおよそ 10 カ月余が経った。編集作業は、月一回のペースで重ねてきた会議を中心に、まずは、写真展全体の骨格、構成を考えることから始まった。テーマは世界有数の総延長距離を有する日本の海岸線であるが、単に海岸線を地理的に探るのではなく、その海岸線を手掛かりにして、日本の文化や民族性、人々の暮らしなどを深く広く探る企画である。この基本に鑑み、実行委員会では以下の三つの柱を想定した。この三つの柱を中心編集の経過と現状について報告したい。

一つめの柱はこの恵まれた海洋との関係の良好な側面、たとえば漁業や風光明媚な景色、あるいはこれらへの感謝と密接な繋がりを持った祭りや伝統行事、海と密接な繋がりを持った日々の暮らしや生活などの人間の営みである。二つめは、これとは逆の側面、たとえば、工場や工業による環境や自然景観の破壊など、人間の活動による海岸線への悪影響や負の側面である。そして三つめは、これらの悪影響や負の側面を今日的に克服していくとする人間の試みや志向、その成果である。前述したように、これらのすべては、海岸線という地理的な面だけではなく、それ以上に人間の営みや生活と深い関わりを持ったものである。言ってみれば、海岸線とは、海と陸ではなく、海と人が交わる線なのである。

このような方針に沿って、会員に資料の提供を呼びかける一方、会員、会員以外の写真家、写真愛好家の様々な写真集や資料にあたり、候補となりそうな作品をピックアップする作業を並行して行った。約 100 名の会員からは、およそ 1,000 点の資料が寄せられた。また、数百冊の写真集等の数万枚からもおよそ 1,000 点以上を候補としてピックアップした。

実行委員会では、8 月から 9 月にかけて、これらの第

一次候補資料の複写作業を四回に亘って行い、ほぼ作業を完了させたところである。また、第二次の資料募集も呼びかけ、更に追加の資料が会員から寄せられている。この後は、複写画像の整理と調整を行い、適当なサイズのプリントを作成した上で、一堂に並べ、編集構成作業にかかる予定である。

その編集構成作業を終えると最初の全貌が見えてくるのだが、それは楽しくもあり、また課題を抱えることにもなる、そういう最初の階段の踊り場でもある。その編集構成作業を終える前に、これまでの作業の中からも見えてきた全貌の一端や課題について、いくつか述べてみることにする。

前述した三つの柱に沿って述べると、一つめの海との良好な関係、漁業や名所、風景については、概ね様々な資料が集まつたようだ。しかし、ピンポイントでよく知られた名所や「どこそこの何」といったものについては、更に資料の精査や収集が必要になりそうである。また、これは全体的に言えることであるのだが、当初の設定目標である 2000 年以降の新しいものが、まだ少ない感触を持っている。しかし、撮影年代については、時代の変遷や多様性、「今を見つめ直してみる」という企画の趣旨に鑑みると、やや古い時代のものへの幅も持



西野嘉憲：尖閣諸島南小島で魚を突く 2008 年



小西忠一：異国からの到来物 秋田県 2004 年



林 義勝：諸手船 神事 島根県美保関町 2011年

たせた方が、写真展にとっての実りは豊かになるのではないかと考えている。

二つめの海との負の関係や人間活動による海岸線への悪影響等については、エポックメイキングな事故や象徴的な事態等の資料が集まっているが、まだ、その多様性には若干乏しいようである。重要なと思われるエポックや、身近な視点や人の暮らしや生活を視点に置いた、様々な作品を更に探していく。また、会員から寄せられる資料にも期待したい。

三つめの負の側面を克服し今日的な海との良好な関係を作っていくとする試みや志向、その姿や成果などについては、まだ少ないというのが率直な印象である。写真展のエピローグ的なパートでもあり、具体的なテーマの調査や発掘、新たな取材なども視野に入れつつ、更に充実を図っていきたい。

今回の企画「日本の海岸線をゆく」は、その広大な水域を占める日本列島の地理的要因を含め、海洋国家としての日本人の国民性や文化、歴史、社会の姿を踏まえたうえで、日本という国の多様な姿を探っていく、という企画意図からスタートしたものであるが、更に、企画の趣旨である、日本の「今を見つめ直してみる」という今日的課題にも貢献できる映像的エネルギーを発するものにしたいと望んでいる。

企画展の一層の充実に向けて編集作業を進め



大塚勝久：石垣島のタコ捕り名人 2002年



福島雅光：港の日常 三重県熊野 2009年

ていくとともに、会員はじめ賛助会員の皆様や関係の皆様には引き続きいっそうのご協力をお願い申し上げる次第である。

#### 〈日本写真家協会 創立 65 周年記念写真展概要〉

##### ◆写真展内容(予定)

##### 【タイトル】

「日本の海岸線をゆく－日本人と海の文化」

##### 【会場及び会期予定】

東京展：東京芸術劇場(池袋)2016年3月

巡回展：関西(京都または大阪)

【主催】公益社団法人日本写真家協会

【共催】東京都写真美術館

【後援】文化庁、国土交通省・国土地理院

【認定】(社)企業メセナ協議会

【協賛】賛助会員各社・特別協賛会社ほか

【内容】2000年以降に撮影された作品を中心に、それ以前の作品も含め、日本の海岸線を辿りながら、その風景と風土、人の暮らしを通して見る日本の国土と文化、社会を約200点の作品で展示構成

##### ◆写真集を制作予定



宮古漁業共同組合：2011年3月11日 15:25 岩手県宮古市

# 新山 清を中心とした主観主義写真

「新山清と時代を共有した写真家の写真展 -1」

河野和典 KOHNO Kazunori (フォトエディター)

2014年4月29日～5月25日の会期を6月8日まで延長して東京・目黒のギャラリーコスモスで開催された「新山清と時代を共有した写真家の写真展 -1」は、新山清を中心とした12名の写真家が、戦後間もない頃の1950年から60年代に制作したと思われるモノクローム写真を集結させた写真展であった。そしてその作品の中身は、いずれも申し合わせたかのような進取の気性に富んだ、それぞれが主体性を發揮させた作品群であった。これらの作品にはあとに述べるが、当時はやりかけた主観主義写真の息吹が根底にあったようだ。

今回展の12名の写真家は、アメリカ生まれで鳥取県米子出身の杵島 隆は別格として、その他の11名は全国的にその名を轟かせた人たちというわけではない。いずれもいわゆる「知る人ぞ知る」といった地味な活動をされていた写真家なので、以下、簡単に紹介しておこう。

今や創立100年を超える伝統ある写真集団・東京写真研究会の会長を務めた赤穂英一、主に日光の風景をメリハリの効いたファインプリントで展開したやはり東京写真研究会メンバーの清岡惣一、風景写真を新鮮な眼差しで紹介し解説した魚住 励、広島写真界の雄で主観主義写真で名を馳せた大藤 薫、同じく広島出身で主観主義写真に名を連ねた原本康三、新山 清に師事した四国愛媛の宮野慎一、東京でコマーシャルスタジオを構えて時の実験的なグラフィック集団と東京写真研究会に所属していた八木 治、さらには関西を代表する丹平写真俱楽部やシュピーゲル写真家協会創立者の一人であった棚橋紫水、現代美術家であり写真

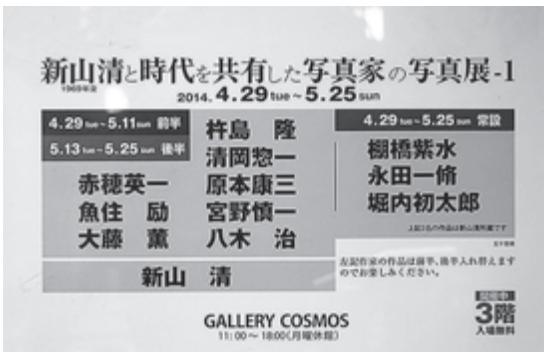
家であり写真評論家でもあった永田一條、棚橋紫水と共にシュピーゲル写真家協会の一員で終戦直後岩宮武二とコンビを組んでいた堀内初太郎といった面々である。

この写真展で発表された作品群は、小規模ではあるけれども、ある意味で日本の写真のある時期(1950-1960)に新風を吹き込んでいる。それと同時に、くっきりと写真の多様性をも示し、その足跡を残した写真家たちといつても過言ではないであろう。「類は友を呼ぶ」といったところである。今展は、新山 清の子息でありコスモスインターナショナルとギャラリーコスモスを運営する新山洋一のコーディネートによって実現した注目の写真展であった。

## 新山 清のプロフィール

新山 清(1911-1969)は、愛媛県に生まれ、東京電気専門学校卒業後、1935(昭和10)年に理化学研究所に入社し、1936年パーレット6.3付きで写真にめざめる。すぐにパーレット同人会へ入り、写真に情熱を傾ける。写真雑誌のフォトコンテストをはじめ、大日本サロン、アシヤサロン、国画展、国際写真サロン、パーレット同人会、研展(東京写真研究会主催)、東京美術協会展、全関西サロン、アメリカ・ポピュラーフォトコンテスト、ロンドンおよびパリサロン、二科展などにことごとく入選しアマチュア写真家として頭角を現す。その後、全日本写真連盟役員、東京写真研究会審査委員などとして全国アマチュアの指導にも活躍する。

1958(昭和33)年、旭光学に入社し、東京サービスセンター所長として多くの第一線写真家たちと親交を持つ。しかし、1969(昭和44)年5月、東京で精神異常者の兇刃に倒れ



会場入口の写真展案内



ギャラリーコスモスでの展示

急逝する。

この略歴からすると、単なるフォトコンテストあらしのアマチュア作家と思われるかも知れないが、それはとんでもない。急逝した年に、濱谷浩をはじめ植田正治や緑川洋一らの後押しで新山清遺作展が開催され、遺作集『木石の詩』が出版さ



新山清（遺影）1969年、徐清波撮影

れたことからも、その人柄の良さと、数多くの優れた作品を遺されていたことが推察される。事実、その後、子息である新山洋一が発行した2冊の写真集『新山清の世界 vol.1 パーレット時代 1937～1952』(2008年11月、日本カメラ社)と『新山清の世界 vol.2 ソルントン時代 1947～1969』(2010年11月、コスモスインターナショナル)がそれを証明している。

### 新山清作品の魅力

新山清作品の素晴らしいところは、空間処理の巧みさによる力強い構成力、造形性にあるだろう。風景をはじめ、人物、樹木、石などあらゆるものに好奇の眼を向けて、極めて個性的で瑞々しい作品に仕上げている。写真家ハービー・山口は、写真集『新山清の世界 vol.2 ソルントン時代 1947～1969』に「新山清の作品を見ると、我々のこころは素直になる。それは新山清が素直な人間であり、その作品も素直だからである。構図、光のコントロール、表情の掴み方、そのすべてが素直な写真的センスに裏打ちされている。写真表現がますます多様化する現代にあって、『基本に立ち帰れ!』と新山清は叫んでいるのではないだろうか。」と一文を寄せてい



いずれも新山清と親交のあった「銀龍社を偲ぶ会」の面々。前列右から樋口忠男、石井幸之助、秋山庄太郎、桑原甲子雄、田辺良雄、菊地俊吉、中村立行、梶原高男、後列右より緑川洋一、赤穂英一、笛本恒子、赤穂千代、植田正治、佐伯啓三郎（『樋口忠男遺作集 [昭和イメージ劇場]』より）

る。

新山清作品は、1950年代の初め、ドイツの主観主義写真的提唱者オットー・シュタイナート（シュタイネルト）の目に止まり、いち早くヨーロッパに紹介されている。新山洋一によれば、現在もドイツのギャラリーから引き合いがあるという。日本独特の風情を捉えながらも、その作品からあふれる温かみ、ユーモアといったものは万国共通に感じ取られるものなのだ。

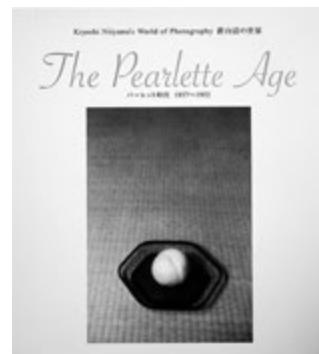
ちなみに主観主義写真については、「『サンケイカメラ』は、55年から56年にかけて、カメラ雑誌のなかでもこの動向を積極的にとりあげ、56年末には同誌主催の『国際主観主義写真展』が、東京、日本橋高島屋で開催されています。この展覧会は、シュタイネルトが選んだ14カ国、75名の作品に、瀧口修造、阿部展也、樋口忠男、本庄光郎ら約40名によって結成された日本主観主義写真連盟の会員の作品、奈良原一高、今井寿恵、一村哲也、石元泰博、植田正治、後藤啓一郎、大辻清司らの作品が加えられたものでした。」（『戦後日本写真史 第3回／nikkor club #167 1999 early spring : 102-105 This text by 上野修 ueno osamu』）とある。

このときの写真展図録を見ると、池五郎「サンタクロース」、石元泰博「無題」とか奈良原一高「樹」、植田正治「ナガチープC.」など斬新な作品が並ぶが、「主観主義写真」と言っても特段に法則があるわけではなく、既存の客観主義にとらわれることなく、あくまでも主体的に取り組んだ作品、という意味合いのようである。

戦前、戦中、戦後に撮影された新山清作品は、パーカットにはじまりソルントン時代を経て晩年の35ミリ一眼レフまで、いまだ発表されていない作品もあって膨大な数に昇る。これからもその個性的な魅力に触れる機会はまだまだありそうである。

そして、これからも年に1回は「新山清と時代を共有した写真家の写真展」を開催するというから、今後も大いに注目される。

（文中敬称略）



写真集『新山清の世界 vol.1 パーレット時代 1937～1952』(2008年11月、日本カメラ社、定価3,600円+税)



写真集『新山清の世界 vol.2 ソルントン時代 1947～1969』(2010年11月、コスモスインターナショナル、定価3,600円+税)

# 第30回を迎えた「東川町国際写真フェスティバル」

## ～写真文化の発信が地域に根付く～

北海道東川町で、2014年8月5日(火)から9月3日(水)にかけて、第30回目となる「東川町国際写真フェスティバル」(通称「東川町フォトフェスタ」と「写真の町東川賞」)(通称「東川賞」)の授賞式が開催された。

まずは東川町と、同町で毎年開催されてきた東川町国際写真フェスティバルについて紹介したい。

旭川市からおよそ15kmの距離にあり、東には大雪山系の旭岳や天人峠を擁する東川町は、人口7,900人余り(2014年6月現在)の小規模な町である。農業や木工業を産業の中心とする同町にとって、町おこしが長年の課題であったことは想像に難くない。

そんな同町が着目したのが「写真」である。さまざまな機会で被写体となってきた大雪山国立公園の大自然の美しさを後世につなぐとともに、写真文化に取り組むことで独自の文化や伝統を育てて、世界へと通じる街づくり、生活作り、人づくりをしようとの想いから、1985年6月1日(土)に「写真の町宣言」を行った。

今でこそ写真やアートをテーマに町おこしを進めようとする自治体も増えてきたが、30年もの歴史を持つのは国内では東川町が唯一であろう。

当時の「写真の町宣言」には力強く次のように記されている。

東川町に住むわたくしたちは、その素晴らしい感動をかたちづくるために四季折々に別世界を創造し植物や動物たちが息づく、雄大な自然環境と、風光明媚な景観を未来永劫に保ち、先人たちから受け継ぎ、共に培つた、美しい風土と、豊かな心をさらに育み、この恵まれた大地に、世界の人々に開かれた町、心のこもった“写真映りのよい”町の創造をめざします。

そして、今、ここに、世界に向け、東川町「写真の町」誕



東川町国際写真フェスティバルおよび写真甲子園の会場のひとつとなった東川町農村環境改善センター。

生を宣言します。

写真の町としての取り組みのひとつが東川町国際写真フェスティバルの開催である。写真の町宣言から間もない1985年8月24日(土)から9月30日(月)にかけて第1回を開催するとともに、写真の町東川賞を設定し内外の写真家を表彰した。

このときの写真の町東川賞は、海外作家賞が米国のジョール・スタンフェルド(Joel Sternfeld)氏、国内作家賞が須田一政氏(JPS会員)と田原桂一氏、特別作家賞が志賀芳彦氏(JPS会員)にそれぞれ贈られた(新人作家賞は該当者なし)。

1989年には写真活動の拠点となる東川町文化ギャラリーがオープン。1994年からは同町と周辺を舞台にした「写真甲子園」(全国高等学校写真選手権大会)が東川町国際写真フェスティバルと同時期に開催されるようになり、テレビの特集番組などを通じて、東川町の存在と写真の町としての取り組みが広く知られるようになっていた。

さらに2014年3月6日(木)には、30年間に亘る写真文化の積み重ねを踏まえ、「写す、残す、伝える」心を大切にした写真文化の中心地として写真文化と世界の人々を繋ぐことを目的に、「写真文化首都宣言」を行っている。

### ◆東川賞はプラーネン氏や野口里佳氏らが受賞

さて、8月5日(火)から9月3日(水)に亘って開催された第30回の東川町国際写真フェスティバルで、メインとなったのが8月9日(土)および10日(日)の二日間である。

まず、8月9日の14時からは、東川町農村環境改善



東川賞の作品展示などが行われた東川町文化ギャラリー。通路両脇は「ストリートギャラリー展」。

センター・大ホールにて、写真の町東川賞の授賞式が行われた。本年は、海外作家賞がフィンランドのヨルマ・プーラネン(Jorma Puranen)氏に、国内作家賞が野口里佳氏に、新人作家賞が石塚元太良氏に、特別作家賞が酒井広司氏(JPS会員)に、地域に根ざした写真家を顕彰する飛弾野数右衛門賞が故・増山たづ子氏に、それぞれ贈られた。

授賞式では、町立東川中学校3年生の米田絢美(あやみ)さんによって「写真文化首都宣言」が朗読されたのち、主催者を代表して松岡市郎東川町長が「写真が持つ力を通じて、世界の人々の幸せに貢献できるような活動を続けていきたい」と挨拶した。

続いて、来賓として招かれた当協会の田沼武能会長が登壇し、「継続は力なりと言われるように、30年の活動を通じて写真の町といえば東川町というほどに定着してきた。これからも東川町のますますの発展と写真文化への貢献を期待したい」との祝辞を述べた。

次に、写真の町東川賞の審査会委員を代表して写真家の佐藤時啓(ときひろ)氏から本年の選考に関する説明が行われたのち、最後にそれぞれの受賞者に対して表彰と副賞の贈呈が行われた。

同日15時には東川町文化ギャラリー正面で受賞作家作品展のテープカットが行われ、ギャラリーオープン後は多くの来場者が足を運び、それぞれの受賞作品を鑑賞した。

### ◆充実したポートフォリオレビューも人気

東川町国際写真フェスティバルではさまざまなイベントが並行して行われるが、なかでもポートフォリオレビューや作品アドバイスの場が年々充実を遂げている。

今年は、「ニコンユーナ21 ポートフォリオレビュー」、「パリデビューチャレンジ2014」、「みちくさポート寺子屋」、「道の駅・公開ポートフォリオレビュー」、「街撮り撮影会 講評」、「赤レンガ・公開ポートフォリオオーディション」などが行われた。

### 町東川賞授賞式・東川賞受賞式



第30回写真の町東川賞の授賞式で来賓として祝辞を述べる(公社)日本写真家協会会長田沼武能氏。



東川町文化ギャラリー前で行われた受賞作家作品展のテープカット。左から、松岡市郎東川町長、故・増山たづ子さんの代理人野辺博子、酒井広司、ヨルマ・プーラネン、野口里佳、石塚元太良、佐藤時啓の各氏。

このうち、赤レンガ倉庫で開催された「赤レンガ・公開ポートフォリオオーディション」は、事前選考された20名のポートフォリオを8月9日の一次審査で5名に絞ったのち、翌10日に合評式の公開オーディションを行うというユニークなレビューである。グランプリと準グランプリ受賞者には協賛ギャラリーでの写真展開催などが副賞として贈られる。



特別作家賞を受賞したJPS会員の酒井広司氏(札幌市在住)

また、「パリデビューチャレンジ2014」は、2014年11月にフランスのパリで開催される「foto fever Paris 2014」(予定)で、協賛ギャラリープースでの写真販売を目指す写真家の発掘を目的とした公開審査会である。

単なるアドバイスではなく、アウトプットを見据えたこうした機会が増えてきたことは喜ばしい。

写真展としては、東川町文化ギャラリー前広場を使った「ストリートギャラリー展」、運営ボランティアのOG・OBによる「旧秋山邸アートプロジェクト」、「エプソンフォトグランプリ受賞者作品展」、「公開ポートフォリオオーディション歴代グランプリ受賞者作品展」、第一線で活躍する写真家や評論家の合評が受けられるとともに、優れた作品は日本カメラ誌に掲載される「写真インディペンデンス展」などが開催。そのほかのイベントも盛りだくさんであった。



赤レンガ倉庫で開催された「赤レンガ・公開ポートフォリオオーディション」の一次審査の様子。

8月9日と10日には東川町恒例の夏祭りである「どんとこい祭り」も行われ、会場となった羽衣公園とその周辺は町民や近隣の人で賑わいを見せた。本戦を終えて緊張から解放された写真甲子園の出場生徒らもリラックスした表情で祭りを楽しんでいた。

#### ◆町ぐるみのサポートのもと成功裏に終了

8月10日の17時30分からは東川農村環境改善センターにて、さよならパーティーが開催され、町民の皆さんがあなづから作った郷土料理が振る舞われるとともに、「ストリートギャラリー展」や「赤レンガ・公開ポートフォリオオーディション」などの表彰式が行われた。前者は「写真の町ひがしかわ写真少年団」がグランプリに、後者はロシアのエレーナ・トゥタチコワ(Elena Tutatchikova)氏がグランプリに輝いた。

### 「写真甲子園 2014」

頂点へと駆け上がり、3人のフォトストーリー！

東川町のもう一つのイベントである全国高等学校写真選手権大会(通称「写真甲子園」)は今年で21回目を迎える。8月5日(火)の開会式から8日(金)の表彰式・閉会式までの4日間に亘って公開イベントが行われた。なお大会の開催目的は、「全国の高校写真部・サークルに新しい活動の場や目標、そして出会い・交流の機会を提供し、高校生らしい創造性や感受性の育成と活動の向上を以て、学校生活の充実と特別活動の振興に寄与すること」と定められている。

大会の要綱は次のとおりである。

1. 全国の高校の写真部やサークルから共同制作による作品(組写真)を募集し、作品審査による初戦を行い、優れた作品を寄せたブロック代表校を選抜する。
2. 各代表校から3名の代表生徒と担当顧問が北海道に招かれ、1市4町に広がるフィールドを舞台に開催される本戦に出場する。
3. 本戦大会では、東川町、美瑛町、上富良野町、東神楽町、旭川市のうち、指定された撮影フィールドを舞台



8月10日に行われた「写真インディペンデンス展」の合評の集い。

東川町では写真の町課を町役場に設けて行政として写真文化の支援を行っているほか、町民の理解も進み、東川町国際写真フェスティバルや写真甲子園を町ぐるみで盛り上げようとの雰囲気が強く感じられる。同町の取り組みと東川町国際写真フェスティバルのさらなる発展に期待したい。

また、読者諸氏には、機会があれば東川町国際写真フェスティバルを訪れてみることをお勧めしたい。

なお、今回の取材では、写真の町推進室室長である窪田昭仁氏をはじめとする東川町役場の皆さんや、東川町国際写真フェスティバルの実行委員を毎年務めている浅野久男氏(JPS会員)ほかに大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

(取材・撮影／出版広報委員：関 行宏)

に、学校対抗のチーム戦が行われる。大会の3日間それぞれで与えられるテーマに対して、自然や風土や暮らしなどを各チームがデジタルカメラで撮影し、作品をセレクトして提出。公開審査によって優勝校ほか各賞が決定される。

初戦は、過去最高であった昨年を1校下回ったものの、2年連続で500校を超える521校から高校生の思いを乗せた力作が寄せられ、初戦審査会にて全国8ブ



ファイナル公開審査会での1コマ、2校ずつ作品をスライド上映し審査員の講評を受ける。

ロックから代表18校が選考された。

今年は本戦代表校18校中8校が初出場であり、残る10校は数年ぶりの出場が6校、連続出場が4校となつた。また初めての試みとして、タイと台湾から高校生を招待し、写真甲子園を体験してもらうとともに、同世代にあたる日本の高校生との交流が企画された。

### ◆本戦出場～優勝校決定の流れ

本戦は8月6日(水)のファーストステージ撮影～発表：ファースト公開審査会、7日(木)のセカンドステージ撮影～発表：セカンド公開審査会、そして8日(金)のファイナルステージ撮影～発表：ファイナル公開審査会を行い、3回の審査会の合計ポイントにより優勝校が決定される。各校のチームは8月4日(月)に東川町に入り、5日(火)には開会式やオリエンテーションが行われた。なお大会期間中には2回のホームステイが行われ、町民との交流も図られた。

本戦初日となる8月6日のファースト撮影ステージ1&2では、朝から13時45分までが撮影時間に指定された。撮影フィールドは美瑛町～上富良野町の田園エリアで、テーマは「北海道」である。この日の天候は曇り。各チーム3名の選手がテーマに沿って組写真での発表を考えながら撮影を行っていく。15時からの作品セレクト作業では撮影した膨大なカットの中から8点の組写真をセレクトし、18時30分からの公開審査会に臨む。

2日目の8月7日も初日と同様のスケジュールで、セカンドステージの撮影を行った。撮影フィールドは旭川市～東神楽町の都市エリアが指定され、テーマは「夏」である。セカンド公開審査会はファイナル公開審査会へと続く重要なステージだ。ファースト審査会での評論を踏まえながら、テーマへの向き合い方が優勝への大切なステップとなる。

大会3日目はファイナルステージの撮影である。撮影フィールドには東川町内が指定され、10時15分までに撮影を終えたのち、セレクトと作品提出を行って、14時45分からのファイナル公開審査会に臨むことに



優勝(北海道知事賞)の中部・東海ブロック代表 愛知県立津島東高等学校の選手たち。

なる。ファイナルでは「ときめき」という難しいテーマが設定された。ファイナル公開審査会は今までの作品の評価も踏まえた最後の審査会だ。

8月7・8日の2日間は台風11号の影響で雨模様の天候となり、選手達には過酷な状況での撮影であったが、ファイナル公開審査会が行われる8日午後には青空が臨めるほどに天気が回復した。

なお、本戦で使用できる撮影機材は大会支給のものに制限されるのも写真甲子園の特徴である。大会特別協賛のキヤノンからはEOS Kiss X7に各種交換レンズとスピードライトが、さらに、協賛メーカーであるサンディスクからはSDカードが、マンフロットからは三脚がそれぞれ提供された。また、セレクト用のパソコンやプリンターに関してもすべての学校に同一の機材が貸与された。

ファイナル公開審査会終了から1時間後の18時30分、大会のクライマックスである写真甲子園2014の表彰式・閉会式が行われ、敢闘賞11校、優秀賞5校、準優勝1校の発表の後、立木義浩審査委員長から今年度の優勝校(北海道知事賞)として愛知県立津島東高等学校が発表された。他校の中には優勝を逃し号泣する選手達もいたが、立木審査委員長から優しい言葉をかけられていた。各審査員からはそれぞれの写真についての講評があった。

翌9日(土)には、選手向けに高校生写真セミナー等が開催され、普段の創作活動のためになるポイントや着眼点など、写真甲子園でしか受けられないセミナーを体験し、最終日に映画「東京シャッターガール」の上映会を以って一連のイベントは終了した。

なお、大会の運営に関しては、過去の本戦出場経験者で高校を卒業したOG・OBや、近隣の高校の現役写真部員など、多くのボランティアスタッフを募って出場校をサポートする方式を探っており、東川町国際写真フェスティバルの運営と同様に、経験者によるボランティア運営がとても上手くいっている印象であった。

(取材・撮影／常務理事：小池良幸)



表彰式・閉会式で特別賞の賞品として地元産の米俵を受け取り、思わずよろけてしまう受賞者たち。

# 「日本写真保存センター」調査活動報告(16)

多彩な人物写真 —収集・保存した写真原板から—

松本 徳彦(専務理事)

写真を撮る動機はと聞くと、多くの人が人物、それも身近の人を撮ることから始めたという。ある著名な写真家は好きな女性にラブレターひとつ出せなかつたが、“写真を撮らせて”と言って数枚撮り、興奮さめやらぬ内に現像しプリントした。露光した印画紙を現像液に浸し、じわっと浮かび上がつてくる彼女のなんと美しかったことかと目を細め、動機とは案外そんなものであるという。

膨大な数の写真が日々撮られ蓄積されている。その内の相当な部分に人物写真がある。古くは著名人が多かつたが、今日では万人が被写体となっている。写真保存センターが収集している写真原板のなかにも人物像が無数にある。その収集基準を決めるのは大変難しいが、一応保存センターでは、時代を彩つたさまざまな人物写真を集めている。なにも有名人とは限らない。市井の人が写つたものもある。その時代がどんな様相であったかが判る写真を集めていると言つていい。

## 中島健蔵 写真家にない視点で人物表現を…

フランス文学者のヴァレリーやボードレールの翻訳をはじめ評伝『アンドレ・ジド』などで知られる仏文学者の中島健蔵(1903～1979年)が、写真を撮っていたことを知る人は余り多くはない。その中島が名だたる著名な文学者や芸術家、交友した文化人を数多く撮っている。写真家も木村伊兵衛、渡辺義雄、土門拳らをパーティーの席などでスナップしている。誰も写真家と意識していないせいか、ごく自然な普段の顔で撮られている。標準レンズを付けたライカをポケットから取り出しパッパと撮り、それが相当な量の人物像となっているから凄い。その残された写真原板が写真保存センターに寄贈されている。

中島は木村、渡辺両会長時代にはJPSの会合に度々参加され、盃を交わした先輩たちも多いはず。なかでも日中文化交流の架け橋としての活動では大変お世話になった。

写真は日大芸術学部の創設に関わった金丸重嶺教授と木村の屈託のない表情描写は人物表現の極みである。1958年6月11日、日本写真協会の「写真的日」祝賀会を終えて、路地に出たところを捉えたものである。



## 杵島 隆 時代を先読みする才覚が…

戦後いち早く復刊したアルス『カメラ』1950年5月号の月例で、選者の土門拳に激賞され、特選に選ばれた「老婆」でデビューした杵島隆(1920～2011)はアメリカ、カリフォルニアで生まれ、3歳のとき帰国し母方の杵島家の養子となった。「老婆」は自分の祖母をクローズアップしたもので、そのしわくちゃな貌とソラナイズした異様に光る眼は、女の一生を象徴しているかのようだ。1951年創立した広告プロダクションのライト・パブリシティーの写真部に入社し、広告写真の先駆けとして活躍する。ニッポンビール、東洋レーヨン、モノゲンなどの広告で頭角を現わし朝日広告賞を受ける。富士フィルムのコンテストでも「女の顔」が最優秀賞を受けるなど、その斬新な表現が高く評価された。そうしたなか、話題をさらつたのが「裸」であった。皇居桜田門や銀座四丁目、丸の内ビル街でのヌード撮影は警視庁の取り調べを受けるなど、その意表を突く表現行為が関心を呼んだ。

その後、広告写真から手を引いた杵島は『蘭』や『歌舞伎』の豪華写真集を発表するなど時代を先読みする才覚があった。



## 吉岡專造 個性を巧みなカメラワークで捉える…

戦後のわが国の復興と独立に邁進した、硬骨のワンマン首相と呼ばれた吉田茂を1951年のサンフランシスコ講和条約調印式から晩年までの17年間を撮り続けたのが、朝日新聞社出版写真部長の吉岡專造(1916

～2005年)である。吉田は国会で食い下がる取材カメラマンにコップの水をかけたり、予算委員会で野党議員に「バカヤロー」と罵声を浴びせて総辞職するなど、強烈な個性の持ち主であったが、巧みなジョークや Wittで衆人から愛される人でもあった。葉巻をくわえ周囲を威圧する風貌からは

「写真嫌い」とまで言われていたが、吉岡だけには相好を崩して、たびたび大磯の自宅に招き入れて撮影が行われ、1967年満89歳の折に写真集『吉田茂』を朝日新聞社から上梓した。表紙に「九十歳を迎えた昭和の元勲」と書かれた帯に、吉田はご満悦であったという。

吉岡は長男真司の誕生からの1年を集成した写真集『人間零歳』がある。ほかに『吹上の自然』、『素顔の昭和天皇』などの豪華写真集がある。写真は吉田茂、大磯の自邸で写す。1961年5月30日。



### 野上 透 ジャーナリストイックな視点で…

日大芸術学部を卒業した根岸秀廸(1935～2002年)は、1958年4月講談社に入社し写真部に配属された。ほどなく文芸雑誌の『群像』で文士の写真を撮ることになる。1959年『週刊現代』が創刊され、グラビア担当になり人物やルポルタージュを撮影するが、会社の規定で本名での氏名表示ができなく、野上透として活動することになる。7年後の1964年退社しフリーランスとなり、講談社の『週刊現代』『日本』『われらの文学』『現代の文学』などで文士のポートレートを撮る。文士は個性的で近寄りがたい人が多かったが、生真面目さと上野育ちの屈託のない人柄が好かれ、幾つもの文芸誌や全集での仕事をこなしてきた。人物の特徴や印象を手堅く捉え、文士だけでなく経済人や文化人など幅広い人物像で誌面を飾っていた。



文士の個性的で近寄りがたい人が多かったが、生真面目さと上野育ちの屈託のない人柄が好かれ、幾つもの文芸誌や全集での仕事をこなしてきた。人物の特徴や印象を手堅く捉え、文士だけでなく経済人や文化人など幅広い人物像で誌面を飾っていた。

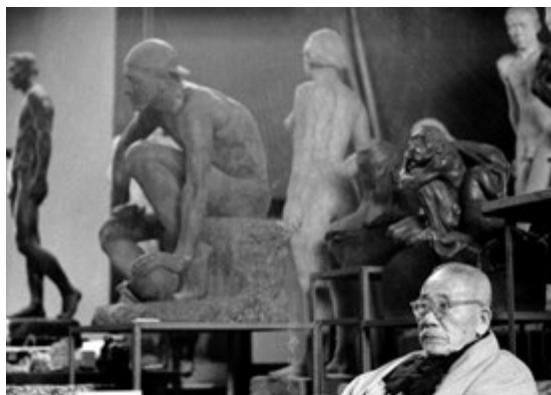
学生時代から野上の写真はどれもみな黒々とプリントされ個性的であった。『週刊現代』の初代編集長大久保房男は、彼の黒々とした調子について、写真のもつ深遠な意味合いだけでなく、社会の風潮や時代の影を読み込んでの印象と見ることもでき、鑑賞者に語りかけているようだ、と評価していた。この三島由紀夫は1970年7月6日、自宅玄関前で撮影。この年11月25日、市ヶ谷の陸上自衛隊東部方面総監部で盾の会の仲間と自決する。

### 石松健男 印象を繊細な眼差しで…

大分合同新聞の新年特集号で郷土出身の彫刻家朝倉文夫(1883～1964)を取材するために、石松健男(1936～2008)は1962年12月初旬、台東区谷中にある自宅兼アトリエ(現在は朝倉彫塑館)を訪ねた。初対面の朝倉は和服姿でアトリエに招き入れ、作品を背景に落ち着いた口調で郷土のことや制作過程の彫像について説明をした。その時の印象があまりに強烈で、石松は魅了されたという。この1日だけでは到底撮影しきれない感じ、日常生活も撮らせて欲しいとお願いしたところ、どうぞと快く許され都合3日間通い詰めた。

アトリエで作品と対峙する朝倉の眼光の鋭さ、粘土をこねる、石膏を削る、その手さばきの力強さを次々と撮影していく。一段落しほっとした瞬間や、椅子に深々と座って気持ちよさそうに煙草を吸う姿に人間味を感じて、180カットもの写真を撮っている。今となっては知る由もない晩年の朝倉の日常が記録されていた。

石松は日大芸術学部を1958年に卒業し、2年間肖像写真家の阿部昭二のもとで人物撮影の手ほどきを受け、大分合同新聞の東京支社で写真取材を担当する。当時前衛と言われた現代美術家集団のネオダダイズム作家たちの街頭パフォーマンスや作品制作の場を撮影する。映画監督吉田喜重の「煉獄エロイカ」のスチール撮影、アキコ・カンドのモダンダンス、花柳幻舟の創作舞踊など時代を先取りするアーティストたちを撮り続けたことで知られている。写真はアトリエで休む朝倉文夫 1962年12月7日。



## 著作権研究（連載 32）

# 出版者の権利問題と著作権法改正について ～出版に関する新たな契約社会の幕開け～

瀬尾太一（日本写真著作権協会 常務理事・JPS 著作権委員）

### ■はじめに

著作権法は、ほぼ毎年、細部について改正が行われていますが、2014年春の通常国会では、大きな改正が行われました。これは写真分野にも関係があり、また、強い影響が予想される改正です。

この改正には二つのポイントがありますが、一つは条約による実演に関しての規定の整備ですので、今回は触れません。今回、テーマとするのは、電子書籍に関する出版権についての改正です。これは電子出版の普及促進、海賊版対策など、最近の状況に対応するための改正となります。ただ、この問題の発端はかなり以前にさかのぼり、出版業界積年の想いに基づいた改正とも言えます。この法改正をその基本的な部分から順を追って説明し、また写真家を始めとした著作者に及ぼす影響や現時点での留意点などを解説していきたいと思います。

### ■どのような改正だったのか

今回の改正を一口で言ってしまうと、これまで紙の出版物にしか適用できなかった出版権を、電子書籍にも適用可能とした、ということです。これだけですと、何だ、当たり前のことじゃないか、と言われそうですが、実は電子書籍と一口で言っても、まずその定義すらはっきりしておらず、ソフトウェアとの区別すら難しいものです。たとえば、一昔前のマルチメディア・コンテンツのように、書籍の画面を表示しながら、背景に音楽を流したら、これは電子出版なのか、ソフトウェアなのか、こんな単純なものすら、分野わけすることが簡単ではありません。そして、ソフトウェアには出版権がなく、書籍にはあります。では、この権利の対象は、いったい何なのだろう…。立法過程においては、決して容易ではない問題が山積していたのです。

このような複雑な議論を、著作権法学者の先生方、知財弁護士の皆さん、そしてもちろん出版関係者と著作権者が非常に集中的な議論を重ねた上で到達したのが今回の法改正になります。この結果として、生まれたのが、出版権の電子書籍対応です。そして今回の法改正は、一般的に言われるような「電子出版権」の創設ではなく、あくまで旧来の出版権を拡張した、ということにポイントがあります。新たに電子出版権を創設せず、旧来の出版

権拡張での対応は、出版界が最後までこのような形での改正を強く要望したことに基づきます。では、なぜわかりやすい電子出版権の創設ではなく、出版権の拡張にこだわったのか、またそこにこだわる意味とはなにか、実はそこに出版業界の10数年にわたる過去からの強い要望があるのです。

### ■出版界の要望

平成2年、文化庁の第8小委員会から時の著作権審議会に報告書が提出されました。これは当時、複製機器の普及発達が目覚しく、コピー機による出版物の複写が大量に増えてゆく中で、出版者にも権利が必要であるとの要望に基づいて検討を重ねてきた結論です。出版者の権利は一般的に版面権と呼ばれ、著作隣接権として肯定的な結論が出されました。しかし、その後、立法過程での議論において、反対論も多く、結局、立法にはいたりませんでしたが、このときの議論は、当時、第4小委員会での議論から進歩していた複写に関する集中処理にも影響を与え、日本複写権センター<sup>(1)</sup>の業務開始につながります。

音楽分野などでは、レコード業者が隣接権として一定の権利を持っています。しかし、出版業界においては、いくら出版者が書籍を発行しても、その行為に権利は生じません。出版権設定契約を行うことにより、初めて権利が生じます。このような環境の中、出版業界は出版権設定から一歩進んだ、自然発的に生じる隣接権を強く要望し続けてきました。

しかし、一方で自分の著作物を出版したとたん、その版面を根拠に隣接権が生じるとすると、著作者の権利とぶつかる場面が出てくる可能性があります。自分の著作物なのに、自分だけの意思では随意にできない、という問題です。これは単純な問題ではなく、学術利用を中心にさまざまなケースが考えられ、著作者と出版者、そして経団連を中心とする利用者はその利害関係を調整することができず、出版者の権利は実現されませんでした。

今回も、三省懇談会<sup>(2)</sup>から始まった一連の動きは、この過去の隣接権の創設獲得という流れの延長線上にあります。そして、再び、出版業界は隣接権獲得を目指して、活動を始めました。平成2年当時はコピー機の普及

がその権利創設の理由だったのですが、今回は電子書籍の普及促進、違法対策を理由としていました。つまり、今回の電子出版に対する法改正要望は、過去からの出版業界の悲願である、隣接権獲得を何とか実現しようとする運動だったといえるでしょう。

## ■法改正の内容

しかし、そのような出版業界の要望は、さまざまな議論の末、隣接権の創設については、現時点で難しいとの結論となり、さらに出版権の改正によって実現しようという動きになりました。すべての書籍に自然発生的に生じる隣接権とは異なり、契約によって初めて有効となる出版権での検討となつたのです。その改定についても、出版業界と著作者、利用者の主張は、なお大きくかけ離れていたのですが、最終的にはミニマムな範囲での改正で合意が整い、今回の立法にいたつたのです。

では、その改正の内容について、特筆すべき部分はどこにあるのでしょうか。

まず、電子に関する出版権を設定することで、紙で出版した出版者が、その電子化の権利を留保できるということがあります。これによって、苦労して紙で出版したものを、著作者の意向によって、別の出版者に電子化されてしまうという問題を解消しました。また、海賊版対策についても、この権利を設定することで、出版者が直接対応できるようになったのです。今後は著作者と出版者が協力し、より強い権利を持って、利用促進を図ったり海賊版に対抗していくことができるでしょう。

## ■写真家にとっての出版権

では、実際に写真家にとって、どのような点が変更され、また注意することがあるでしょうか。

まず、この法改正の基本は、著作者と出版者の契約によって成り立つ、ということです。つまり、契約がこれまで以上に重要になってきます。写真に限らず、著作者はあまり契約をせずに仕事を受注する傾向がありました。出版社も口約束の中で発注することが通常化していたという事実もあります。しかし、これからは電子化など、複数の利用に対して契約を行う場合が多く、契約によって仕事を行うことが必須になってきたといえるでしょう。

ただし、現在の問題点の一つに、契約書の難解さが挙げられます。出版社の法務担当者から回ってくる定型の出版契約書は、通常、非常に難解で何を言っているのか理解しがたい場合が多くあります。これは電子に関する契約を含んでいるとより難しくなり、用語ですら、ほとんどわからずに署名、契約をしてしまう場合があるでしょう。これはその契約書を持参する担当編集者にしても同様で、著作者と編集者、2人そろって、何を規定してあるのだろう…と首をひねりつつ、とりあえず契約してしま

う、という事すらあると聞きます。これからは平易な文面、書式で契約書を作ることが重要です。これは著作者、もしくは著作者団体などでも、まずは努力するべきですし、各企業の法務もそのように心がけていただきたい問題です。

次に重要なことは、安易な譲渡契約が増えてくる可能性がある、ということです。もちろん、双方が納得の上で譲渡契約を行うことは否定できませんが、写真家にとっては自分の写真が蓄積してゆき、将来的に個人独特のデータベースを形成することが、職業上、必須です。これを譲渡してしまうと、自分のデータベースとしての蓄積ができず、結果、高齢になったときに、収入の道が断たれることにもなりかねません。独占使用や電子化を含めた使用、また、一定期間の期限付き譲渡など、さまざまな形態の契約が考えられますが、少なくとも写真家は、将来的に自分の写真著作権を保持できるように交渉するべきだと思います。また、その為に、JPSでは契約の雛形も用意していますので、ぜひ活用して下さい。

## ■最後に

来年、2015年1月1日に施行される著作権法改正について、その過去の歴史からお話をしました。とかく、出版社と著作者は対立関係で捉えられがちですし、実際、利益相反することが多々あることも事実です。しかし、ここで留意していただきたいのは、写真家も出版業界の一部であり、その業界の中で足を引っ張り合ってはいけない、ということです。もちろん、守るべきところは守りますが、譲るべきものは譲る、その中でよい契約が生まれてくるのでしょう。契約は闘争ではありません。相互理解です。相互理解に基づいて、業界自体が発展し行くような関係、出版文化がこれからも継承されて、創造サイクルをまわしてゆく努力、それらがこれから本当に必要になってくる時代です。今回の著作権法改正は、一つの大きな時代の区切りだと思います。ぜひ、皆さん個々の努力を積み重ねて、そして、個人では困難なことについては団体が対応して、よりよい創作環境と出版文化が実現することを願っております。

\*1 日本複写権センター

現在の公益社団法人日本複製権センター。当時は学術関係者と出版関係者が呼びかけ、著作者団体が加わって創設。経団連との連携もあって業務を開始した。その後、新聞分野も加わって現在に至る。

\*2 三省懇談会

総務省、文部科学省及び経済産業省が、デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に向けた検討を行ったために平成22年3月17日から開催した「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」のこと。

計3回の当該懇談会並びにその下に設置された計6回の「出版物の利活用の在り方にに関するワーキングチーム」及び計7回の「技術に関するワーキングチーム」における検討結果を踏まえ、報告が取りまとめられました。

ここで出版業界から出版社に隣接権を求める要望が出され、今後の進歩につながっていきます。

### シグマ

#### 新デジタルカメラ dp シリーズのご紹介



株式会社シグマは新開発 Foveon X3 ダイレクトイメージセンサー（ジエネレーションネーム“Quattro”）を搭載した高画質コンパクトデジタルカメラ「SIGMA dp1 Quattro」を発売いたしました。

フィルムライクな層構造ですべての光情報を素直に取り込める世界唯一のセンサー、Foveon。垂直色分離方式センサーが生み出す圧倒的に豊かな色の階調は、目で見る質感と同質の表現力を持ちます。

「SIGMA dp1 Quattro」は、Quattro センサーに最適化した高性能19mm F2.8広角レンズ(35mm版カメラ換算 28mm相当の画角)を搭載し、画面周辺部に至るまでセンサー能力を最大限に引き出します。

また、30mm F2.8 標準レンズ(35mm版カメラ換算 45mm相当の画角)を搭載した「SIGMA dp2 Quattro」を2014年6月に発売しております。

「SIGMA dp1 Quattro」の発売により、広角域の撮影は「SIGMA dp1 Quattro」、標準域の撮影は「SIGMA dp2 Quattro」と、撮影スタイルによって使い分けができると考えております。

株式会社シグマ  
マーケティング部 第2課  
担当:桑山輝明  
〒215-8530  
神奈川県川崎市麻生区栗木2-4-16  
TEL:044-989-7432  
FAX:044-989-7451  
<http://www.sigma-photo.co.jp>

### 堀内カラー

#### 2014 堀内カラーフォトコンテスト作品募集中

昨年度金賞「瀬戸の夕凪」岡 岩雄



今年で第6回を迎える堀内カラーフォトコンテストが作品を募集しています。「金賞 堀内カラー賞」は、賞金10万円とHCLフォトギャラリー新宿御苑での個展開催権を進呈、応募期間中は弊社ネット注文と各店頭注文で四ツ切・A4プリントキャンペーンによる割引価格をご利用いただけます。

#### 【募集要項】

●テーマ：<ノンジャンルの部>

<ネイチャーの部>

●応募締切：平成26年11月30日(日) 当日消印有効

●応募資格：アマチュア写真愛好家

●応募作品：サイズ/A4・四ツ切・ワイド四ツ切  
カラー・モノクロプリント(銀塩・インクジェット)

単写真のみ・複数応募可

●審査員：沼田早苗氏

応募資格がアマチュア写真愛好家となっていますので、会員皆様方の生徒さん達にお勧めいただけますようお願いいたします。

※詳細は <http://www.horiuchi-color.co.jp>

※応募先・お問合せ

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町  
2-6-14 (株)堀内カラー フォトコンテスト係

TEL:03-3295-1083 FAX:03-3295-1200  
※堀内カラー各店頭でも応募受付いたします。

### ピックカメラ

#### ピックカメラ池袋東口カメラ館8F PHOTO GALLERY オープンのお知らせ



この度、ピックカメラ池袋東口カメラ館8Fセミナールームをリニューアルし、BIC PHOTO GALLERYをオープンいたします。

日頃、写真セミナーなどのイベントを開催しておりますが、カメラ専門店として、より多くのお客様に写真を楽しんでいただくため、また写真の発表の場として、ご

利用いただけるよう、リニューアルいたしました。

今回、BIC PHOTO GALLERY オープン第1回目の写真展として、写真家の藤村大介氏による藤村大介写真展「美しき世界の黎明と逢魔時」を2014年9月23日～10月13日(月)に開催いたします。

以降も、BIC PHOTO GALLERYに関しては、今後、一般のお客様にも個展、グループ展などでもご利用いただけるよう開放する予定です。店舗内でのギャラリーのため、多数のお客様が来店されますので、より多くのお客様の写真の発表の場、写真をお楽しみいただぐ場としてご活用いただければと思います。



#### <『BIC Photo Gallery』概要>

○開催場所：ピックカメラ 池袋東口カメラ館 8階

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-1-3

○開館時間：AM10:00～PM9:00(年中無休)

○アクセス：JR、西武、東武、地下鉄各線 池袋駅35番出口すぐ

○問い合わせ先：TEL 03-3988-0002

### ニコンイメージング ジャパン

高品位画質とプロフェッショナルモデルに迫る本格仕様を、機動力の高い小型・軽量、薄型ボディーに凝縮したモデルデジタル一眼レフカメラ「ニコンD750」を発売



「D750」は、高品位画質とプロフェッショナルモデルに迫る本格仕様を、機動力の高い小型・軽量、薄型ボディーに凝縮したモデルです。ボディーを大幅に薄くしたことで深いグリップを実現し、抜群のホールド感を提供します。また、ニコンFXフォーマットモデルとして初めてチルト式液晶モニターとWi-Fi®機能を採用しています。

有効画素数 2432 万画素、新開発のニコン FX フォーマット CMOS センサーと画像処理エンジン「EXPEED 4」が、高品位画質をもたらします。炭素繊維複合素材（新素材※）とマグネシウム合金を併用したモノコック構造の採用やボディー内部構造のレイアウトの刷新により、高い強度と剛性を確保しながらも、小型・軽量化、薄型化を達成。しっかりとホールドできるグリップが機動力を強化しています。また、光量の少ないシーンでも手持ちで撮影できる高感度性能と低輝度対応 AF やプロフェッショナルモデルに迫る機能、性能を備えています。

アクティブな写真趣味層の、創造意欲と向上心に応えるニコン FX フォーマットの新モデルです。

※帝人株式会社の「Sereobo®（セリーボ）」を採用。カーボンファイバーを用いた新素材で、軽さと強度・剛性を両立しています。表面外観性にも優るために、モノコック構造を構成する外観カバー素材に適しています。

#### 発売概要

商品名 ニコンデジタル一眼レフカメラ「D750」

価格 オープンプライス

発売時期 2014 年9月25日

【製品に関するお問い合わせ】

ニコンカスタマーサポートセンター

ナビダイヤル TEL 0570-02-8000

## タムロン

「EISA アワード」9 年連続受賞。  
2 年連続 2 機種同時受賞を果たしました。



高倍率ズームレンズ「16-300mm F/3.5-6.3 Di II VC PZD MACRO (Model B016)」が『ヨーロピアン DSLR ズームレンズ 2014-2015』を、超望遠ズームレンズ「SP 150-600mm F/5-6.3 Di VC USD (Model A011)」が『ヨーロピアン DSLR 望遠ズームレンズ 2014-2015』を同時受賞いたしました。

当社レンズの EISA アワード受賞は今年度で 16 回目を数えますが、2006 年度より 9 年連続受賞の達成。しかも、昨年度に引き続き 2 機種同時受賞を成

し遂げました。

16-300mm F/3.5-6.3 Di II VC PZD MACRO の評価点は、超広角から超望遠域を 1 本のレンズに収めた 18.8 倍ズーム。手ブレ補正機構「VC」。39cm という最短撮影距離。長さ 10cm、重さ 540g というコンパクトさ。が挙げられました。SP 150-600mm F/5-6.3 Di VC USD については、手ブレ補正機構「VC」。超音波モーター「USD」。eBAND コーティングで光の反射を抑制。自然風景からスポーツまで幅広く活躍でき、素晴らしい画質をコストパフォーマンス良く提供しているところを評価されました。

今後とも、タムロンは高い評価をいただけるレンズを開発してまいります。何卒、タムロンレンズにご注目をいただけますようお願い致します。

タムロンレンズ お客様相談窓口

ナビダイヤル TEL 0570-03-7070

ナビダイヤルをご利用できない場合は TEL 048-684-9889 におかけください。

FAX でのお問い合わせは FAX 048-689-0538  
www.tamron.co.jp

## キヤノンマーケティング ジャパン

連写・AF 性能をさらに向上させた、  
APS-C フラッグシップ機  
“EOS 7D Mark II”を 11 月上旬より  
発売



“EOS 7D Mark II”は、最高約 10 コマ / 秒の高速連写と、EOS シリーズの中で最多の測距点数となるオールクロス 65 点 AF ※1 を備え、高速で複雑な動きをする被写体の決定的瞬間を捉える、卓越した動体撮影性能を備えた APS-C フラッグシップ機です。

さらに、被写体の顔や色を検知して追尾する EOS iTR AF と高精度に AF 追従する AI サーボ AF III により、高速連写とあわせて卓越した動体撮影性能を発揮します。

また、測距点やさまざまな情報を表示する「インテリジェントピューファインダー II」を新たに採用。ファインダーをのぞいたまま、さまざまな撮影設定が可能です。APS-C サイズ・約 2,020 万画素の新開発 CMOS センサーと映像エンジンを 2 基採用したデュアル

DIGIC6 により、静止画・動画ともに最高 ISO16000 ※2 の常用 ISO 感度を達成、低ノイズで階調豊かな描写を実現します。

また、進化した自動露出(AE)システムにより、被写体検知による高精度な露出制御だけでなく、フリッカ光源※3 を検知し、露出への影響を抑えた撮影も可能です。

さらに、ボディーはマグネシウム外装を採用した高い堅牢性に加え、優れた防塵・防滴性能も実現しています。

専用サイト <http://canon.jp/7dm2>

※1 裝着するレンズにより測距点数、クロス測距点数、デュアルクロス測距点数が変動

※2 静止画、動画の拡張感度はそれぞれ ISO51200、ISO25600

※3 光源の周期的な照度変化によって引き起こされる「ちらつき」の現象

#### 【製品に関するお問い合わせ】

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 キヤノンサロン課 安藤 尚之 TEL 03-3542-1831

#### 「賛助会員トピックス」貢への 寄稿ご案内

賛助会員トピックスは、J P S 賛助会員のトピックスやお知らせなどを掲載するページです。

お寄せいただいた原稿は、原文のまま掲載いたします。掲載は事務局に到着した順に掲載することを原則としております。

文章量は、タイトルと文で約 500 字。会社名、問い合わせ先担当者、連絡先等で、写真及びイラストは 1 点までお問い合わせ下さい。掲載料は無料です。

このページに掲載された記事についてのお問い合わせは、それぞれの賛助会員にご連絡をお願いいたします。

（構成／出版広報委員：伏見行介）

## 平成 25 年度小学生を対象とした「写真学習プログラム」報告

# 写真の楽しさ、面白さを伝える

-協力：富士フィルム(株)-

平成 17(2005)年より、レンズ付きフィルムカメラによる小学生を対象とした「写真学習プログラム」を、富士フィルム(株)の協力によって、毎年小学校 50 クラスで実施している。

デジタルカメラは勿論のこと携帯電話の普及によって手軽に写真が撮れ、インターネットでの情報提供のツールとして写真が活用されているのが現状である。写真の原点ともいえるフィルムによる写真撮影が大幅に減少するなか、あえてフィルムを使っての「写真学習プログラム」は、単に写ったという喜びだけでなく、児童だからこそ必要とされている「事物の観察、物事を注意深く見る、凝視することの大切さ」を写真を通じて会得し体験してもらうことに意義を見いだしている。このことは写真という優れた記録媒体を使っての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。

「写真学習プログラム」は、協会の教育事業として 9 年間に延べ 476 人の会員による指導で、18,179 人の児童に、「写真学習プログラム」の授業を実施して、「写真への興味を喚起すること」を体験してもらっている。

また、多くの方々にこの児童たちの作品を見ていただこうと、「写真学習プログラム」参加児童の作品を特別企画「PHOTO IS 小学生の眼」として、富士フィルム(株)・富士フィルムイメージングシステムズ(株)が主催する「PHOTO IS」想いをつなぐ。30,000 人の写真展」で展示している。写真愛好家や一般客からは、展示された小学生の作品を観て、素直で力強い感性だと驚きの声が寄せられていた。



### [2013 年 4 月～2014 年 3 月実施分]

No.	実施校	県名
1	立山町立立山中央小学校 4 年 1 組	富山県
2	立山町立立山中央小学校 4 年 2 組	富山県
3	立山町立立山中央小学校 4 年 3 組	富山県
4	大阪市立南港緑小学校 5 年	大阪府
5	大阪市立南港緑小学校 6 年	大阪府
6	大崎上島町立大崎小学校 5 年	広島県
7	大崎上島町立大崎小学校 6 年	広島県
8	富山市立柳町小学校 4 年	富山県
9	仙台市立貝森小学校 5 年	宮城県
10	仙台市立貝森小学校 6 年	宮城県
11	国東市立富来小学校 5 年	大分県
12	国東市立富来小学校 6 年	大分県
13	二本松市立浜川小学校 5 年	福島県
14	二本松市立浜川小学校 4 年	福島県
15	新潟市立新潟小学校 4 年 1 組	新潟県
16	新潟市立新潟小学校 4 年 2 組	新潟県
17	新潟市立新潟小学校 4 年 3 組	新潟県
18	相馬市立磯部小学校 6 年	福島県
19	石巻市立東浜小学校 4～6 年	宮城県
20	宮田村立宮田小学校 5 年	長野県
21	鳥取市立鹿野小学校 4 年	鳥取県
22	仙台市立将監西小学校 4 年	宮城県
23	亀岡市立千代川小学校 6 年 1 組	京都府
24	亀岡市立千代川小学校 6 年 2 組	京都府

No.	実施校	県名
25	亀岡市立千代川小学校 6 年 3 組	京都府
26	静岡市立安倍口小学校 6 年	静岡県
27	仙台市立根白石小学校 6 年	宮城県
28	常陸大宮市立村田小学校 6 年	茨城県
29	飯島町立飯島小学校 5 年	長野県
30	農川市立国府小学校 6 年 1 組	愛知県
31	農川市立国府小学校 6 年 2 組	愛知県
32	農川市立国府小学校 6 年 3 組	愛知県
33	農川市立国府小学校 6 年 4 組	愛知県
34	御浜町立阿田和小学校 5 年	三重県
35	御浜町立阿田和小学校 6 年	三重県
36	常陸大宮市立美和小学校 6 年	茨城県
37	所沢市立西富小学校 6 年 1 組	埼玉県
38	所沢市立西富小学校 6 年 2 組	埼玉県
39	大阪市立長吉六反小学校 5 年	大阪府
40	大阪市立長吉六反小学校 6 年	大阪府
41	世田谷区立三軒茶屋小学校 6 年 1 組	東京都
42	世田谷区立三軒茶屋小学校 6 年 2 組	東京都
43	宮代町立百間小学校 4 年 1 組	埼玉県
44	宮代町立百間小学校 4 年 2 組	埼玉県
45	村山市立大久保学校 6 年	山形県
46	港区立麻布小学校 4 年	東京都
47	世田谷区立松原小学校 6 年	東京都



## 【平成 25 年度実施校児童の作品から】



立山町立立山中央小学校生の作品



大阪市立南港緑小学校生の作品



大崎上島町立大崎小学校生の作品



国東市立富来小学校生の作品



二本松市立渋川小学校生の作品



新潟市立新潟小学校生の作品



石巻市立東浜小学校生の作品



鳥取市立鹿野小学校生の作品



仙台市立根白石小学校生の作品



常陸大宮市立村田小学校生の作品



豊川市立国府小学校生の作品



御浜町立阿田和小学校生の作品



所沢市立西富小学校生の作品



世田谷区立三軒茶屋小学校生の作品



港区立麻布小学校生の作品

# 平成 26 年度「報道写真論」講座報告

共催：専修大学、公益社団法人日本写真家協会



平成 23 年度から始まった専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での「報道写真論」の講義に、26 年度は大石芳野、山本皓一の両会員に講師をお願いした。

専修大学の人文・ジャーナリズム学科開設趣旨は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、今メディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを方針としている。この講座には平成 23 年度は桑原史成、24 年度は長倉洋海、英伸三、25 年度は宮嶋茂樹、樋口健二氏を派遣し講義を行っていただいた。26 年度の講義内容のレポートを報告する。教室は川崎市多摩区東三田 2-1-1 の専修大学生田キャンパス。

## ●大石芳野

平成 26 年 4 月 8 日～6 月 3 日(7 回)

専修大学のキャンパスを訪れたのは桜の季節だった。山を切り開いて学び舎を造っただけあって、坂道は多いが緑豊かな落ち着いた雰囲気が漂う。学生たちにとって理想的な環境だと思いながら教室に向かった。

受講生は 100 人位。初回は「報道写真とは何か」。現代美術に代表される芸術写真とはどこが違うか。半世紀近くにわたって写真の仕事をしてきた私の体験や経験などを話した。かつては女性写真家が稀だったことで屈辱的な思いを乗り越えなければならなかったが、今は写真学科も女子学生が半数以上を占める時代になり、若い女性の活躍が目覚ましいなどについてだった。

2 講目以降は、私がこれまで内外で撮影してきた写真をデータ化して上映した。説明と同時にその国や地域の歴史的な背景なども加えて進めた。

2.「放射能汚染に晒された福島」は、まさに今の問題なので興味深かったようだ。受講生には被災地に足を運ぶ人もいて、一方通行にはならなかった。

3.「ラオス～いまだに残る不発弾」は、アメリカ軍による第二次インドシナ戦争に見舞われたラオスには、いまだに百万トン以上の大量の不発弾が眠る。1975 年に戦争は終わっても田畠や野原、集落の中で知らずに触れて爆発し、命を落とす人たちが少なくない。実際に私も取材中に踏みつけそうになった。そうした戦争の傷をアジアの小国を通して伝えた。

4.「ポル・ポト政権の悪夢から再生へ～カンボジア」は、ジェノサイド政策が終わって 1 年後の 1980 年に私は惨状をカメラに収める旅をした。それから今日に至るまで、再生していく人々を追った。とりわけ 80 年代初頭のキリングフィールド化した生々しい大地と打

ちひしがれた人々との表情は、今のカンボジアにはない。受講生たちにも「30 年以上も前とはいえ、今のカンボジアを知るうえで欠かせない」との声が多くあった。

5.「ナチス強制収容所から生還した人々」では、カンボジアの大虐殺を取材しながら、まるでアウシュヴィッツのようだと思った私が 1986 年から通い、生還した元囚人たちに話を聴き、収容所跡を撮影した。

6.「子ども 戦世のなかで」は、大人や社会の責任で戦禍に閉じ込められた子どもたちの苦悩と、そうしたなかにあっても必死で希望を見つけようとしている一人ひとりの子どもたちの姿をまとめた。受講生の意見には「他人事と思わず、今後は自分のためにも関心を持ちたい」などがあった。

7.「黒川能～庄内にいだかれて」は、500 年以上にわたって続いている神事を撮影した。福島も諸外国も厳しい状況の中で苦しみから逃れられない人々との写真が多かっただけに、最終講の「黒川能」に安堵の声も聴かれた。毎回の出席カードの代わりにミニレポートを提出してもらった。例えば黒川能では「遺すべき文化がたくさんあることに気付いた。若者の田舎離れがあるが、文化を守るためにには若者の力が必要になってくる」といった心強いものもあった。



## ●山本皓一

平成 26 年 6 月 10 日～7 月 22 日(7回)

講師の依頼を受けて、まず悩んだことは「報道写真論」という少々小難しそうなテーマを学生諸君にどう伝えることができるか」であった。すでに教える専門家である担当教授や諸先輩たちが基本は押さえている筈だ。やはり一写真家として 45 年間に体験した個人的な、現場での失敗談や動き方など実戦的な講義しかないと考えるに至った。

一コマ 90 分、全 7 回の講座を私が担当する。第 1 回目は自己紹介も兼ねて、掲載された雑誌の表紙やグラビア、新聞紙上での写真特集などをプロジェクトで映写しながらの解説だ。実は密かに、「好奇心」ジャーナリストとしての「立ち位置」と「志」、この基本点だけは伝えたいと心に決めていた。だから全講座で実例を交えて何度も繰り返し話した。好奇心が募ると、より知識は深まる。その知識の分析を重ねてこそ自分の立ち位置が判る。この事実に私自身が気づいたのは、朝鮮半島 38 度線の板門店を北朝鮮側から撮った時のことだった。見馴れた陽気なヤンキーと思っていた米兵は、北側に立った私を睨みつけ“コミュニスト”とマイクで連呼、挑発したのだ。幅 50cm ほどのコンクリートで仕切られただけの軍事境界線を飛び越え、米兵たちと話したい衝動に駆られた。必ず次は南の韓国側から北を見なければ、と痛切に思った。要するに自分の「立ち位置」によって物事の見え方が違ってくる。「報道の中立性」を守るためにには一方的視点ではなく、両サイド、全方位的な視点が必要なのだ。そしてその視点は、好奇心の積み重なりである知識から得られ、己の信念に基づいた「志」をもって伝えることができるのだ。

第 2 回、3 回目は、論議沸騰中の「世界と日本の国境」がテーマ。尖閣問題など政治的な問題にも触れざるを得なかった。学生諸君の中には、中国や韓国からの留学生も少なからず在籍している。事実彼らの中から、「政治的領土問題を授業でやるのはプロパガンダでは！」との反発もでた。だが、ジャーナリストを志す以上は避けて通れる問題ではない。一写真家が 20 数年にわたり

実際に眼で見、多くの資料を調査した、ひとつの見解なのだ。強要するつもりは全くないし、多方面からの視点のひとつ、と考えてほしい。この私の説明に納得し、講義終了後に提出されたリアクション・レポート



では「知らない事実があることも知った。もっと深く考えたい」と書き記してあった。第 4 回、第 5 回ではシベリア、アマゾン、チベットなど秘境取材での体験談。いかにして危機を逃れたか、など。第 6 回、第 7 回では、ピューリッツァ賞受賞作品の裏話。ミャンマーで殺害された長井健司の死の真相、キャバ爆死の現場を探した体験。硫黄島の演出された星条旗写真など。そして「写真の読み方」と「写真の嘘を見極める眼」。この説明では 6 点のチベット写真を使って、中国視点とチベット視点、2 種類の見開きグラビアを作製した。写真の大小、タイトル、写真説明によって正反対の主張を構成。作り手側(ジャーナリストおよび編集担当)の持つ「情報知識」と「志」が重要であることを繰り返した。

毎回の講義後には、屋外の広場で学生たちと語り合った。講義中の質疑応答では拳手もそれほど多くはなかったが、フリーで話すと活発な意見も続出。眼がキラキラ輝き、学生の一人は、夏休みにボランティアで支援訪問するヨルダンの事情をあれこれ聞いてきた。「今時の学生たちもなかなかのもの」との思いもして、講師の私の方が元気をもらったような気がしたのである。

(写真提供・専修大学構成・小池良幸)

### 大石 芳野（おおいし・よしの）

東京都出身。日本大学芸術学部写真学科を卒業後、ドキュメンタリー写真に携わり今日に至る。戦争や内乱、急速な社会の変容によって傷つけられ苦悩しながらも逞しく生きる人びとの姿をカメラとペンで追っている。  
2001 年土門拳賞(『ベトナム 凛と』講談社)、2007 年エイボン女性大賞、同年紫綬褒章ほか。日本写真家協会会員。  
主な著書に『無告の民 カンボジアの証言』岩波書店、『夜と霧は今』用美社、『黒川能の里 庄内にいだかれて』清流出版、『福島 土と生きる』藤原書店ほか多数。

### 山本 皓一(やまもと・こういち)

1943 年香川県生れ。日本大学芸術学部写真学科卒業後、小学館の写真記者を経てフリーの報道写真家として活躍。近年は領土問題の識者として講演活動もおこなう。著作に『田中角栄全記録』集英社、『来た、見た、撮った！ 北朝鮮』集英社インターナショナル、『日本人がいけない「日本領土」』小学館、『日本がもっと好きになる尖閣諸島 10 の物語』宝島社ほか多数。第 35 回講談社出版文化賞「写真賞」受賞。日本写真家協会、日本ペンクラブ会員。

# 2014年 第10回「名取洋之助写真賞」受賞者決まる

公益社団法人日本写真家協会が新進写真家の発掘と活動を奨励するために、主としてドキュメンタリー分野で活躍している35歳までの写真家を対象とした2014年第10回「名取洋之助写真賞」の選考審査会を8月25日(月)JCII会議室で、鎌田慧(ルポライター)、大島洋(写真家)、田沼武能(写真家・公社・日本写真家協会会長)の3氏によって行いました。

応募者はプロ写真家から大学在学中の学生までの38名43作品。男性23人女性15人。カラー24作品、モノクロ15作品、混合4作品でした。

選考は1組30枚の組写真のため審査会場の制約もあり受け順に8~9作品ずつ5回に分けて行い、第一次審査で23作品を選び、第二次審査で9作品が、第三次審査で5作品が残りました。最終協議の結果、下記に決定しました。

## ○三次審査通過者

- 高 輝彬 「田舎医者」  
高橋智史 「届せざる女性たち・カンボジア変革の願い」  
帖地淳平 「美しく時は流れて」  
石田 寛 「今の立ち位置から見えるもの。」  
中塩正樹 「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」



選考風景(平成26年8月25日 JCII会議室 撮影・小城崇史)

## ○最終審査通過者

- 高橋智史 「届せざる女性たち・カンボジア変革の願い」  
中塩正樹 「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」

## ■ 2014年 第10回「名取洋之助写真賞」受賞者



高橋智史 (たかはし さとし) 1981年秋田県生まれ、32歳。

2007年日本大学芸術学部写真学科卒業。  
国際ジャーナリスト連盟(IFJ) IFJ-JAPAN freelance journalist union メンバー。  
フォトジャーナリスト。ブノンベン在住。

受賞作品 「届せざる女性たち・カンボジア変革の願い」(カラー30枚)

作品内容 カンボジアは近年、開発により居場所を強制的に奪われる人々が急増し、深刻な社会問題となっている。ブノンベン市内「ボレイ・ケイラ地区」でも居場所を失った人々は2年間、劣悪な環境にさらされた生活を続けていた。2014年2月12日、立ち上がった女性リーダーを中心に、命をかけた切なる抗議を始めた。今、女性活動家たちは不正義に対し勇気をもって声をあげ、変革を求める動きを各地で起こしている。正義を信じ、闘い続ける女性活動家たちを追った作品。

受賞者のことば 名取洋之助写真賞を受賞することができ光栄に存じます。巨大な権力に屈することなく、当たり前の正義を掴み取るために命をかけて闘い続ける土地奪われし人々の姿、彼らの切なる願いを、このような形で多くの方々に伝えられることに、心からの喜びを感じます。私はこれからも、愛するカンボジアの大地に身を置き、人々の思いに寄り添いながら、彼らの命の尊厳を握り続けていきたいと思います。

## ■ 2014年 第10回「名取洋之助写真賞奨励賞」受賞者



中塩正樹 (なかしお まさき) 1984年大阪府生まれ、30歳。

2008年大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業  
2008年第55回JPC全国写真展内閣総理大臣賞受賞。  
2010年第6回名取洋之助写真賞奨励賞受賞。現在フリーで活動中。奈良県在住。

受賞作品 「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」(カラー30枚)

作品内容 刻を超えて人々を結びつける、それが祭礼と作者は考えている。山あいの村や町、小さな地方都市の祭礼を中心に撮影を続けてきた。過疎と高齢化が進み、山あいの小さな村や町の地域社会が崩壊していくことを心配している。それに伴い地域の共同体として行われてきた祭りも失われようとしている。誇り高き祭り人の姿を通し、祖先が残してくれた祭礼を次世代に繋いでいくことの大切さを考える作品。

受賞者のことば 第6回の奨励賞に続き今回、第10回名取洋之助写真賞奨励賞を頂き有難うございます。祭事や伝統行事に携わる祭り人の想いや魂という、目に見えないものを、写しとりたいという挑戦を続けています。祭事や伝統行事の今後を思いながら、未だ道半ばですが、今回の受賞を励みとして尚一層の努力を重ねていきたいと思っていました。有難うございました。

## 2014年 第10回「名取洋之助写真賞」総評

田沼武能(写真家・公益社団法人日本写真家協会会長)

名取洋之助写真賞は30枚の組写真で構成しなければならない。選ぶテーマによっては30枚にならないものがある。20枚で終わってしまうものを30枚にするのには無理があり、内容が希薄になる。そんな作品が何点か見られた。テーマを選ぶところから作品作りが始まる考えを頂きたい。



名取洋之助写真賞を獲得した高橋智史氏は、大学在学中からアジア社会に注目し、カンボジアを始めアフガニスタン、東ティモール、ラオス、ベトナムなどを取材し、メディアに提供している。卒業後は拠点をカンボジアのプノンペンに移し、本格的にフォトジャーナリストとして活躍しており、すでに国際ジャーナリスト連盟日本賞・大賞などを受賞している。昨年の名取賞にはカンボジア・トンレサップで撮影した「湖上の命」を出品したが、もう一歩のところで賞を逃している。

今回は、カンボジアの女性をテーマに「屈せざる女性たち・カンボジアー変革の願い」を出品した。そこにはカンボジアの女性たちが、生きるために権利、生活のための場を獲得するために闘い続けており、そのバイタリティを中心に、カンボジア社会、政権の汚職、不正など、歪み、腐敗する社会の中で生きる権利を得るために身体を張って闘う女性たちの現場に深く入り込み密着取材した力作である。そこにはプノンペンに住み、カンボジア社会を知り取材を重ねている成果が如実に出ており、またストーリーの構成、ドラマチックな表現で緊迫力ある作品に仕上げている。まさに名取洋之助の写真賞にふさわしいドキュメント作品である。

奨励賞となった中塩正樹氏の「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」は、第6回名取洋之助写真賞奨励賞を受賞しており、その第2弾とも言える作品である。第1弾より洗練された造形力、表現力、日本の伝統文化として内容の深さを感じる作品である。しかし、名取洋之助写真賞の持つ社会性を鑑みて奨励賞に選ばれた。

大島 洋(写真家)

今年度応募された43作品のレベルは前年度と同様に総じて高く、その半数以上の作品が第一次選考をクリアした。その結果、名取洋之助写真賞は高橋智史さんの「屈せざる女性たち・カンボジアー変革の願い」に、奨励賞は中塩正樹さんの「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」に決まった。高橋さんは本賞の前年度第9回と第7回にも最終選考まで残り、そのドキュメントは強く記憶に刻まれているし、中塩さんは第6回にも奨励賞を受賞していて、共にぶれることなく自らのテーマを貫いてきているこ



とを再確認することができる。

高橋さんの作品は、カンボジア・プノンペン市内のボレイ・ケイラ地区の女性たちが、住まいとなるべきアパートの建設を巡って、汚職と不正が蔓延する行政や開発業者らと対峙し、命を張って抗議活動する姿を見つめ続けた心打つ記録である。この10年間、カンボジアを中心に東南アジアのさまざまな社会問題に関心を寄せ、ことに2007年からはプノンペンに生活と活動の拠点を移して集中的に取材を重ねてきた高橋さんだからこそ成しえた時間の厚みであり、質の高さであると思う。

中塩さんの作品は、そのタイトルのように、長い歴史とともに時を紡いできた小さな町や村の人々が守り続けてきた祭りの原形が、とても格調高い作品として組み上げられています。それぞれの写真の完成度も高く、30枚が緻密に構成されています。過疎と高齢化が急速に進行し地域社会の崩壊と直面する山あいの人々の生活や文化の現況への強い思いが背景としてあることも確かに伝わってきます。

鎌田 慧(ルポライター)

この列島のどこかで、数多くの若きカメラマンたちが、名取洋之助賞を目指して、取材を進めながら、自分のテーマを掘り下げている。その姿を想像すると尊いものに思えて、選者として身の引き締まる思いにさせられる。今年も捨てがたい作品が多かった。



受賞作品高橋智史の「屈せざる女性たち・カンボジアー変革の願い」には、意表を衝かれる思いをさせられた。これまでカンボジアのゴミ捨て場の写真集を見ていて、社会的不公平の激しさを知らされたが、政府と対峙し弾圧されている住民運動があるのを、私は不明にして知らなかつた。住宅を求める女性たちの必死の運動に寄り添うように、写真を撮っているのがよくわかる。

同情とはちがう、社会の不条理を感じさせられた。ボル・ボト政権下でどれだけの人たちが殺戮されたことか。その体制が崩れてなお、ひとびとはいまだに苦しんでいる。あの野積みされたしゃれこうべの堆積や刑務所に使われた校舎の独房跡、首吊り台にされたプランコの梁などの記憶に、デモの先頭を奔く女性の悲しげなメーキャップが重なって見える。民衆の悲しみはいつまでも続くのか。

奨励作 中塩正樹の「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」は、造形力が適格で端正で静謐。祭りを支えてきた地域の伝統の力と市井人の日常から脱却した瞬間がよく捉えられている。このような人間の精神性の高みが映し出されているのは、ひとびとの崇拝の念なくしてできるものではない。

### 「名取洋之助写真賞」について

公益社団法人日本写真家協会(JPS)は、社会に貢献する事業として「JPS展」や「日本写真家協会賞」の表彰並びに顕彰を行っています。2005年からは「名取洋之助写真賞」を創設しました。

名取氏は、1950年の協会設立初期から写真企画への助言。更に、写真著作権の重要性を進言されるなど、さまざまな面で協力を戴いています。没後、名取洋之助が関わった日本工房、サンニュース、岩波写真文庫の創設に関してわが国のフォトジャーナリズムの発展に大きく貢献されたことを顕彰し、主として若いフォトジャーナリストの育成に役立つことを望み、この写真賞を創設しました。

**●名取洋之助(1910～62年)** ドイツに留学していた名取洋之助は23歳の若さで、1930年代ヨーロッパで勃興していたフォト・ルボタージュをわが国に導入し、木村伊兵衛らと33年「日本工房」を興す。その後、土門拳、藤本四八、亀倉雄策らと『NIPPON』を創刊し、フォト・ジャーナリズムを確立する。戦後は47年に『週刊サン・ニュース』を創刊。50年に『岩波写真文庫』を創るなど、写真家であると同時にすぐれた企画、編集者でもありました。

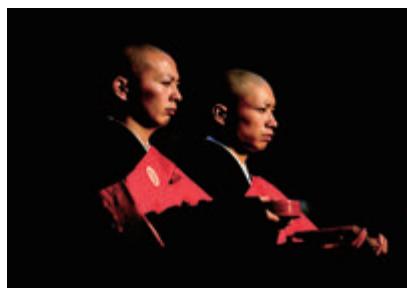
## ■ 2014年第10回名取洋之助写真賞

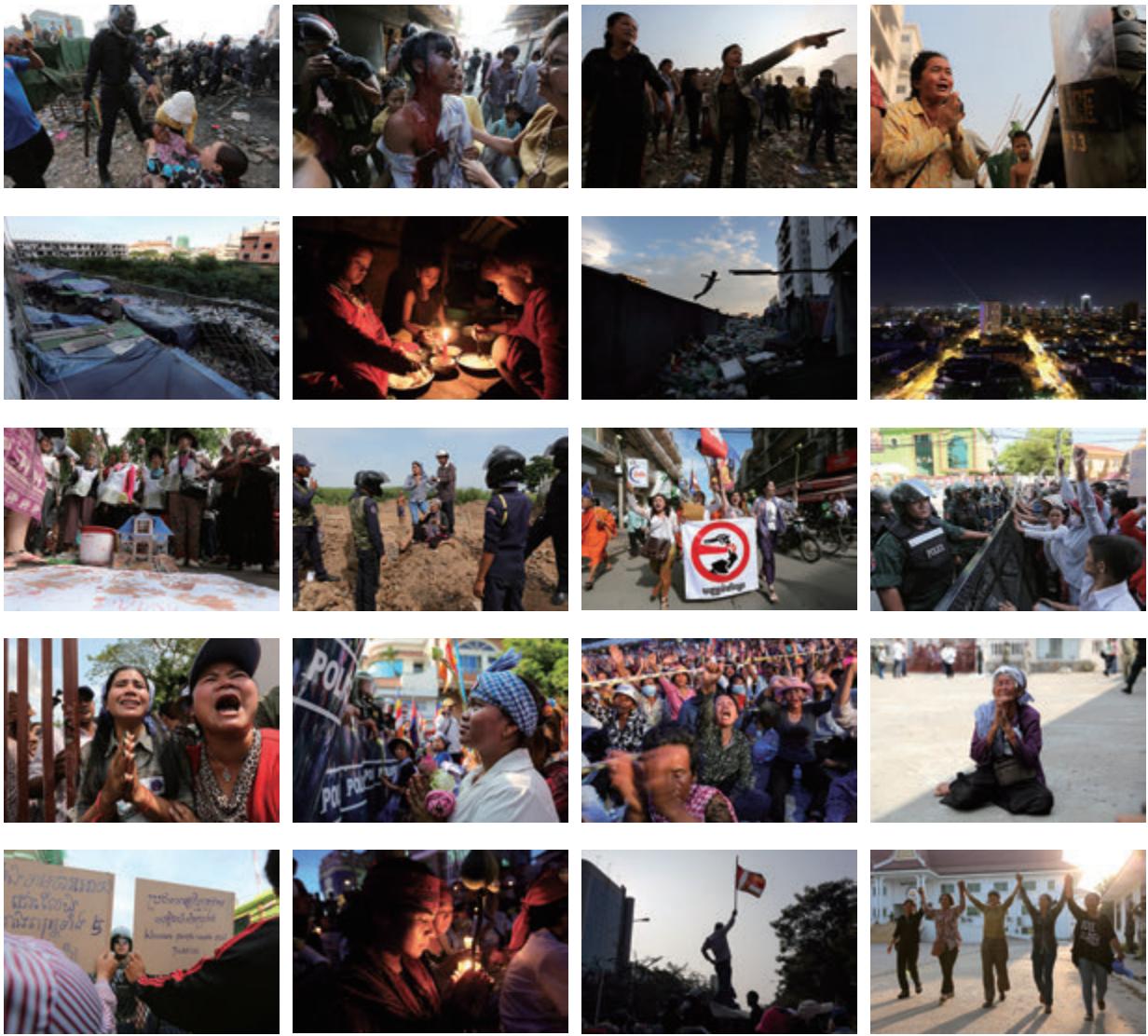
高橋智史 「屈せざる女性たち・カンボジア変革の願い」(カラー 30点)



## ■ 2014年第10回名取洋之助写真賞 奨励賞

中塩正樹 「誇り高き祭り人 刻を紡ぐ」(カラー 30点)





# おめでとうございます

—— このたびは受賞おめでとうございます。御社は社会文化活動としてのコンテスト「はたらくすがた」の主催、そして写真文化発信の場としての写真ギャラリー「シリウス」の運営と、非常にユニークな活動を展開されてきたわけですが、これらを始めるきっかけはなんだったのでしょうか。

**桚山** 弊社では求人情報を発信する紙媒体やWeb媒体を運営しているのですが、媒体が何であれ「写真」がお客様のことを伝えるための大切な情報であるという認識を社内で啓蒙したいと考えていました。また人材ビジネスは基本的にお客様のところに訪問する仕事ですが、お客様に会社に来ていただく機会、会社のことを知っていたらしく機会を作りたいなと考えていました。そんなとき、写真というテーマで「ギャラリー」に思い至りました。社内で検討を始めたのがちょうど2000年頃でしたでしょうか。

そのころは、若者の就業スタイルや失業率が社会問題になっていました。非正社員で働く人の増加、そして新卒で入社しても3年以内でやめてしまう人の増加など、これはもっと早い段階で「はたらく」を考える機会を作らなければと考え、小中高生を対象にしたフォトコンテストを開催することにしました。ギャラリーの開設(2001年)から遅れること4年、2005年にスタートしています。おかげさまで年々応募者数も増えています。

—— コンテストそしてギャラリーと、実際に運営するにあたってはいろいろなご苦労があったものと察しますが、長い期間運営されてきたことによる社内の意識変化、あるいは社外から御社に対する見方の変化などはあったのでしょうか。

**桚山** 社内的には、社員の「写真原稿に対する意識」が高まりました。お客様からお預かりする写真は、お客様の情報を伝えるために欠かせないツールのひとつとして認識しているのですが、そういう意識があるとないとでは、やはり得られる結果も違ってきます。

また「はたらくすがた」コンテストの注目度向上は、社外からの弊社に対する認識を高めてくれる効果が非常に大きかったと思います。応募点数も増えることで「アイデムって何をしている会社?」って知っていただくきっかけのひとつになっています。

ギャラリーについてですが、正直に申し上げますと運営に難しさを感じることも少なくありません。「特徴を出さずに特徴を出す」が言うは易く行うは難しだと

感じています。

—— 新宿から四谷にかけて、写真に関係する様々なお店やギャラリーが集積するようになりました。御社ギャラリーもその一翼を担う存在として広く認知されるようになりましたが、このエリアに集積するようになった理由はなんだったのでしょうか。

**桚山** 確かに振り返ってみると、2001年以降に多くのギャラリーが開設されています。JCIIフォトサロンも距離は離れていますが同じ通り沿いですから、いつかはそこ(半蔵門)までずっとギャラリーがある通りにならいいですね。

元々、新宿駅周辺にはカメラメーカーさんのギャラリーがありましたし、新宿自体も若い人が集まりやすい場所です。また、新宿御苑が近いということも影響しているのかもしれません。御苑に行くと、若い方からお年寄りまで写真を楽しんでおられる方が非常にたくさんいらっしゃいます。そういう方が立ち寄りやすい環境もあります。ここ(新宿~四谷)には写真の「気」があるのかもしれません。

—— これから写真家の歩む方向についてご教示いただけますか。

**桚山** 私は写真家ではないので大変難しい質問ですね。私の仕事の立場から申し上げるならば、写真家はひとつ素晴らしい職業ですよね。職業であるからには、「社会のお役に立つ仕事をする」という志を持って取り組むことが大切なのではないかと思います。これは大変難しいですが、職業として長く取り組むと考えたときには、この志を持ち続けた人がいい仕事をするのではないかと思います。

—— 当協会はプロ写真家の団体ですが、当協会に対し、コンテストを主催する立場、ギャラリーを運営する立場からメッセージをいただけますか。

**桚山** 今回、夢にも思っていなかった賞をいただき、地道な活動を評価していただいたことに感謝しております。また、私たちのコンテストを後押ししていただいていること、非常に勇気をいただいています。ギャラリーの方では、プロキオン・フォースという若手の写真家に発表の場を提供する試みも始めていますが、今後も改めて頑張らなければと思いました。

—— ありがとうございました。

(平成26年9月5日：アイデム本社にて  
聞き手・常務理事：小池良幸、出版広報委員：小城崇史  
／撮影・構成：小城崇史)

## 第40回日本写真家協会賞 株式会社アイデム



桚山 亮さん

(株式会社アイデム 代表取締役社長)

# JPS2014年新入会員展 「私の仕事」

東京：2014年7月17日(木)～7月23日(水)

於：アイデムフォトギャラリー「シリウス」

大阪：2014年8月22日(金)～8月28日(木)

於：富士フィルムフォトサロン 大阪



ゆるんで

青野 克朗



世界自然遺産 張家界 武陵源

安 珠



出迎え

飯田 一正



DANCING DAYS I  
冷めないうちに召し上がり！

飯田 耕治



母と子

上野 勇



Stop

植村 耕司



飛翔

大森 隆一



ガラスの林檎  
「二人と風車と夏の空」

小河 俊哉



夏の静寂

奥村 宗洋



睡蓮

河合 昌英



鑿を打つ #02



御苑の秋

木村 正博



FÓOTKAT - 路上の洗濯屋 -

公文 健太郎



マーガレット (6)  
@ナウル共和国

小澤 太一



ドゥブロブニク旧市街

三田 崇博



つかの間の散歩  
(2013年5月6日 三春シェルター)

Zuni (苗村真千子)



哀 宝生流 隅田川 衣斐正宣  
名古屋宝生会 H23.3.16

瀬野 雅樹



仮面の街

高橋 良輔



Fly me to the moon.

高宮 岳彦



月光写真館

谷山 亮



マインドスクエア竹ノ塚

田村 浩二



写真家 田沼武能

土屋 勝義



おめでとう

中島 英吉



おかやま信用金庫

中村 啓太郎



「カブール陥落」

原田 浩司



アカショウビン

福田 啓人



幼魚「Q」

前田 和彦



『褪せない記憶』  
—岩手県陸前高田市庁舎前にて—

前田 純



もうひとつの結婚式／三ヶ日

三澤 武彦



夜の貴婦人

三岡 弘明



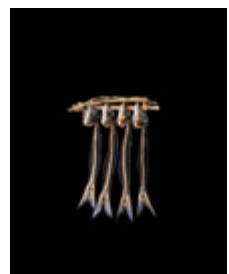
伊勢神話の旅「神明」

宮澤 正明



小布施にて

茂手木 秀行



めざし

森 明彦

 <p>Mr Chaplin/Japan</p> <p>柳川 勤</p>	 <p>遙かな入江</p> <p>吉村 和敏</p>	 <p>飛鳥路～蒼穹と坂道～</p> <p>吉森 信哉</p>
 <p>流氷の中を進む巡視船そうや</p> <p>米田 堅持</p>	 <p>苛つく、好きな街</p> <p>渡辺 英明</p>	<p>展示作品各自2点から編集部でセレクトした1点を50音順に掲載しました。 (構成:小池良幸)</p> <p>JPS2014新入会員展実行委員会: 渡辺英明(委員長)、吉森信哉(副委員長)、 大森隆一、木村正博、柳川勤</p>



オープニングパーティーで挨拶する田沼会長（撮影:大森隆一）



東京・アイデムフォトギャラリー「シリウス」展示会場（撮影:大森隆一）



7月17日 東京展オープニングパーティー（撮影:大森隆一）



大阪・富士フィルムフォトサロン大阪展示会場（撮影:藤井博信）

# セミナー研究会レポート

## ◆平成 26 年度第3回技術研究会◆

一眼ムービーなんて怖くない！

スタイルフォトグラファーのための動画撮影

セミナー（初級編）

平成 26 年 6 月 23 日（月）於：JCII ビル 6 階会議室

今回のセミナーは、動画撮影機能がついた一眼レフカメラが一般的となった昨今、写真撮影の他に動画撮影を急に頼まれて困ったという多くの写真家たちの声から企画した。講師には、写真家であり株式会社 Lab 代表取締役また電通事務局長でもある鹿野宏氏を招いて開催した。

初級編ということで第1部は基本的な撮影方法を鹿



野氏が実際に撮影した動画を見ながら、カメラを左右に振る方法や振らずにかっこよく見せる方法などを自らの体験を基に話した。また動画における被写界深度の F 1.8 と F 2.8 の違いや光の種類である LED、蛍光灯、自然光の違い、また 1 秒間に 30 フレーム = 1/30 秒で撮影する必要があるため、一眼レフカメラで使用するレンズでは明るすぎるの ND フィルターを使用して露出を落とす方法などを解説した。

質疑応答に入ると、モニターの枠の色選びについての質問に対して、モニター画面と枠のコントラストを抑えたほうが写真は見やすいので動画を専門にしない限り、写真家は白を選んだほうが良いだろうとの答えがあった。撮影時にどうして 1/30 なのか、1/60 ではないのかとの質問に対して、動画が一番滑らかに表現されるのは 1 秒間に 30 フレームが最適だと答えた。

第2部では 1 秒間に何コマ記録できるかを表すフレームレート、1 秒間に送出できる情報量を表すビットレート、フレームサイズの FHD、2K、4K、などの専門用語と単位について解説があった。また編集の際に大切な音声録音について、カメラ付属のマイクでは綺麗に録音できないので外部マイクや IC レコーダーを使うほうが良く、画像を見ながら

の編集作業の際はカメラ付帯マイクでを行い、後に音声を切り替えると綺麗に仕上がると言った。編集ソフトにつ



いては Mac には Apple の「Final Cut Pro X」、Windows には Adobe の「Premiere Pro CC」を勧め、また余談として Adobe の「After Effects」は画像に特殊な効果を与える画像処理ソフトとして紹介があった。

受講者は熱心に耳を傾け、セミナー途中に設けた休憩時間にも舞台前方に集まり鹿野氏への質問が止まらないほど大盛況なセミナーであった。参加者 111 名。

（記／山口規子、撮影／高村 達）

## ◆平成 26 年度第1回著作権研究会◆

～外野からみた著作権～

「野次馬ウォッキング」

平成 26 年 9 月 16 日（火）於：JCII ビル 6 階会議室

『コピライター』誌の編集長・杉村晃一氏の著作権に関する講話を聞いた。

これまでのセミナーと違って、一つのテーマに絞って著作権法ではどう解釈するかという解説ではなく、実際に起こった著作権裁判の判例を例示しながらの講話は大変興味深いものがあった。

写真的な著作物については、加戸守行『著作権法逐条講義』に「…素人が普通の EE カメラで、パチッとシャッターを押せば…」写真は写る。「これも著作物として保護を受けると言わざるを得ない。」と記され定説となっている。また、写真的な著作物性を判断する基準は、「…何を表現しようとしたのかの意思決定、ポーズの指示、構図、シャッターチャンス、絞りなどの工夫…」と言われている。そうした素朴な著作権法成立の過程での論議などを分かりやすく説明され、それでは、著作者としての現代的課題は何かという問題にまで踏み込んで、プロとアマチュアの区別はあるのか。どう説明するのか。また、対象物と撮影者の関係では、肖像権や類似写真、デジタルによる加工、合成写真の可否、認否にまで話が及び、自分自身の権利(著作者人格権)を守るために、「契約」が必要である。いわゆるデファクトスタンダード(公的機関による標準ではなく、市場競争によって業界で生まれた標準)によって、分野ごとで決まりを設けて行うのがよい。と話されるなど、新しい時代が求めている著作権の方向性が示され、新鮮さを感じた。



質疑応答で、フォトコンテストで主催者が撮影者の権利を無視するような要項が作られている。デジタル化によって写真家自身の権利意識の低下がおこり、著作権の形骸化が起こっていることに危惧する、といった声が発せられるなどした。参加者 53 名。

（記／松本徳彦、撮影／堀切保郎）

# デジタル時代の印刷事情

世の中のさまざまなものがデジタル化していく中、印刷の工程もデジタル化が進んでいる。印刷がデジタル化されることによって何が変わったのか、どんなことができるようになったのか。写真集を作るという想定で、デジタル時代の印刷について紹介していこう。

## ■ 印刷におけるデジタル化とは

いわゆる「写真」がフィルムからデジタルデータになったように、印刷の世界でもデジタル化が進んでいます。かつてはデザイン、版下作成、製版、印刷は、それぞれ職人的な専門家に分業化されていました。しかし印刷のデジタル化によって、こうした作業を1人の作業者だけができるようになりました。これがDTP(Desk Top Publishing)と呼ばれているものです。

代表的なDTPソフトウェアには、Adobe InDesign、Illustrator、Quark Xpressなどがありますが、こうしたソフトウェアを扱うことのできるパソコンと知識さえあれば、デザインやレイアウトを誰もが机の上でできるようになりました。

## ■ 変化した印刷所とデザイナーの役割

DTPによって大きく変わったのが、印刷所とデザイナーの役割です。写真集の制作には大勢の人が関わっていますが、中でも入稿に必要なすべてのデータを管理するデザイナーの存在は、大きなものになっています。最近では、デザイナーが修正作業までを担うことも珍しくありません。これは、レイアウトの変更があった場合はもちろんですが、1文字でも修正することになれば、そのページのデータを再入稿する必要があるためです。

一方、印刷所は刷ることに特化し、製版と印刷が主な仕事となっています。また、写真集を制作する場合には、プリントイングディレクターが製版から印刷、校正までを一貫して管理することも多くなっています。

写真集に関わらず、印刷工程での画像データの流れはちょっと複雑です。印刷に必要な画像データは、解像度300~400dpiですが、デザイン作業には100dpi程度あれば充分です。そこで、編集作業を効率よく進めるために、レイアウト用の軽い画像データ(アタリ画像)と印刷用の本データの2つが用意される場合が多くあります。デザイナーはアタリ画像を使ってレイアウトを

進め、本データは印刷所でRGB→CMYKに変換されます。CMYK変換された画像データがアタリ画像と差し替えられて、入稿データが完成するという流れになっています。

画像データのCMYK変換は、Adobe Photoshopなどでもできますが、印刷クオリティを最優先に考えれば、印刷機や用紙に適した変換をするのがベストです。ですから、写真家が印刷用に用意する画像データは、印刷に充分な解像度があれば、たいていの場合はRGBのままで問題ありません。

また画像データは、モニタなどの条件によって、必ずしも同じ色に見えない場合があります。そのため、画像データを入稿する際には、印刷のターゲットとなる出力見本を用意する必要があります。これは本来の画像の色を知っている写真家の作業になります。カラーリバーサルが写真原稿であれば、それが色見本にもなるため、こうした作業は必要ありませんでした。写真家にとっては、ひと手間増えることになりますが、写真集のクオリティを左右する重要な作業ですから手は抜けません。

このとき注意しなければいけないのは、インクジェットプリンタと印刷所の印刷機とでは、色数や再現できる色域、使用する用紙などの条件が異なるため、インクジェットプリンタで出力したプリント(色見本)通りに印刷できるわけではないということです。

## ■ 入稿と校正に関する約束ごと

印刷工程のどの部分を誰がどう受け持つか、事前に役割分担をきちんと決めておくことは重要です。役割分担は、経費や印刷クオリティにも影響するため、後々トラブルにならないようにする意味でも、きちんと決めておきましょう。

印刷所との確認事項は大きく以下の6点です。

### 1) 使用するDTPソフトウェアとバージョン

DTPソフトウェアは、最新バージョンや古すぎるバージョンは、印刷機が対応していなかった

り、対応する印刷機が限られることがあります。これは進行スケジュールにも影響する場合がありますから注意が必要です。

## 2) 入稿データの受け渡しの方法

DVD 等のメディアで受け渡しをするのか、サーバーにデータをアップロードするのか、データの受け渡し方法はいくつかあります。画像データには色見本を添える必要があることや、サーバーの容量、セキュリティなども考慮して、どういった方法が効率的で確実なのか検討しましょう。

## 3) 校正は本機校正で行なうのか、簡易校正か

DDCP (Direct Digital Color Proofing) などを使った簡易校正では、製版の工程が必要ないため、実際に写真集で使う印刷機や校正機を使った本機校正をする場合に比べると、コストも時間も大幅に抑えることができます。何度も校正を出す場合には、本機校正と簡易校正を組み合わせることも可能です。

## 4) 校正は何回行なうのか

校正の回数増はコスト増につながります。印刷所に渡す入稿データは、色校正だけになるくらいのつもりで、文字校正は、デザイナーとのデータのやりとりの段階で済ませておくのが理想的です。

## 5) データの修正は誰が行なうのか

データの修正は、入稿データを作成したデザイナーが行なうというのが一般的です。校正紙を印刷所に戻す際には、修正したデータと一緒に戻すことになります。印刷所でデータ修正をする場合には、DTP ソフトウェアやそのバージョン、フォントの有無などを確認する必要があります。

## 6) 印刷に使用したデータの二次使用は可能か

印刷データを広報用などに二次使用したいということはよくあります。しかし印刷物、データそれぞれに権利が発生しますから、写真集のデータを別の目的で使用する可能性があるのであれば、事前に確認しておく必要があります。

## ■ ネットを利用した写真集づくり

写真集を印刷するには、最少ロットが1,000部、1,500部と大部数になります。制作費も100万円以上を覚悟しなくてはいけません。そこで少部数の制作で金額も抑えたいという場合には、フォトブック作成サービスを利用するという方法があります。

フォトブックとは、インターネットを利用した写真集作成サービスのこと、写真集を1部からでも作ることができます。ただし用紙や判型、ページ数などが限られており、自由にデザインしてオリジナリティのある写真集を作るという目的には向きません。国内では30社ほどがサービスを提供しています。それぞれ特徴があるので、比較してみて、目的にあったフォトブックを見つけてましょう。

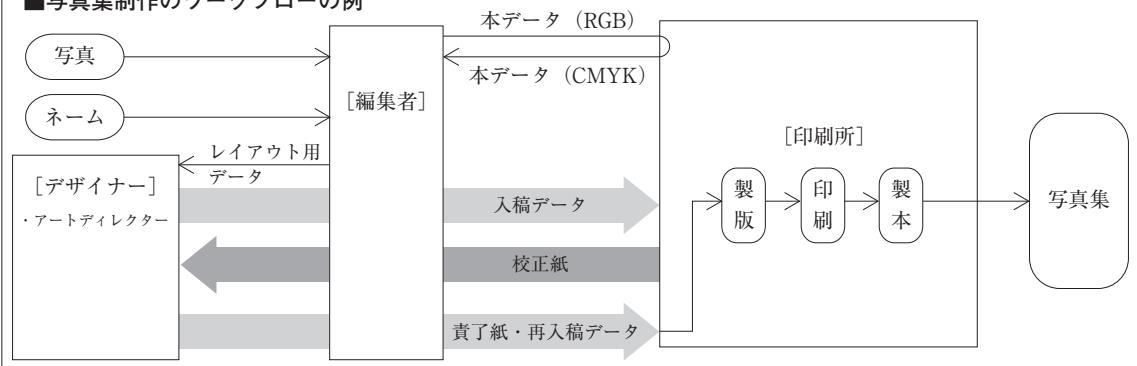
また、最近は写真集の資金調達の方法のひとつとして、クラウドファンディング (crowd funding) が注目されています。クラウドファンディングとは、ある目的を持った人や団体に対して、不特定多数の人から資金を集めることができるネットサービスです。クラウドファンディングには、見返りを求めない「寄付型」、成功すればリターンが発生する「投資型」、料金を前払いするかたちの「購入型」の3つがあります。

タイプによって資金の集めやすさなどが異なるので、どの方法で資金集めをするのがいいのか考える必要がありますが、多くの人に共感してもらえるようなテーマや社会的に意義のある内容の写真集であれば、資金調達ができる可能性は充分あるでしょう。

またクラウドファンディングは国内だけでなく、海外にも数多く存在します。写真集の販売方法や内容、目的によっては、海外のクラウドファンディングサービスを利用するということも検討してみるといいかも知れません。

(記／出版広報委員：柴田 誠)

## ■写真集制作のワークフローの例



# 2014JPS 展

## 報 告

委員長 小松好雄

第39回JPS展は東京展2014年5月17日～6月1日、名古屋展7月1日～6日、関西展7月22日～27日の会期で予定通り開催しました。

応募状況は一般部門2,043名6,982枚、20歳以下部門122名316枚、ヤングアイ参加校17校、会員作品部門50名150枚でした。これらの数字は例年並みで大きな変動はありませんでした。応募作品内容は各ジャンルにわたっていて表現の多様性がうかがえますが、デジタルでの加工修正作品が目立つようになり、審査の大変さを実感しました。今日はデジタルでの画像修正や加工等が簡単に出来てしまい、安い作品作りの傾向が見受けられます。またインクジェットプリンター出力なので、用紙の選び方やプリント設定に多くの課題があるような気がします。

上位入賞者は次の通りです。文部科学大臣賞は埼玉県在住の高田泰子さん「本番前(95才)」単写真、東京都知事賞は愛知県在住の中澤仁さん「往く夏」3枚組、20歳以下部門最優秀賞は東京都在住の高橋佳沙音さん「光海」です。多くの上質な入選作品が選ばれ、JPS展を盛り上げてくれました。

会員展部門は「プロの眼」と称して会員50名の3枚組写真を額装で展示し、他の入選作品との差別化を図りました。ヤングアイは各校ごとの一枚のパネルに共同作品として展示しました。地方展の展示は会場の都合で一部変更はありますが、東京展を準じての展示にしました。

東京展は表彰式と講演会を初日に行いました。今回は入賞者のほとんどが出席となつたために、例年になく座席の確保にたいへん苦慮しました。入選者と同伴者の多くが会場に入れずロビーでのモニター鑑賞となりました。表彰式の様子はリアルタイムでロビーのモニターに出力ができるために、ズームアップした受賞者の表情が良く見えたと喜ばれました。

表彰式の後にブルース・オズボーン会員の講演会を



賑わう東京展展示会場(撮影・天神木健一郎)



表彰式(5.17 東京都写真美術館ホール、撮影・天神木健一郎)

行い、「親子の日」を通して写真の可能性を熊谷正理事の司会進行で、熱く語っていただきました。

会期中のアトリエでは「デジタルおもちゃ箱」と称して、岩本朗会員の簡単撮影のライティング講座やタイムラプスなどの内容の濃いセミナーを開きました。

名古屋展は比較的好天に恵まれて多くの入場者でにぎわいました。表彰式は熊切副会長の出席で行い、入賞作品の丁寧な解説が好評でした。

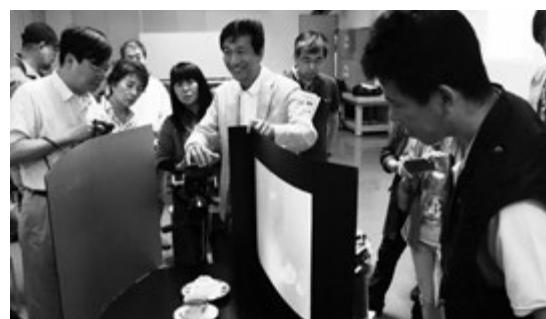
松原豊会員の講演会、会員によるイベントなどが盛り沢山で、たいへん忙しい一日を実行委員の結束力で、乗り切ることができました。

関西展の表彰式と講演会は、展示会場とは別会場の京都市国際交流会館で行いました。田沼会長の出席で入賞者の作品講評を交えての表彰式、宇井眞紀子会員の講演会等充実した内容で行うことができました。

また展示会場近くの“みやこめっせ”で「浴衣でフォトウォーク～in 京都・岡崎～女性のためのデジタル一眼レフカメラ講習」が行われ、参加者全員が浴衣姿で岡崎公園を散策するという面白企画も大成功でした。

JPS展は年間を通じての作業になります。一貫した安定的な運営が望ましと思い、前任の作り上げたフォーマットを大事に受け継ぎながら、大幅な変更はしないで39回展の運営に当りました。2年目の担当となる40回展はこれらを踏まながら運営上のスリム化を図り、より充実した運営と進行をするつもりです。

運営に当たって力を貸していただいた会員や賛助会社・副賞提供会社等、多くの皆様方の協力があって無事に終了することができました。最後に、この場を借りて感謝申し上げます。



東京展アトリエセミナー(撮影・今井康夫)

### 第39回 2014 JPS 展の報告

公募作品受付：13年12月15日（日）～14年1月15日（水）  
 作品審査：2月1日（土）  
 審査員：田沼武能（審査員長）、石橋睦美、長倉洋海、  
 ハナブサ・リュウ、前田利昭（『日本カメラ』編集長）  
 後援：文化庁ほか  
 総展示数：666枚（公募：291名 499枚、会員：50名 150枚、  
 ヤングアイ：17校 17点）  
 総入場者数：7,594名  
 入場料（各展共通）：一般700円（団体割引560円）、学生  
 400円（団体割引320円）、高校生以下無料、65歳  
 以上400円（関西展、名古屋展は65歳以上無料）  
 ※団体割引は20名以上  
 応募総数：2,165名 7,298枚  
 一般部門：2,043名 6,982枚  
 20歳以下部門：122名 316枚

#### 入賞・入選者総数：291名 499枚

一般部門：254名 428枚（文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞26名、入選215名）  
 20歳以下部門：37名 71枚（最優秀賞1名、優秀賞10名、入選26名）

#### 入賞者氏名：

文部科学大臣賞	高田泰子	本番前（95才）	単	カラー
東京都知事賞	中澤 仁	往く夏	3枚組	カラー
金賞	川畑嘉文	シリアル難民の子どもたち	5枚組	カラー
銀賞	加藤泰子	空中遊泳	3枚組	カラー
銀賞	藤井のばる	瀬戸内沿岸 2013	3枚組	カラー
銅賞	金森光紀	ビッグマウス	単	カラー
銅賞	保屋野厚	竜巻被害	4枚組	カラー
銅賞	木村正司	春夏秋冬	4枚組	カラー

（奨励賞以下略）

#### 20歳以下部門

最優秀賞	高橋佳沙音	光海	単	カラー
（20歳以下部門優秀賞以下略）				

会員作品：「プロの眼」 50名（3枚組写真） 150枚

イベントコーナー：「ヤングアイ」参加校 17校  
 公益社団法人日本写真家協会会長賞：日本大学芸術学部 写真学科「生-Ontology」重松駿、陳程  
 ヤングアイ奨励賞：専門学校札幌ビジュアルアーツ写真学科「SSS～Sapporo Street Style～」松田健太郎、塚本貴之  
 参加校：  
 専門学校 札幌ビジュアルアーツ写真学科・筑波大学 芸術専門学群・現代写真研究所・東京工芸大学 芸術学部写真学科・  
 学校法人専門学校 東京ビジュアルアーツ写真学科・学校法人専門学校 東洋美術学校 デザイン研究室・学校法人 吳学園  
 日本写真芸術専門学校・東京総合写真専門学校 写真芸術第一学科・学校法人 専門学校 名古屋ビジュアルアーツ写真学科・  
 名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科・学校法人 日本写真映像専門学校 写真コミュニケーション学科・  
 学校法人 ビジュアルアーツ専門学校 大阪 写真学科・大阪芸術大学 写真学科・倉敷芸術科学大学 芸術学部 メディア  
 映像学科・九州造形短期大学 造形芸術学科 写真 FIELD・九州産業大学 芸術学部 写真映像学科

#### 【東京展】

後援：文化庁、東京都  
 共催：東京都写真美術館



名古屋展展示会場（撮影・村山直章）

会場：東京都写真美術館（恵比寿ガーデンプレイス内）

会期：5月17日（土）～6月1日（日）10:00～18:00、木・金20:00閉館、月曜休館（5/19、5/26）

表彰式・講演会：東京都写真美術館 5月17日（土）13:00～14:30 表彰式、15:00～16:30 講演会「写真の可能性～ソーシャルアクションとしての『親子の日』～」  
 講師：ブルース・オズボーン（JPS会員）

祝賀会：5月17日（土）17:00～19:00 恵比寿ガーデンカフェ  
 イベント：セミナー 5月24日（土）10:30～15:30 東京都写真美術館1Fアトリエ「デジタルおもちゃ箱」  
 講師：岩本朗（JPS会員） 協力：株式会社ケンコー・トキナー、株式会社よしみカメラ

フロアレクチャー：期間中随時

入場者数：4,124名

#### 【名古屋展】

後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会

会場：愛知県美術館 ギャラリーE・F室

会期：7月1日（火）～6月（日）10:00～18:00、

金20:00閉館、最終日17:00閉館

表彰式・講演会：愛知県芸術文化センター 7月5日（土）18:30～18:50 表彰式、19:00～20:30 講演会「写真集『村の記憶』そこからはじめたこと。～里山在住写真家活動報告2014～」  
 講師：松原豊（JPS会員）

イベント：セミナー 7月5日（土）10:00～11:00 「ステップアップ！写真家が教える撮影のポイント」  
 講師：森田廣実、加藤智充（JPS会員）、11:00～11:30 「写真何でも相談室」  
 講師：JPS 展名古屋展委員

入場者数：1,744名

#### 【関西展】

後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会

会場：京都市美術館別館

会期：7月22日（火）～7月27日（日）9:00～17:00

表彰式・講演会：京都市国際交流会館 7月25日（金）13:00～14:30 表彰式、15:00～16:30 講演会「アイヌ民族に寄り添って～取材22年目を迎えて～」  
 講師：宇井眞紀子（JPS会員）

イベント：撮影会 7月22日（火）10:00～16:00 みやこめつせ B1F「浴衣でフォトウォーク～in 京都・岡崎～ 女性のためのデジタル一眼レフカメラ講習」  
 講師：柴田明蘭、大道雪代、田口葉子、西村仁見（JPS会員）  
 協力：株式会社ニコンイメージングジャパン、エプソン販売株式会社

入場者数：1,726名

#### 第39回 2014 JPS 展

写真展事業担当理事：熊谷 正

委員長：小松好雄 副委員長：石田研二 委員：荒谷良一、今井康夫、斎藤泉、外崎久雄、西村 満、増田雄彦、森下泰樹、山口一彦

名古屋展実行委員長：青木孝夫 副実行委員長：森田廣実、塚本伸爾 委員：アサイミカ、加藤智充、五木田友宏、小玉亘宏、白井厚、原田佐登美、松原 豊、村山直章

関西展実行委員長：永野一晃 副実行委員長：三村博史 委員：神崎順一、柴田明蘭、清水 薫、辻村耕司、中島佳彦、西村仁見、山岡正剛、横島克己



関西展撮影会「浴衣でフォトウォーク」（撮影・永野一晃）

# 第40回 2015 JPS 展案内

写真展事業担当理事 熊谷 正

2015年の第40回JPS展は、東京都写真美術館の改修工事のため、上野の東京都美術館にて開催することになります。展示スペースの制約が厳しい状態ですが、出来る限り観やすい展示に努めて行きたいと思っています。

## ●会員部門

2014年に募集しました会員部門「プロの眼」には、100点の作品が集まりましたが、スペースの関係上すべてを展示できず、2年に分けて50作品ずつ展示することになっています。従って今回は改めて募集はせず、2015年会員展には応募作品の残り半数の50名分の展示を予定しています。

## ●公募部門

応募規定は右枠内を参照。

今期から、変更になった応募規定は、以下の通りです。

### ・18歳以下部門

高校生、中学生などがデジタルカメラの普及により写真を撮る事が日常化している現状を踏まえ、若い写真愛好家を育成、奨励するために、今まで20歳以下部門としていたのを18歳以下部門に変更しました。

### ・応募作品サイズ

A4または六つ切サイズとしました。今まで、四つ切サイズも可としていたことによる作業の煩雑化がありましたので、ファイリングの容易なA4サイズを基本としました。

### ・応募受付料

消費税値上げに伴い変更しました（内容は右枠内を参照）。

## ■イベント等

講演会、セミナー、撮影会を開催予定。

## ■作品集

展示作品を写真集として発刊、販売。

## ■メールマガジン

JPS展メールマガジンをご購読下さい。下記アドレスから登録できます。

[http://www.jps.gr.jp/jps\\_magazine/](http://www.jps.gr.jp/jps_magazine/)



### \*応募要項配布のお願い\*

写真教室などの講師をされている会員の皆様、是非生徒さんへの配布をお願いいたします。また、店舗などに配布して頂ける方は、事務局までお知らせ下さい。

## <公募：一般部門、18歳以下部門 応募規定>

●応募資格：アマチュア、プロフェッショナル、年齢、性別、国籍を問いません。ただし、JPS会員は除きます。

### ●応募部門：

一般部門 年齢を問いません

18歳以下部門 1997年1月1日以降生まれの方

### ●テーマ：自由

●応募プリントサイズ：A4または六つ切8×10インチ(203×254mm)。カラー、モノクロ共プリントのみ。デジタル加工も可。ただしデジタル加工・合成等の欄に印を入れること。著作権は、必ず応募者のものであること。

●出品点数：単写真=制限はありません。組写真=5枚までを1組の制限として何組でもかまいません。組写真は、左より順に並ぶように構成して番号を付けてください。ただし、写真と写真は貼り付けないこと。また台紙にも貼らないで応募してください。

### ●受付手数料：

★一般部門：1枚につき2,200円（組写真の場合も1枚2,200円）

★18歳以下部門：1枚につき600円（組写真の場合も1枚600円）郵便局より下記郵便振替口座へ2015年1月20日（火）までにお振込みください。

通信欄に応募枚数、ご依頼人の郵便番号、住所、氏名、氏名フリガナ、電話番号を必ずご記入ください。

### ★応募作品の中に受付手数料の同封は厳禁とします。

応募作品返却希望者は、返送料2,000円を加算して振込みください。（海外からの応募の場合は返却できません）

郵便振替口座番号 00110-5-651936

口座名 日本写真家協会 JPS展

### ●受付及び締切：郵送または宅配便に限ります。

（持参は受付いたしません）

2014年12月15日（月）から2015年1月20日（火）まで。最終日消印有効。

●審査員：田沼能（審査員長）、安珠、中村征夫、林義勝、藤森邦晃（『フォトコン』編集長）（審査員の都合により変更することがあります）

●審査結果：2015年3月中旬頃、応募者全員に文書を送付。また、ホームページ（URL：<http://www.jps.gr.jp>）とメールマガジンでも発表いたします。（電話でのお答えはいたしません）

●展示用作品：入賞、入選作品は、後日指定する期日までに各自にて半切に引伸し、再提出していただきます。なお上位入賞者作品については大型サイズになる場合があります。

●展示及びパネルの製作費：入賞・入選作品は、当協会特注のパネルにて展示しますので、一般部門は1枚につき8,400円、18歳以下部門は1枚につき4,200円を指定の日時までに納入していただきます。納入がない場合は、入賞・入選が取り消しとなります。

### ●賞（一般部門）：

文部科学大臣賞 1名（賞状、楯、賞金50万円、副賞）  
東京都知事賞（予定）1名（賞状、楯、賞金30万円、副賞）  
金賞 1名（賞状、楯、賞金15万円、副賞）  
銀賞 2名（賞状、楯、賞金10万円、副賞）  
銅賞 3名（賞状、楯、賞金5万円、副賞）  
奨励賞 5名（賞状、楯、賞金2万円、副賞）  
優秀賞 20名程度（賞状、楯、副賞）  
入選 200名程度（賞状、記念品）

### （18歳以下部門）

最優秀賞 1名（賞状、楯、副賞）  
優秀賞 10名程度（賞状、記念品、副賞）  
入選 10名程度（賞状）

### ●展示会場・会期

東京都美術館…2015年6月11日～6月26日（予定）

京都市美術館別館…2015年6月（予定）

愛知県美術館…2015年7月（予定）

●作品集：第40回2015JPS展作品集の刊行を予定。

●応募先・お問い合わせ：〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル303 公益社団法人日本写真家協会

第40回2015JPS展 TEL.03-3265-7453 FAX.03-3265-7460

# J P S ブック レビュー

協会に寄贈された会員の出版物を到着順に掲載致します。  
(2014・5月～9月)  
 ①発行所 ②発行年月  
 ③サイズ (タテ×ヨコ)、頁数  
 ④定価 ⑤寄贈者  
 ⑥電子書籍ストア



## 空の辞典

小河俊哉

- ①雷鳥社 ②2014年4月  
 ③15.7 × 11.3cm、320頁  
 ④1,500円 ⑤小河氏  
 ⑥電子書籍ストア



## 明日へ。 東北の息吹 東日本大震災からの3年 - 2011-2014 -

榎並悦子

- ①朝日新聞出版 ②2014年5月  
 ③21 × 15cm、240頁  
 ④2,000円 ⑤榎並氏



## ぴっかぴか すいぞくかん

文・構成・なかのひろみ  
写真・福田豊文

- ①ひさかたチャイルド ②2014年6月  
 ③20.5 × 23.5cm、28頁 ④1,200円  
 ⑤福田氏



## にっぽんの祭り 撮り方&狙い方

森井禎紹

- ①日本写真企画 ②2014年5月  
 ③25.6 × 18.1cm、96頁  
 ④1,500円 ⑤森井氏



## 田中角栄といふ生き方

写真・山本皓一

- ①宝島社 ②2014年6月  
 ③25.7 × 18.2cm、128頁  
 ④900円 ⑤山本氏



## 全国私鉄超決定版 電車・機関車・気動車 1700

諸河 久、服部朗宏

- ①世界文化社 ②2014年6月  
 ③25.7 × 18.2cm、288頁  
 ④3,500円 ⑤発行所



## モノクロームの国鉄

諸河 久

- ①イカロス出版 ②2014年7月  
 ③25.7 × 18.2cm、189頁  
 ④2,000円 ⑤発行所



## 絶対に見たい！ 美しい世界の夜景

丸々もとお、丸田あつし

- ①宝島社 ②2014年6月  
 ③21 × 15cm、160頁  
 ④1,400円 ⑤丸田氏



## 私の歩んだ時代の カメラたち

若林のぶゆき

- ①パレード ②2014年6月  
 ③19.5 × 13.5cm、85頁  
 ④2,000円 ⑤若林氏



## どうぶつえんの みんなの1日

福田豊文

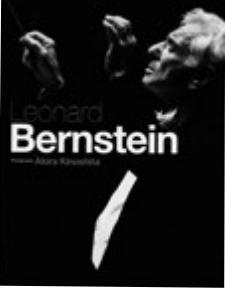
- ①アリス館 ②2014年4月  
 ③22.2 × 28.8cm、40頁  
 ④1,600円 ⑤福田氏



## 日本人の原風景

竹内敏信

- ①IBCパブリッシング ②2014年7月  
 ③22 × 18.3cm、143頁 ④3,200円  
 ⑤竹内氏

 <p><b>道東「十勝の詩」</b> 関口哲也</p> <p>①クナウマガジン ②2014年6月 ③21×25.7cm、128頁 ④2,800円 ⑤発行所</p>	 <p><b>叙景</b> 白井 厚</p> <p>①春夏秋冬叢書 ②2014年6月 ③19.7×22.5cm、88頁 ④1,800円 ⑤白井氏</p>	 <p><b>栄光のバーンスタイン</b> 木之下晃</p> <p>①響文社 ②2014年7月 ③24.5×18.8cm、160頁 ④3,200円 ⑤木之下氏</p>	 <p><b>四国遍路道 弘法大師伝説を巡る</b> 白木利幸、溝縁ひろし</p> <p>①談交社 ②2014年5月 ③21×15cm、191頁 ④1,600円 ⑤溝縁氏</p>
 <p><b>もう病気が怖くない！ たまねぎ氷 &amp; にんにくジャム</b> 村上祥子、撮影・岡崎裕武</p> <p>①ダイアプレス ②2014年6月 ③25.7×18.3cm、81頁 ④1,000円 ⑤岡崎氏</p>	 <p><b>シャッターチャンス物語</b> 北中康文</p> <p>①日本写真企画 ②2014年7月 ③21×14.8cm、111頁 ④1,389円 ⑤北中氏</p>	 <p><b>野菜美</b> 奥田 實</p> <p>①新樹社 ②2014年7月 ③30.3×23cm、182頁 ④3,600円 ⑤奥田氏</p>	 <p><b>ブッダの言葉</b> 訳・中村元、写真・丸山勇 解説・佐々木一憲</p> <p>①新潮社 ②2014年8月 ③18.2×10.3cm、175頁 ④1,400円 ⑤丸山氏</p>
 <p><b>四季を走る 鉄道撮影術</b> 長根広和</p> <p>①アストロアーツ ②2014年4月 ③27.7×21cm、127頁 ④2,000円 ⑤長根氏</p>	 <p><b>室蘭の顔 風の人 土の人</b> 山口一彦</p> <p>①北海印刷 ②2014年7月 ③25.7×19cm、210頁 ④2,500円 ⑤山口氏</p>	 <p><b>東日本大震災から3年 Vol.3</b> 亀田昭雄</p> <p>①アトリエ Winds ②2014年7月 ③15.2×19.7cm、66頁 ④3,000円 ⑤亀田氏</p>	 <p><b>100人の女性たち</b>  笹本恒子</p> <p>①JCII フォトサロン ②2014年9月 ③24×25cm、35頁 ④800円 ⑤発行所</p>

<p><b>富山写真語 万華鏡</b>      267 辻徳法寺 268 《高志の群像》向井國子      269 研波 子どもヨータカ 270 庄川 金屋石      271 《高志の群像》金澤敏子</p> <p>撮影・風間耕司</p> <p>①ふるさと開発研究所 ②2014年4月～8月      ③25×25.5cm、14頁      ④500円 ⑤風間氏</p>	<p><b>写真で読む 水俣を忘れない</b>      桑原史成</p> <p>①草土文化 ②2014年8月      ③22.7×16cm、95頁      ④1,800円 ⑤桑原氏</p>	<p><b>第二界 山よお前は美しすぎる</b>      川口邦雄</p> <p>①日本カメラ社 ②2014年9月      ③26.4×21.8cm、80頁      ④3,500円 ⑤川口氏</p>

## 寄 贈 図 書

前田憲男殿.....Guide of the Amphibians and Reptiles of Japan  
 行田哲夫殿.....四季の自然 武藏野  
 泉谷玄作殿・花火、花火の大図鑑、日本の花火はなぜ世界一なのか?  
 クレイヴィス殿.....写真家が捉えた昭和のこども  
 光村雅古書院殿.....飯塚富郎・ハナヤ勘兵衛・  
 昭和の神戸 昭和10～50年代  
 .....日本風景写真協会会員・遺したい日本の風景Ⅹ 歴史の街並  
 日本写真企画殿.....新井幸人・蒼い闇の中で  
 近藤誠宏殿.....坂井陽二・監修・近藤誠宏・いのち育む翠池の四季  
 .....佐々木善英・監修・近藤誠宏・猫に想い犬を想う  
 山村善太郎殿.....西川孟・西川孟 無我の軌跡 F64  
 松永楠生殿.....人・風景・光  
 JCII フォトサロン殿.....井上孝治・おとうさん  
 .....飛彈野数右衛門・  
 -写真的町東川町 30年記念-ほくの日記帳は、カメラだった。  
 .....フェリーチェ・ペアト・  
 ~幕末・明治の写真展~フェリーチェ・ペアトが見た日本 Part2

立木寛彦殿.....霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会・  
 霞ヶ浦帆引き船まつり10周年記念全集  
 東京都写真美術館殿.....WORLD PRESS PHOTO 14、  
 スピリチュアル・ワールド  
 .....佐藤時啓・光・呼吸 そこにいる、そこにいない  
 .....フィオナ・タン・まなざしの詩学  
 キヤノンマーケティングジャパン(株)キヤノンフォトサークル殿  
 .....Canon Photo Annual 2014  
 京都造形芸術大学殿.....オサム・ジェームス・中川写真展  
 「沖縄-オキナワー OKINAWA」  
 二科会写真部殿.....第62回展二科会写真部作品集  
 日本カメラ社殿.....春田佳章・TOWN、The Nude  
 日本写真協会殿.....「東京写真月間2014」図録  
 日本写真文化協会殿.....第60回全国写真展覧会作品集2013  
 日本肖像写真家協会殿.....人像2013  
 日本アリズム写真集団殿.....2014年「視点」第39回展作品集  
 雷鳥社殿.....キッチンミノル・フィルムカメラの教科書  
 リコーイメージング(株)ベンタックスリコーエミリークラブ事務局殿  
 .....PENTAX RICOH PHOTO ANNUAL 2014-2015

受賞おめでとうございます。今後ますますの活躍をご期待申し上げます。(50音順)



### ■第5回辻静雄食文化賞 平成26年6月3日

受賞者：小野吉彦（2004年入会）

書籍『食と建築土木』(写真・小野吉彦)に対して。



### ■第30回写真の町東川賞「特別作家賞」 平成26年8月9日

受賞者：酒井広司（1997年入会）

「偶景」シリーズに至る北海道を撮影した一連の作品に対して。



### ■第5回辻静雄食文化賞 平成26年6月3日

受賞者：本橋成一（1969年入会）

映画「ある精肉店のはなし」(プロデューサー・本橋成一)に対して。

# Message Board

## ◆吉野雄輔（2001年入会）

福音館書店『たくさんのふしき』シリーズの9月号で、『サメは、ほくのあこがれ』という写真絵本を出版しました。

サメ  
は、危  
険な生  
きもの  
だと思  
われて  
います  
が、ほ  
とんどのサメは、人を襲うことはありま  
せん。



海の中にサメがいるからわくわく、ど  
きどきする。伊豆の海で、ネコザメに出会  
って逃げてきた話から、日本、世界の海  
で、実際にいろんなサメに出会った冒  
险ストーリーです。

（東京都世田谷区在住）

## ◆林 義勝（1975年入会）

林忠彦写真展「日本の作家109人の顔」  
が東京、日比谷図書文化館に於いて9月  
26日～11月25日迄開催の運びとなっ  
た。日本の作家は父の代表作の一つとし  
て1971年に写真集が出版された。今回  
の写真展に合わせて43年振りにリメー  
ク版として小学館から写真集『日本の作  
家』が復刻され、同時に文庫『文士の時  
代』が中央公論新社より刊行されること  
になった。

父は生前「写真は記録性が大事」と時  
世の動きを捉え続け、72歳の生涯を現  
役写真家として全うした。

林忠彦の撮影した写真が見る人の心  
に留まり、往時の文士を偲び、過ぎ去り  
し過去から未来へと受け継がれていく  
ことを願っている。

（東京都新宿区在住）

## ◆若林のぶゆき（1963年入会）

昭和の時代からの銀塩カメラそして  
現在まで、私のロッカー内のカメラの一  
部を、私の仕事の道具として使用した時  
代の記録として本『私の歩んだ時代のカ  
メラたち』を出した。その中のカメラで自  
分勝手気儘に買ったカメラもありました。  
反響が大きく、その一般の家庭のアルバムの歴史を写したカメラの話、家に  
あったカメラはどれ、カメラの話題で楽  
しかった。電話やファックス、メールをい  
ただき、ありがとうございました。

（神奈川県横浜市在住）

## ◆秋田好恵（1967年入会）

故秋田淳之助 奄美のガジュマル「原  
霊樹」展を企画いたしました。平成25年  
6月銀座ニコンサロンから始まり、大阪

ニコンサロン。鹿児島県奄美パーク田中  
一村記念美術館、北海道東川町文化ギャ  
ラリーで両企画展を開催していただき、  
今年は名古屋市民ギャラリーで11月25  
日から30日までと決まりました。本人の  
未発表作は8×10モノクロ撮影。キチン  
と整理されました。病で果たせなか  
った無念さのお手伝いが少しだけ出来  
たかと思っています。

（東京都港区在住）

## ◆小橋健一（1979年入会）

2011年3.11の東日本大震災から3年  
と7ヶ月が経ようとしている。

震災発生時から自分自身に何が出来  
るか？と絶えず試行錯誤していた。その間  
自分の目で被災地を見てみようと3回  
現地に入った。気仙沼市と東松島市である。  
今回仙台市内に撮影依頼があり、そ  
のチャンスを活かし前日入りして以前  
から気になっていたJR仙石線の復旧状  
況を自分の眼で確かめに掛けた。現  
在、JR仙石線は松島海岸から矢本駅まで  
代替バスが走っている。その間が3.11大  
震災の津波でも甚大な被害が出た区間  
だ。

この区間はほぼ海岸線と並行して仙石  
線が走ってい  
るので線路を  
内陸側に移設  
する大工事も  
進み、いよいよ  
佳境となり、全  
線開通の見通  
しが立って來  
たようだ。2015  
年6月には開  
通するとい  
う。



高城町～陸前小野の工事が完了すると仙台～石巻間50kmが4年ぶりに全線  
開通となる。待ち望んでいた地域の皆さん  
の足となり日常が一つ戻って来るの  
かも知れない。喜びの笑顔が待ち遠しい  
ところです。写真は移設工事が終了した  
手標駅付近。

（東京都江戸川区在住）

## ◆木之下 晃（1971年入会）

此の度『栄光のバーンスタイル』を上梓。  
この写真集は現像を失敗した写真から  
始まった。音楽写真を志し、博報堂を  
辞めた74年に憧れの巨匠バーンスタイル  
を撮ることが出来た。その頃は団地住  
まいでも風呂場を暗室にして、家族が寝静  
まった深夜にフィルム現像をしていました。  
その夜、興奮と疲れで現像の途中に居眠  
り。気がついた時には1時間以上も経つ  
て、あわてて定着に入れたら真っ  
黒。でもよく見ると画像が反転してソラ

リゼーションを起こしていた。その荒れ  
た粒子のプリントを見た巨匠が「オオ!!  
マーラー」と大喜び。これが縁となって、  
巨匠を撮り続けたことで一冊の本にな  
った。まさしく失敗は成功の母である。

（神奈川県横浜市在住）

## ◆宮本 宏（1973年入会）

先日、元JPS副会長で恩師の川口政雄  
の命日に、教え子と元クリエイティブの所長・  
杉木彬氏と5人で四谷三丁目元JPS事  
務局そばの円通寺に墓参に行った。寺の  
住職が昨年亡くなつたそうで、生前の師  
の話が出来なくなりとても残念だった。  
今年が丁度30回忌だそうだ！墓参する  
方も皆喫煙を辞め、そこそこ加齢。墓参  
後、曙橋そばの紹興酒がとても旨かつた。  
以前、熱海での写真家協会総会後は  
ドジョッコフナッコとか秋田音頭とかを  
歌う名物会員が居た。Volvo 122Sに乗つ  
ていた怒れドライバーも居た。

元技術研究会委員長の後藤九さんは  
最新のミラーレス機を使い、今年ローマ  
に近く、花祭りで有名なジェンツィアーノ  
の名譽市民になったそうだ。

それとは逆にまだ銀塩マニュアル機  
で舞台の裾で作品を撮り続けている先  
輩もいる。いざれも尊敬する先輩だ。

（茨城県守谷市在住）

## ◆西川祐介（2004年入会）

私は毎年、初夏になると日本全国のゲ  
ンジボタル・ハイケボタルを撮影するの  
をライフワークにしています。一時期は  
産業の発展による自然破壊が原因で蛍  
の減少が叫ばれていたのですが、最近は  
地方経済の疲弊による保護活動の縮小  
や高齢化によって耕作放棄された田ん  
ぼのせいでも蛍が減少したように思いま  
す。自然保護の難しさを感じると共に写  
真で何が貢献できるかを考えさせられ  
ました。

（千葉県四街道市在住）

## ◆熊谷 正（1985年入会）

この度、インターネットラジオ放送局  
で、パーソナリティーを始めましたので、  
ご案内いたします。

カルチャー&エンターテイメント放送局  
ブルーレディオ・ドットコム 熊谷正の「美・日本写真」毎週火曜日22:00

更 新  
で、放  
送時  
間は約20  
分 で  
す。



## &lt;番組の紹介&gt;

写真家・熊谷 正がギャラリー・ベアーズのオーナーとなって、写真家仲間の個展を開くという設定で対談をします。1テーマにつき5枚組の写真を提示して頂き、その写真への思い、エピソードを伺い、写真家のルーツを探ります。

このインターネットラジオ放送は、声だけではなく写真画像もアップしています。またバックナンバーでいつでも視聴することができるのも特徴です。特に中堅の写真家に出演をお願いし、今の時代に何を感じ、なぜ写真を撮るのかなど、写真雑談をしていきます。

番組ホームページ：<http://www.blueradio.com/program/bjapan/>

(東京都世田谷区在住)

## ◆清水 健（2007年入会）

この度、今までの個人事務所を法人化させ、「株式会社 清水健写真企画事務所」を設立する運びとなりました。この新しい第一歩は、ひとえに皆様からの温かいご厚情の賜物であると、心より感謝を申し上げます。今までの写真業はもちろんのこと、今後は、グラフィックデザイン、編集、印刷、動画、グッズ制作等々、多岐にわたる企画・制作・販売活動を行っていく所存でございます。まだまだ未熟者でございますが、何卒倍旧のご指導ご鞭撻の程、末永く宜しくお願い申し上げます。

<http://kenshimizuphotocom>

(東京都目黒区在住)

## ◆藤村大介（2006年入会）

いつ寝ているのか分からないと、最近よく言われるようになった、癪しの写真家の藤村大介です。

しばらくの沈黙を破り、久しぶりに世界の夜景の個展を開催致します。前回(2002年、「暮色情景／富士フォトギャラリー東京・大阪」)の写真展は大盛況となり、現在の夜景写真ブームのきっかけになったと言われています。世界の夜景のみでの個展は12年ぶりになりますが、再展示の要望の強い作品も含め、30点ほどの作品を展示致します。今回個展を開催する会場は、ビックカメラ 池袋東口カメラ館の8階に新設されたギャラリードで、こけら落



としの開催となります。この名誉に恥じぬよう、良い作品を多数揃えて皆様にご覧頂くために準備致しております。

癪しの写真家 藤村大介 写真展

「美しき世界の黎明と逢魔時」

2014年9月23日(火)～10月13日(月)、BIC PHOTO GALLERY (東京・

池袋／ビックカメラ 池袋東口カメラ館)、東京都豊島区池袋1-1-3、TEL:03-3988-0002 (東京都多摩市在住)

## ◆水本俊也（2010年入会）

2013年より開始した「小鳥の家族」。鳥取県内の山、川、海、里を撮影の舞台(背景)とし、鳥取県在住の家族を主な被写体とした写真プロジェクトである。2011年、東日本大震災で被災された多くの方々が心の抱り所として1枚の家族写真を探し求めた。命の次に大切なものがあるとしたならば、それは「写真」になるかもしれない。人の記憶は薄れゆくものの。1枚の家族写真はきっと“かけがえのないもの”になるだろう。2014年、夏。鳥取砂丘で撮影を行った。撮影から1ヶ月。デジタルで撮影した写真はまだ紐解いていない。夏から秋へと季節が変わる頃、たつた1枚



の家族写真を丁寧に現像、プリント作業する。家族の肖像に今後の日本像を垣間見ている。

(神奈川県横浜市在住)

## ◆谷沢重城（2009年入会）

今回、恥を忍んで個展を開くことになりました。読売新聞大阪本社写真部に在籍、デスク業務などで現役の空白期間がありました。奈良在住の私にとりましても「大和は国のはろば」で、気がつけば大和の遠近を撮り続けていました。そんな中、一度まとめて個展を開きたく富士フィルムさんに応募し、許可を得ました。

しかし、先日大阪でも開催された田沼会長の写真展を取材させて頂き、写真に対する未熟さや甘さを痛感させられました。「個展は早すぎたな」と後悔の日々ですが、今は前を向いています。浅学な写真展になろうかと存じますがご高覧、ご指導いただければ幸いです。

テーマ：私記—大和、開催時期：2015年1月5日(月)～15日(木)午前10時～午後7時 最終日は午後2時まで。

開催場所：富士フィルムフォトサロン大阪、住所：大阪市中央区本町2-5-7 大阪丸紅ビル1F TEL:06-6205-8000

(奈良県奈良市在住)

## ◆熊切大輔（2004年入会）

写真家の木之下晃さんがプロデュースし、茅野市美術館が主催する写真展「寿讃歌歌IV」に父、熊切圭介と共に参加させて頂いた。80歳以上の「人生のマエストロ」達の活き活きとした表情を写し出したなんとも楽しい公募展だ。今回は田沼武能さん、松本徳彦さん、英伸三さ

んとご一緒させて頂くという、光栄というよりも畏れ多いメンバーに囲まれての出展となった。田沼さんは黒柳徹子さんを、松本さんはその田沼さんを撮影、熊切圭介は大先輩芳賀日出男さんを、そして私はその熊切圭介を撮影するという数珠つなぎな作品となった。撮影者でありモデルとなった先輩方を筆頭に、80歳以上もまだ現役バリバリというのを、一般出展者の方々の作品と共に証明した写真展になったのではないだろうか。

(東京都調布市在住)

## ◆小野吉彦（2004年入会）

神奈川県の葉山御用邸にほど近いところに加地邸という別荘があります。帝国ホテルなどを設計したF・L・ライトの日本人弟子・遠藤新の設計による昭和初期の建物で、豪華な建物と家具が建設当初のまま残っています。個人所有の別荘ですが、このたび10～11月の毎土・日曜日に一般公開されます。維持が困難になってきた所有者の加地さんは、改築しないでそのまま大切に所有してくださる方を探しています。その一環として建築史家、建物保存団体とともに公開の冊子の写真撮影で協力致しました。ご興味のある方はぜひ見学にお出かけください。詳細は「住宅遺産トラスト」でホームページ検索を。



(東京都新宿区在住)

## ◆酒井広司（1997年入会）

「この夏のこと」

8月に北海道の東川町から「写真の町東川町特別作家賞」をいただいた。この賞は北海道を撮影した作品に授与されるものである。

授賞式には田沼会長が来られておりJPS会員としてうれしかった。東川町が「写真の町」を30年続けてこれられ、その記念すべき年に受賞できたのも北海道人として誇りに思う。またいままで自分の写真を見ててくれた人々に感謝したい。

工芸大学で写真を学んだ時以外はずっと北海道に住んでいる。東京からすぐ帰ったのも北海道を撮影していたかったからだ。それから随分時間が経って写真もそれなりの分量になった。これからは過ぎ去った時間を写真の中で反芻しながら、今までの仕事をまとめている。

(北海道札幌市在住)

# 受賞・出版・写真展 2013年・日本写真家協会会員（1月～12月）

作品による会員の動きを記録する意味から年1回受賞・出版・写真展をされた方々の記録を掲載しております。資料は会員のアンケートの回答をもとに作成しておりますので掲載もれもあることと思いますがご了承下さい。

## ■受賞

会員名	受賞名	時期	理由
天野 尚	第7回安吾賞・新潟市特別賞	2/23	大自然の撮影に取り組み続ける功績に対して
岩崎 洋一郎	2013年 GOURMAND（グルマン）世界料理本大賞 SINGLE SUBJECT 部門大賞	2/23	撮影を担当した書籍「SUKIYAKI」に対して
江口 友一	広告電通賞（新聞広告）生活用品・家庭用機器部門最優秀賞	7/1	三菱電機株式会社レーザー光源搭載液晶テレビ「映像はいくつの『赤』を映し出せるだろうか。」に対して
大石 一男	第31回毎日ファッショントレンド賞・大賞	10/29	パリコレ撮影32年における日本人写真家の地位向上に大きく貢献した
大石 芳野	JCI賞（日本ジャーナリスト会議）	8/10	写真集「福島 FUKUSHIMA 土と生きる」に対して
小林 紀晴	第22回林忠彦賞	4/19	写真展「遠くから来た舟」に対して
清水 健	第1回日経ナショナルジオグラフィック写真賞 ビーブル部門最優秀賞	1/28	タイトル「チベット族」に対して
庄司 博彦	日本作家クラブ文芸賞	4/13	「震災が残した津波遺産」に対して
白鳥 真太郎	第62回日経広告賞大賞	10/11	「あなたがあなたであると、どうやって証明しますか。」に対して
高橋 与兵衛	平成25年度社会教育功労者文部科学大臣表彰	11/14	長年の社会教育活動に対して
丹野 章	「著作権貢献賞」（日本ユニ著作権センター）	12/12	多年にわたる著作権運動の功労に対して
鶴山 英次	第10回小金井市環境賞	2/11	小金井・多摩地域の多彩な環境保全団体に参加し、写真を通じて「野川」「玉川上水」「小金井桜」をはじめ、小金井の自然環境を社会に幅広く紹介した功績に対して
芳賀 日出男	第7回獅子博物館賞	12/7	日本・世界の祭り、民族・民俗芸能の広範な分野にわたる取材を40年以上敢行し、獅子舞の系譜について先鞭をつけた功績に対して
福田 俊司	2013年ワイルドライフ・フォトグラファー・オブ・ザ・イヤー・コンテスト 絶滅危惧種部門「特別賞ジエラルド・ダレル賞」	10/15	絶滅に瀕するアムール、またはシベリアトラの写真を自動撮影装置をつかわずに撮影し、希少な写真を撮影した功績に対して
前川 貴行	第1回日経ナショナルジオグラフィック写真賞 グランプリ	1/28	タイトル「密林のチンパンジー」に対して
水越 武	北海道文化賞	11/4	写真家として北海道の芸術振興に寄与していることに対して
本橋 成一	平成25年日本写真協会賞作家賞	6/3	『屠場＜とば＞』や新装改訂された『上野駅の幕間』など、国内外で時間をかけて一つのテーマに取り組み、被写体と真摯に向き合って社会の一側面を照らし出す作品を制作してきた作家活動に対して
山口 勝廣	上松町功労者表彰	11/3	上松町及び木曾郡全城の長年の写真を通じた文化貢献に対して
山下 隆文	第1回日経ナショナルジオグラフィック写真賞 ネイチャー部門最優秀賞	1/28	タイトル「海からの伝言」に対して

## ■出版

(写真集・写真関係著書・電子書籍・CD-ROM・DVD・ビデオ等)

会員名	著書名	発行所	発行月	定価
浅尾 省五	白クマたちの楽園（DVD）	メディア・ファイブ	9/20	3,000
阿部 俊一	癒される美瑛の大凧（DVD）	オフィスエース	8/12	3,000
天野 尚	美しき新潟 未来への記録	新潟日報事業社	5/11	3,333
荒川 好夫	よみがえるキハ80系・181系（共著）	学研パブリッシング	5/7	2,800
荒川 好夫	2014年カレンダー「昭和の名列車」	交通新聞社	10/1	1,300
荒川 好夫	2014年卓上カレンダー	鉄道総合技術研究所	12/1	—
飯島 正広	365日出会う大自然 森に住む動物	誠文堂新光社	2/28	2,400
飯田 典子	2014CALENDAR「ROSES & Honeybees」	マガジンランド	9/25	1,143
石黒 誠	月刊たくさんのふしげ11月号「雪虫」	福音館書店	11/1	667
伊藤 勝敏	ひとつぶの海	データハウス	4/1	2,000
井上 隆雄	すすきの気色 美しき無常	自然館	10/7	—
岩尾 克治	海の守護神 闘う！海上保安官 DVD（共著）	竹書房	1/21	1,800
岩崎 和雄	藏春閣	大成建設	9/30	—
薄井 大還	視線の先にあるもの－地球を元気にする人々－	JCII フォトサロン	9/10	800
内堀 タケシ	ランドセルは海を越えて	ボプラ社	4/	1,400
宇苗 満	奥尻島	日本の泉社	3/4	1,600
海野 和男	灯りに集まる昆虫たち	誠文堂新光社	2/22	1,500
海野 和男	フィールドガイド 身近な昆虫識別図鑑	誠文堂新光社	5/24	2,000
海野 和男	甲虫 カタチ観察図鑑	草思社	6/28	2,200
榎並 悅子	榎並悦子のマルテク式 極上フォトレッスン	朝日新聞出版	7/30	2,100
大石 芳野	福島 FUKUSHIMA 土と生きる	藤原書店	1/30	3,800
大屋 徳亮	さんま焼けたかな（共著）（電子書籍）	アマゾンキンドルストア	9/20	378
大屋 徳亮	small world（電子書籍）	アマゾンキンドルストア	10/15	300
奥田 倉之	裏桜	亥辰舎	4/1	2,200
尾辻 弥寿雄	パリ漫歩景	現代写真研究所出版局	7/20	2,800

会員名	著書名	発行所	発行月	定価
小野吉彦	食と建築土木 -たべものをつくる建築土木 (共著)	LIXIL出版	11/30	2,300
風間耕司	富山写真語 万華鏡 252-263	ふるさと開発研究所	1月～12月	各500
加藤庸二	日本百名島の旅	実業之日本社	7/5	1,800
金井杜道	国宝 興福寺仏頭展 (共著)	日本経済新聞社	9/3	2,500
金子美智子	風景写真のルールブック	マイナビ	7/7	1,700
亀田昭雄	東日本大震災から2年	アトリエwinds	7/1	2,500
官野貴	海の守護神 謎う!海上保安官DVD (共著)	竹書房	1/21	1,800
北添伸夫	いきものとなかよしはじめでの飼育 アガハ (共著)	金の星社	3/	2,500
木之下晃	ヤンソンとムーミンのアトリエ	講談社	10/24	2,000
木村純	はじめての抽象・やき物がますます楽しくなる (共著)	廣済堂出版	7/10	1,800
栗原達男	「9,000キロの旅人」-1967年春・シベリア鉄道全線-	JCII フォトサロン	3/12	800
桑原史成	水俣事件	藤原書店	9/30	3,800
結解学	鉄道のナゾ謎99 (共著)	ネコ・パブリッシング	4/27	590
結解学	鉄道のナゾ謎100 (共著)	ネコ・パブリッシング	8/1	630
小柴一良	水俣1974-2013 -水俣よ サヨウナラ、コンニチワ-	日本教育研究センター	6/28	3,600
小城崇史	Nikon D7100 完全マスターガイド (共著)	朝日新聞出版	5/10	1,800
小城崇史	Canon EOS70D 完全マスターガイド (共著)	朝日新聞出版	9/20	1,500
(故)小林新一	報じられなかった写真 昭和30年代 -写真家・小林新一の820カット-	新潟市歴史博物館	3/31	-
齋藤康一	時代に応えた写真家たち 齋藤康一	キヤノンマーケティングジャパン	11/21	-
齋藤康一	写真家たちの肖像	日本写真企画	11/22	3,300
(故)佐伯義勝	料理写真の世界	佐伯義勝写真実行委員会	5/1	2,000
櫻井寛	宮脇俊三と旅した鉄道風景	ダイヤモンド社	3/8	2,000
櫻井寛	人気鉄道でめぐる世界遺産	PHP研究所	5/2	1,300
櫻井寛	終着駅への旅 JR編	JTBパブリッシング	8/1	1,300
櫻井寛	駅弁ひとり旅ザ・ベスト 絶景・秘境編	双葉社	9/12	619
佐藤真樹	桃花の郷	佐藤真樹	2/8	3,700
白旗史朗	世界遺産 富士山	新日本出版社		8,000, 10,000
白旗史朗	名峰・日本縦断	新日本出版社	1/15	9,000
菅原千代志	スペイン 美・食の旅 バスク&ナバーラ (共著)	平凡社	5/24	1,600
鈴木一雄	-見たい撮りたい-日本の桜 200選	日本写真企画	2/27	1,714
須田一政	風の片	冬青社	9/28	2,800
関口照生	支倉の道	ブレスアート	10/10	2,000
高城芳治	カレンダー 2014年「日本の野鳥風景」(壁かけ、卓上)	TBLP	10/20	800, 1,200
高城芳治	日本の野鳥78種～山野の野鳥編～	恒星出版	11/28	1,100
高野潤	インカ帝国-大街道を行く	中央公論新社	1/25	1,000
高橋毅	絶景圏内半島	セキ株式会社	9/14	2,310
高山潔	越後一の宮 おやひこさま 弥彦神社写真集	BSN 新潟放送	3/27	3,000
田草川謙	奥飛驒彩四季	信毎書籍出版センター	10/1	1,905
武居台三	世界の絶景アルバム 101 南米・カリブの旅	ダイヤモンド社	3/29	950
竹内トキ子	2014カレンダー「こころの富士」	辰巳出版	9/	1,100
竹内敏信	富士山	出版芸術社	9/30	8,000
竹内敏信	時代に応えた写真家たち 竹内敏信	キヤノンマーケティングジャパン	10/17	-
竹田武史	シッダールタの旅 (共著)	新潮社	4/25	1,500
田沼武能	人間万歳 -写真をめぐるエセー	岩波書店	4/19	1,800
田沼武能	時代に応えた写真家たち 田沼武能	キヤノンマーケティングジャパン	4/24	-
田ノ岡哲哉	四季の花撮影	日本カメラ社	1/29	1,800
長尾迪	From Vale Tudo to MMA (共著)	PVT1 Editora	1/	
中川喜代治	北斎と暁斎 -奇想の漫画 (共著)	太田記念美術館	4/26	1,800
中川喜代治	江戸の美男子 -若衆・二枚目・伊達男- (共著)	太田記念美術館	7/1	2,000
中川喜代治	笑う浮世絵 -戯画と国芳一門 (共著)	太田記念美術館	10/1	2,300
長倉洋海	お~い、雪よ	岩崎書店	9/16	1,600
長倉洋海	小さなかがやき (共著)	偕成社	12/4	1,300
長倉洋海	ルーマニア 世界のもだち	偕成社	12/14	1,800
中田昭	京都の古寺 色彩巡礼 (共著)	淡文社	3/15	1,800
永武ひかる	世界のともだち03 ブラジル 陽気なカリオカミゲル	偕成社	12/	1,800
中谷吉隆	極楽のアート 中谷吉隆フォト俳句作品集	リョーヤン	9/4	3,500
中谷吉隆	- 1966 ~ 1975 -道東	JCII フォトサロン	10/8	800
中西裕人	生きかた上手 新訂版 (共著)	いきいき	4/30	1,200
中西裕人	死を越えて 「生きかた上手」の言葉 150 (共著)	いきいき	10/4	1,300
中西裕人	大人のかぎ針小物 (共著)	いきいき	11/14	1,500
中村征夫	時代に応えた写真家たち 中村征夫	キヤノンマーケティングジャパン	7/4	-
中村昇	裸のファイル	双葉社	11/17	3,400
西野嘉憲	光るキノコと夜の森 (共著)	岩波書店	7/3	2,500
西村豊	キツネにもらったたからもの	アリス館	5/20	1,400
西村豊	こりすのかくれんぼ	あかね書房	10/15	1,200
野町和嘉	時代に応えた写真家たち 野町和嘉	キヤノンマーケティングジャパン	8/5	-
芳賀日向	ヨーロッパの民族衣装 衣装ビジュアル資料	グラフィック社	4/25	2,300
芳賀日向	アジア・中近東・アフリカの民族衣装 衣装ビジュアル資料2	グラフィック社	11/25	2,300
ハナカリヨウ(英題)	美しいヌードを撮る!	平凡社	8/12	960
林義勝	中村勘三郎 1975 ~ 1982	JCII フォトサロン	1/7	1,500

会員名	著書名	発行所	発行月	定価
林 義勝	観阿弥生誕680年 世阿弥生誕650年記念 風姿花伝 観世宗家(共著)	観世文庫	1/7	2,000
林 義勝	能はこんなに面白い! (共著)	小学館	9/18	1,800
原 芳市	常世の虫	著穹舎	3/25	3,600
原 田 寛	鎌倉 長谷寺 原田寛写真集	かまくら春秋社	6/10	2,000
原 田 寛	鎌倉の古道と仏像	JTB パブリッシング	7/1	1,600
日高 勝彦	大森 海苔漁の原風景	アトリエベベ	9/21	1,200
福田 俊司	タイガの帝王 アムールトラを追う	東洋書店	5/22	2,600
藤井 一広	Canon EOS Kiss X6i オーナーズガイド (共著)	秀和システム	2/1	1,480
藤塚 晴夫	こだわり歴史紀行 ポーランド (電子書籍)	日経BPコンサルティング	9/24	1,620
藤森 武	きものの不思議 (共著)	淡交社	12/5	2,500
古澤 誠一	寡黙の街へ	ハマンフォトグラフィ	9/20	2,000
堀内 広治	美しい住宅をつくる方法 (共著)	エクスナレッジ	3/23	2,200
前川 貴行	animalandscape 1998-2013	青著社	7/25	3,500
牧野 貞之	蘇りの火と水	小学館	2/25	2,800
増田 彰久	歴史遺産 近代建築のアジア 第1巻中国 (共著)	柏書房	6/10	15,000
増田 彰久	日本のステンドグラス 明治・大正・昭和の名品 (共著)	白揚社	10/20	3,200
増田 彰久	ニッポンの名建築を旅する (共著)	交通新聞社	12/1	1,200
増田 雄彦	Photoshop Lightroom5 逆引きデザイン事典 PLUS [Ver.5/4 対応] (共著)	翔泳社	12/16	2,500
松尾 順造	長崎の遺産。天主堂のぬりえ	ノンブルジヤパン	1/	1,000
松尾 順造	長崎千夜一夜	長崎文献社	10/7	1,200
丸田 あつし	夜光列車 (共著)	光村推古書院	1/23	2,400
丸田 あつし	夜景手帳 (共著)	光村推古書院	5/23	1,400
丸田 あつし	世界ノ夜景カレンダー 2014	光村推古書院	10/	1,500
水越 武	月に吠えるオオカミー写真をめぐるエセー	岩波書店	2/27	1,900
水谷 章人	デジタル時代のスポーツ写真テクニック	日本写真企画	8/30	1,680
水谷 章人	時代に応えた写真家たち 水谷章人	キヤノンマーケティングジャパン	9/12	-
水野 克比古	京都花散歩	光村推古書院	3/27	1,600
水野 克比古	若冲 五百羅漢 石峰寺	芸艶堂	3/27	2,000
水野 克比古	京都茶庭拝見	光村推古書院	6/27	1,600
水野 克比古	京都を愉しむ 京都で見つけるとておきの紅葉	談交社	10/2	1,400
水野 克比古	京都雪景色	光村推古書院	12/22	1,600
満縁ひろし	京舞妓 宮川町	光村推古書院	4/24	1,600
南 良和	- 1957 ~ 1991 - 「秩父三十年」	JCII フォトサロン	4/9	800
宮嶋 茂樹	陸海空 不肖・宮嶋自衛隊カレンダー	トライエックス	10/1	2,500
宮武 健仁	たくさんのかしこ 桜島の赤い火	福音館書店	1/1	700
宮武 健仁	桜島 生きている大地	パイインターナショナル	8/6	1,400
村上 光明	神々の島 奈美	鹿児島学術文化出版	3/31	1,905
本橋 成一	うちちは精肉店	農山漁村文化協会	3/5	1,600
森田 敏隆	NATIONAL PARKS of JAPAN	Ministry of the Environment	/	-
諸河 久	小田急電鉄 半世紀の軌跡 (共著)	彩流社	8/1	1,900
諸河 久	郷愁 国鉄の時代 (共著)	イカロス出版	9/25	1,800
諸河 久	よみがえるブルートレイン (共著)	学研パブリッシング	10/1	2,800
八木 祥光	たんぽぽ仙人「風のたより」No5 RED、No6 Planet	やるき出版	6/8	各 1,500
柳木 昭信	立山-風の記憶	山と溪谷社	6/5	3,200
山岸 伸	瞬間の顔 Vol.6	山岸伸写真事務所	10/24	1,524
山口 規子	奇跡のリゾート 星のや 竹富島 (共著)	河出書房新社	4/30	2,500
ハービー・山口	代官山17番地-写真家になる日-	JCII フォトサロン	6/4	800
山本 宏務	晴れの日と常の日	春夏秋冬叢書	12/10	-
横塚眞己人	ダヤンと森の写真絵本 ねどこどこ? (共著)	長崎出版	2/20	1,500
吉野 雄輔	会いに行ける海のフシギな生きもの	幻冬舎	6/10	1,300
吉野 雄輔	カレンダー 2014 「海の時間 Blue」	山と溪谷社	9/24	1,200
米 美知子	米美知子の素敵自己表現~ネイチャーフォトの楽しみ方~	日本写真企画	9/20	1,800
米屋 こうじ	I LOVE TRAIN アジア・レイル・ライフ	ころから	3/10	2,200
薺田 純一	立花隆の書棚 (共著)	中央公論新社	3/10	3,000
和田 剛一	ゆめみるカワガラス	atelier-funfan	6/15	-
会員12名他	写信州 (共著)	長野県生まれの写真家たち	10/20	1,500

## ■写真展 (一門展・巡回展・常設展などの写真展は省略させていただきました)

会員名	写真展名	会期	会場
芥川 仁	アフリカ 光と影	4/23 ~ 5/6	宮崎市・ArtSpace 色空
芥川 善行	空から見た日本パノラマ紀行	12/6 ~ 12/18	富士フィルムフォトサロン大阪
浅尾 省五	白クマたちの楽園	8/9 ~ 8/15	フレームマン、ギンザ、サロン
浅尾 省五	~アンコール~白クマたちの楽園	10/4 ~ 10/10	富士フォトギャラリー新宿
麻賀 進	それぞれの木立・時の記憶	3/27 ~ 4/8	ベンタックスフォーラム
浅野 久男	光りに触れる旅	4/27 ~ 7/25	札幌市・札幌大通地下ギャラリー 500 m美術館

会員名	写真展名	会期	会場
足立 寛	I LOVE NEW YORK 1978 ~ 82	4/28 ~ 5/25	世田谷区・キャロットタワー2階ギャラリー・カフェ「くりっく」
阿部 俊一	美瑛の四季	11/3 ~ 11/17	北海道・三浦綾子記念文学館
天野 尚尚	新潟の風景 未来への記録／天野尚の視点	6/8 ~ 6/23	新潟県立近代美術館
天野 尚尚	視力 6.0 の世界	9/6 ~ 9/16	新潟市・朱鷺メッセ 展示ホール
荒川 好夫	煙《蒸気機関車》	9/3 ~ 10/7	杉並区立高井戸図書館
飯田 裕子	村がいいさね 川場村	10/5 ~ 11/30	群馬県利根郡川場村田園プラザ
飯塚 明夫	サヘル 褐色の大地より	11/16 ~ 11/26	コニカミノルタプラザギャラリーC
池田 勉	能登半島の祭及び森山・雲仙の風景	2/23 ~ 2/27	長崎県・諫早市立森山図書館
池田 勉	佐渡ヶ島及び諫早の風景	3/27 ~ 3/31	長崎県・諫早市立諫早図書館
池田 勉	西海巡礼及び大村の風景	9/18 ~ 9/24	長崎空港2F ロビー
池田 勉	東彼杵の里	10/13 ~ 11/10	長崎県・東彼杵町歴史民俗資料館
池田 宏	北極南極展	12/10 ~ 12/26	コニカミノルタプラザギャラリーC
石津 聰	光景	8/20 ~ 8/25	札幌市・コンチネンタルギャラリー
伊知地 国夫	写真で楽しむ 科学のふしぎ	8/16 ~ 8/29	富士フィルムフォトサロン東京
伊藤 勝敏	ひとつぶの海	6/24 ~ 6/27	沖縄コンベンションセンター
今村 拓馬	こんな学校に通いたかった	7/18 ~ 7/24	キヤノンギャラリー銀座
今森 光彦	昆虫 4億年の旅	8/4 ~ 9/8	宇都宮美術館
伊丸岡 秀蔵	熊と熊貓	12/2 ~ 1/15	札幌市・札幌中央図書館1F 展示ホール
岩崎 和雄	喜翁閣	1/24 ~ 1/30	キヤノンギャラリー銀座
岩橋 崇至	大地の彩～北アルプス・THE ROCKIES～	1/26 ~ 2/11	港区・Gallery 青藍
岩橋 崇至	大地の貌	8/12 ~ 8/26	松本市・松本市美術館市民ギャラリーA
宇井 真紀子	第28回東川賞特別作家賞受賞「アイヌ、風の肖像」	3/27 ~ 4/2	小平市・シラヤアートスペース
薄井 大還	-視線の先にあるもの- 地球を元気にする人々	9/10 ~ 10/6	JCII フォトサロン
内堀 タケシ	7年目のランドセル	8/9 ~ 8/11	港区・青山スパイラルホール1F
内山 英明	アトムワールド ATOM WORLD	4/30 ~ 5/13	新宿ニコンサロン
宇納 敏	身近な花の彩	5/1 ~ 5/6	町田市フォトサロン
鳥里 鳥沙	淨土・聖地 -チベットに生きる-	3/8 ~ 3/22	港区・東京中国文化センター
海野 和男	海野和男の小諸日記	7/26 ~ 9/1	小諸高原美術館
枝川 一巳	レッドランズの印象	9/27 ~ 10/3	日野市・ひの煉瓦ホール2階展示室
枝川 一巳	カリフォルニア「レッドランズの街」	12/12 ~ 12/27	HCL フォトギャラリー新宿御苑
大石 芳野	福島 FUKUSHIMA 土と生きる	4/3 ~ 4/12	コニカミノルタプラザギャラリーC
大石 芳野	FUKUSHIMA 土と生きる	8/15 ~ 9/30	京都造形芸術大学瓜生館1F
大浦 タケシ	Expression～生き物たちの肖像～	4/19 ~ 5/2	エブソンイメージングギャラリーEブサイト
大倉 乾吾	再見・香港 (SAYONARA,HongKong)	9/8 ~ 10/6	香港・オフィス・バティアン
大竹 省二	PASSAGE～旅の行方～	3/16 ~ 4/7	静岡市・グランシップ6F 展示ギャラリー
大塚 勝久	西表石垣国立公園 八重山の原風景	3/7 ~ 3/14	石垣市役所2階 特設会場、他
大塚 勝久	平久保サガリバナの原風景	11/26 ~ 12/6	石垣市役所1F 特設会場
大塚 勢努	memento mori	4/2 ~ 4/7	京都・ギャラリー・マロニエ、新宿
大西 みづぐ	物語	9/2 ~ 9/8	中央区・銀座奥野ビル 306号室
大沼 英樹	春の光をもとめて	7/9 ~ 7/15	新宿ニコンサロン
大野 隆志	離島の息づかい～ハート愛ランド黒島	11/21 ~ 11/27	京急百貨店・ウイング上大岡
大野 雅人	Shinra	11/22 ~ 12/5	エブソンイメージングギャラリーEブサイト
大八木 茂	カレンダー原画写真展「憧憬」	10/17 ~ 10/20	北海道立釧路芸術館
大山 謙一郎	幸せの国～ブータン～	1/7 ~ 1/16	キヤノンギャラリー名古屋
岡田 正人	「東京」Popularized culture	9/13 ~ 9/29	世田谷区・Whisper
沖野 豊	響	1/4 ~ 1/10	富士フィルムフォトサロン大阪
奥田 實	桜花ぞぞろ歩き	4/6 ~ 5/19	長野県・北アルプス展望美術館(池田町立美術館)
尾辻 弥寿雄	パリの街角 coin de rues de Paris	7/24 ~ 8/2	コニカミノルタプラザギャラリーC
小野 庄一	体感!! 絶景富士山頂「天界」	8/19 ~ 8/29	コニカミノルタプラザギャラリーB
KAO'RU(柴原薫)	KAORU Exhibition Flowers 3	1/19 ~ 2/1	愛知県・日進にぎわい交流館ギャラリー
KAO'RU(柴原薫)	KAORU Exhibition	5/31 ~ 6/13	仏・Galerie SATELLITE
KAO'RU(柴原薫)	KAORU Exhibition Vol.10 ~ feeling ~	12/17 ~ 12/26	アートギャラリー銀座
梶山 博明	旅の記憶 N-real color-Z	1/12 ~ 2/3	モンベル京都駅前
梶山 博明	原色のニュージーランド	10/2 ~ 10/15	ニコンプラザ仙台フォトギャラリー
金井 杜道	- 1977年に -	3/18 ~ 3/23	中央区・ギャラリーミハラヤ
金井 杜道	とりたての仏像たち	8/29 ~ 9/10	中央区・奈良まほろば館
金本 孔俊	神秘の大地アラスカ	5/2 ~ 5/7	神戸市・デュオギャラリー(Ⅱ)
亀村 俊二	「京」の「構図」	4/1 ~ 4/7	京都市・ホームギャラリー horizont
亀村 俊二	「京」の「構図」其の二 +<暖簾百点>	10/28 ~ 11/3	京都市・ホームギャラリー horizont
唐木 孝治	ミラージュスコープの世界	8/6 ~ 8/31	長野県・駒ヶ根高原美術館
唐木 孝治	市田柿の里	10/2 ~ 11/11	長野県・高森町安直や「風と土ギャラリー」
川合 麻紀	SAFARI…大地と空の色彩	2/21 ~ 2/27	フォトギャラリーキタムラ新宿
川田 喜久治	Unknown2013	7/20 ~ 10/20	中央区・ライカギャラリー東京
川本 武司	仔馬の四季	5/31 ~ 6/6	フレームマン・ギンザ・サロン
菊池 哲男	白馬岳～自然の息吹～	1/23 ~ 2/5	ニコンプラザ仙台フォトギャラリー
菊池 哲男	八ヶ岳 冬一日	1/24 ~ 1/30	フォトギャラリーキタムラ新宿
菊池 東太	DESERTSCAPE2	2/23 ~ 3/4	コニカミノルタプラザギャラリーC
菊池 東太	白亜紀の海2	3/5 ~ 3/18	新宿ニコンサロン
金城 真喜子	Leaf&Leaves2	1/7 ~ 1/28	千代田区・快晴堂フォトサロン
久保 靖夫	江戸の祭り	6/10 ~ 6/16	新宿・ハイジアギャラリー

会員名	写真展名	会期	会場
久保 靖夫	「伊豆の七島」島民の生活	8/11 ~ 9/1	港館ギャラリー
熊谷 正	旅情・ヴェネチア	2/16 ~ 2/28	新宿区・Gallery Bar 26日の月
熊切 圭介	カオハガンからの風	1/17 ~ 1/23	オリンパスギャラリー東京、福島県
栗原 達男	9000キロの旅人－春のシベリア鉄道を行く－	3/12 ~ 4/7	JCII フォトサロン
黒崎 彰	東京都東村山市青葉町4丁目多磨全生園	6/17 ~ 6/23	新宿区・都政ギャラリー東京都議会議事堂1F
黒沢 富雄	西塔子回り舞台	10/18 ~ 10/22	常陸大宮市・塙田公民館内、他
桑原 史成	不知火海	11/6 ~ 11/19	銀座ニコンサロン
小池キヨミチ	ロッキー・マウンテンの彼方に	5/22 ~ 6/3	ベンタックスフォーラム
越信 行	駿彩～信州メルヘン駅街道	8/21 ~ 8/26	大阪府・いけだ市民文化振興財団ギャラリー、東京都
小林 紀晴	けのものみち	2/13 ~ 2/26	銀座ニコンサロン
小林 紀晴	背中を追って 写真家・古屋誠一への旅	2/18 ~ 2/23	中央区・森岡書店
小林 紀晴	第22回林忠彦賞受賞記念写真展「遠くから来た舟」	4/19 ~ 4/25	富士フィルムフォトサロン東京、周南市、北海道
小林 紀晴	Komenomichi	6/27 ~ 7/3	大阪ニコンサロン
小林 廉宣	La Forêts Rouges メーブルの赤い森	9/4 ~ 9/30	大田区・Deco's Dog Cafe 田園茶房
小松 健一	三國志巡禮	1/5 ~ 1/16	アイデムフォトギャラリー「シリウス」、埼玉県
小松 健一	探検家矢島保治郎展 -中国～チベットに足跡を辿る-	3/2 ~ 3/24	伊勢崎市・赤堀歴史民俗資料館
小松 健一	オリジナルプリント展 -上州・東京・沖縄・チリ・ヒマラヤ-	6/3 ~ 6/8	中央区・画廊るたん
小松 稔	ROCKS	10/21 ~ 10/27	渋谷区・トキ アートスペース
近藤 誠宏	19th「Now Yangon」	9/26 ~ 10/1	岐阜市・ロイヤルホールロイヤル劇場ビル3F
齋藤 康一	THE MAN～時代の肖像～	11/21 ~ 11/27	キヤノンギャラリー銀座
齋藤 康一	写真家たちの肖像 -先輩・後輩・仲間たち	11/21 ~ 12/24	キヤノンギャラリーS
齋藤 ジン	BOSHIN -会津風情-	10/25 ~ 10/31	富士フォトギャラリー新宿スペース2
坂田 栄一郎	江ノ島	7/13 ~ 9/29	品川区・原美術館
坂田 峰夫	202リビング	11/29 ~ 12/24	渋谷区・20202
佐々木 貴範	変貌 -3.11釜石	2/27 ~ 3/12	銀座ニコンサロン
笹本 恒子	ふだん着の箪笥恒子展	9/10 ~ 9/15	ギャラリーコスモス
佐藤 昭一	アンテロープとザイオン～アメリカ西部・裸の地層帯～	4/16 ~ 4/21	千代田区・クラブ25ギャラリー
佐藤 昭一	アメリカ大西部～記憶との面会～	6/5 ~ 6/17	町田市フォトサロン
佐藤 仁重	出会いの瞬間～日光散策～	3/16 ~ 3/24	日光市杉並木公園ギャラリー
佐藤 仁重	Shadow&Brightness～ニューヨークメモリー～	4/26 ~ 5/9	富士フォトギャラリー新宿
佐藤 仁重	THE MASK	10/15 ~ 10/30	千代田区・アートスペース丸の内
信太 一高	三國連太郎さんを追悼する	6/14 ~ 6/16	栃木県総合文化センター
渋谷 利雄	能登キリシマツツジの源流へ「霧島連山にまほろしを求めて」	2/2 ~ 2/28	七尾市・しら井ミニギャラリー・玉藻
渋谷 利雄	祭りの国・半島能登。(三朱の郷)	2/25 ~ 4/20	石川県・和倉温泉加賀屋ロビー
下瀬 信雄	つきをゆびさす	7/17 ~ 7/30	銀座ニコンサロン
庄田 洋	流れそれでも	5/3 ~ 5/8	品川区・O美術館
庄田 洋	未来にむかう元気を!	8/3 ~ 8/7	陸前高田市・朝日のあたる家、米崎コミュニティセンター
白川 義員	「アルプス」から「南極大陸」へ	1/8 ~ 1/23	ポートレートギャラリー
白川 義員	永遠の日本	4/26 ~ 5/6	北九州市・小倉井筒屋新館9階パステルホール
白旗 史朗	白旗史朗作品展	1/4 ~ 1/10	富士フィルムフォトサロン東京・ミニギャラリー
白旗 史朗	写真家たちの富士山 Vol.1～白旗史朗～	10/2 ~ 12/26	岡田紅陽写真美術館 企画展示ホール
白旗 史朗	世界遺産「富士山」	10/2 ~ 12/26	山梨県・忍野美術館
菅井 日人	天国の窓	4/11 ~ 4/17	キヤノンギャラリー銀座
杉山 正己	玉碎の島 アツツヘ	4/1 ~ 6/23	千代田区・靖國神社 遊就館
鈴木 一雄	櫻乃物語	3/13 ~ 3/25	ベンタックスフォーラム、新潟
須田 一政	恐山へ	1/15 ~ 2/22	横浜市・ギャラリーパストレイズ
須田 一政	浮雲	7/20 ~ 8/31	横浜市・ギャラリーパストレイズ
須田 一政	テンブーション 2011-2013	9/4 ~ 10/5	港区・フォト・ギャラリー・インターナショナル
須田 一政	嵐の片	9/28 ~ 12/1	東京都写真美術館 2階展示室
須田 一政	無名の男女 東京・1976 ~ 8年	10/4 ~ 10/26	中野区・ギャラリー冬青
須田 一政	ALBUM -惜春鳥 1968-1973	12/20 ~ 2/15	横浜市・ギャラリーパストレイズ
関口 照生	地球の笑顔	7/22 ~ 8/31	港区・伊藤忠青山アートスクエア
関口 照生	支倉の道	10/4 ~ 11/17	仙台市博物館、他
高嶋 清明	昆虫空間	11/7 ~ 11/13	オリンパスギャラリー東京
高城 芳治	高城芳治写真展	3/3 ~ 3/30	GFC 奥琵琶湖
高橋 敬市	劍岳遠近	12/21 ~ 2/23	富山市・富山県民会館B ギャラリー
高橋 敏毅	小田深山の四季	8/2 ~ 8/8	富士フィルムフォトサロン東京、愛媛県
高村 達	Green in the glass～ガラスの中の杜	7/16 ~ 7/26	中央区・EIZO ガレリア銀座
高屋 力	THE LAST RUNNING ～福知山の183系・最後の力走～	4/13 ~ 4/17	新宿・ギャルリー トラン・デュ・モンド、京都
田草川 譲	奥飛驒彩四季 田草川謙紀行写真展	10/19 ~ 10/28	高山市・Gallery 遊朴館
竹内トキ子	富士山～雲の変幻～ たづくり企画展	4/6 ~ 5/26	調布市文化会館たづくり1階展示室
竹内敏信	新・日本名瀑	1/1 ~ 1/27	水の駅 ピューフ島潟
竹内敏信	欧洲造遣 -30年の眼差し	10/17 ~ 10/23	キヤノンギャラリー銀座
竹内敏信	悠久の列島 -日本人の原風景	10/17 ~ 11/18	キヤノンギャラリーS
竹田 武史	茶馬古道をゆく	11/11 ~ 11/15	同志社中学校図書メディアセンター
田中 博	トンボ日記～水辺の詩～	3/22 ~ 3/27	京都市・ABOX ギャラリーI
田沼 武能	シルクロード 心の旅	4/24 ~ 5/27	キヤノンギャラリーS
田沼 武能	戦後を生きた子どもたち	4/25 ~ 5/8	キヤノンギャラリー銀座
田沼 武能	アトリエの16人	8/26 ~ 11/1	中央区・ノエビア銀座本社ビルギャラリー1F
田ノ岡哲哉	華宇宙 -フルーツ	11/26 ~ 12/1	ギャラリー2104

会員名	写真展名	会期	会場
田村 仁志	ちっちゃな世界	5/28 ~ 6/8	佛教大学四季センター
ダン 和田	ダン和田 営業写真展	9/13 ~ 9/19	フレームマン、ギンザ サロン
丹野 章	地底のヒーローたち -長崎県高島炭鉱-	10/10 ~ 10/16	キヤノンギャラリー銀座
土田 ヒロミ	フクシマ in 広島	7/20 ~ 8/13	広島・galleryG、他
土屋 敏朗	都会の穴 13.5	6/8 ~ 6/17	名古屋市・セントラルギャラリー
テラウチマサト	東京、海に向かって	1/8 ~ 1/13	中央区・ia gallery
テラウチマサト	"パリから帰った富士山" 展	7/3 ~ 7/21	中央区・72Gallery
テラウチマサト	「海を渡った富士山」	7/17 ~ 8/11	RING CUBE 8階ギャラリーゾーン A.W.P
テラウチマサト	「恋する山 富士山！」	10/1 ~ 10/31	河口湖オルゴールの森美術館
徳谷 ヒデキ	その先にあるパリ	2/13 ~ 2/25	ベンタックスフォーラム
内藤 律子	馬・馬・馬	10/3 ~ 10/8	富士フィルムフォトサロン仙台
中井 精也	中井精也が撮るベトナム南北鉄道の旅	10/30 ~ 11/4	リコーアイメージングスクエア新宿 ギャラリーII
永井 秀幸	Prelude (前奏曲)	5/23 ~ 5/29	静岡市・千代田画廊
中川 幸作	私が出会った芸術家 100人	1/22 ~ 1/27	愛知県・ノリタケの森ギャラリー
長倉 洋海	地を駆ける	9/21 ~ 10/20	釧路市美術館
中谷 吉隆	-1966 ~ 1975- 道東	10/8 ~ 11/4	JCII フォトサロン
中村 征夫	ひさかた	7/4 ~ 7/10	キヤノンギャラリー銀座
中村 征夫	Magic of the blue ~深遠なる海への旅路~	7/4 ~ 8/3	キヤノンギャラリーS
奈良原 一高	手のなかの空 奈良原一高 1954-2004	1/2 ~ 2/15	長崎市・長崎県美術館
西田 茂雄	HIKARICAL SCAPE 雲の上はいつも青空	3/14 ~ 3/23	徳島県郷土文化会館
野町 和嘉	世界遺産・仁和寺の世界	2/8 ~ 3/24	秋田市立千秋美術館、イタリア
野町 和嘉	聖地巡礼	8/5 ~ 9/10	キヤノンギャラリーS
野町 和嘉	ハハル再訪	8/22 ~ 8/28	キヤノンギャラリー銀座
ハービー・山口	輝く未来への⇒ (ベクトル)	1/4 ~ 1/19	ギャラリー・アートグラフ
ハービー・山口	HIKARICAL SCAPE 雲の上はいつも青空	2/2 ~ 3/31	大津市・滋賀県立近代美術館
ハービー・山口	あそこに見えるのが天草の空	3/15 ~ 3/21	富士フィルムフォトサロン
ハービー・山口	大河ドラマ「八重の桜」写真展	3/19 ~ 4/14	NHK スタジオパークスタジオギャラリー
ハービー・山口	物語 岩手の子どもたち	4/25 ~ 5/8	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
ハービー・山口	代官山17番地-写真家になる日-	6/4 ~ 6/30	JCII フォトサロン
ハービー・山口	寺山修司と出会ったロンドン	8/1 ~ 11/2	青森県・寺山修司記念館、渋谷区
花井 尊	「震災よ！」 II	3/5 ~ 3/11	銀座アートグラフ
英伸三	桜狩り 昭和篇	4/4 ~ 4/10	アイデムフォトギャラリー「シリウス」
浜口タカシ	富士山・世界文化遺産浜口タカシ写真展	7/30 ~ 8/5	横浜・みなとみらいギャラリー
林義勝	中村勘三郎 - 1975 ~ 1982	1/7 ~ 2/3	JCII フォトサロン
林義勝	観世清和の能	1/7 ~ 1/16	キヤノンギャラリー銀座
林義勝	龍の大丸 -シルクロード-	2/20 ~ 4/22	港区・ホテルアイビスミニギャラリー
林義勝	ふるさと讃歌	5/20 ~ 5/31	中央区・J-POWER 本店 IF ロビー
原芳市	常世の虫	7/31 ~ 8/13	銀座ニコンサロン
原芳市	天使見た街	8/19 ~ 8/25	新宿区・PlaceM
原芳市	ストリッパー図鑑	9/25 ~ 10/20	文京区・汐花
原田寛	半僧坊	11/1 ~ 11/10	鎌倉市・建長寺法堂
馳学敏	貴州印象	11/26 ~ 12/7	フランス・パリ中国文化センター
福岡拓	佐島 ジオラマモード港町さんぽ	2/14 ~ 2/20	オリンパスギャラリー東京
福田健太郎	泉の森	7/5 ~ 7/11	富士フィルムフォトサロン大阪
福田俊司	国境なき自然	2/27 ~ 4/23	ロシア科学アカデミー動物学博物館
福田俊司	タイガの帝王 アムールトラを追う	5/25 ~ 5/31	ギャラリー・アートグラフ
藤田庄市	伊勢神宮 自然のなかの神事	1/5 ~ 1/15	銀座ニコンサロン
ブルース・オズボーン	「親子の日 2013」に出会った親子	9/12 ~ 9/25	オリンパスギャラリー東京
細江英公	人間ロダン	5/17 ~ 6/15	港区・TIG P/F
堀内広治	えっ！京都でロマネスク	10/15 ~ 11/10	京都市・高津古文化会館
本田祐造	2014 カレンダー展 Simanto-Melody 四十万の調べ	10/31 ~ 11/5	高知県・四万十市立中央公民館
前川貴行	前川貴行写真展	6/13 ~ 6/29	ニューヨーク・STEVEN KASHER GALLERY
前川貴行	animalandscape 1998-2013	9/26 ~ 10/2	キヤノンギャラリー銀座
松原豊	村の記憶@ 2013 知立編	9/16 ~ 9/29	知立市・パティオ池鯉鮒2階ギャラリー
松原豊	村の記憶	10/3 ~ 10/9	HCL フォトギャラリー新宿御苑
丸田あつし	世界の夜景展	12/7 ~ 12/13	新宿市・にいざはっとぶらぎギャラリー
水谷章人	スポーツ報道写真展「光華」	9/12 ~ 9/18	キヤノンギャラリー銀座
水谷章人	スポーツ報道写真展 1967-2012 「記憶の一枚」	9/12 ~ 10/12	キヤノンギャラリーS
水本俊也	ANTARCTICA 2004-2013	4/6 ~ 7/31	渋谷区・spaceK 代官山、横浜
水本俊也	南極写真展	9/13 ~ 9/20	米子市・鳥の劇場「小さなギャラリー」
水本俊也	小鳥の家族	9/21 ~ 9/29	米子市・鳥の劇場「小さなギャラリー」
満縁ひろし	京舞妓 宮川町	4/11 ~ 4/23	京都市・ギャラリー古都
南良和	秋父三十年 - 1957 ~ 1991 -	4/9 ~ 5/6	JCII フォトサロン
三村博史	I am 舞踏派 Vol.2	3/1 ~ 3/6	京都市・A'BOX ギャラリーI
宮沢あきら	一紙一葉 ひかりにつつまれて	11/2 ~ 11/13	那珂市・茨城県植物園
宮嶋茂樹	Assignment [アサイメント]	9/19 ~ 9/25	キヤノンギャラリー銀座
三好和義	伊勢神宮 式年遷宮	11/13 ~ 11/18	中央区・和光ホール
村上光明	神々の島 奔美	3/31 ~ 4/21	奄美市・田中一村記念美術館企画展示室
本橋成一	サークスの時間	9/20 ~ 10/26	横浜市・PAST RAYS
森井禎紹	東北の祭り	5/23 ~ 5/29	福島テラサ4階ギャラリー

会員名	写真展名	会期	会場
森 住 卓	風下の村	2/2 ~ 2/12	コニカミノルタプラザギャラリー C
森 田 雅 章	パングラデシュ「線路沿い」	5/16 ~ 5/22	アイデムフォトギャラリー「シリウス」、名古屋
柳 木 昭 信	地球鼓動－宙・大地・人－	4/6 ~ 6/9	高岡市・ミュゼふくおかカメラ館
柳 木 昭 信	地球・氷河圏	4/20 ~ 5/26	立山町・立山カルデラ砂防博物館
柳 木 昭 信	立山～風の記憶～	6/6 ~ 6/12	ポートレートギャラリー、富山市
山 縣 勉	Thirteen Orphans	8/29 ~ 9/28	米・Colorado Photographic Arts Center
山 岸 伸	瞬間の顔 Vol.6	10/24 ~ 11/6	オリンパスギャラリー東京
山 口 一 彦	夢彩	4/4 ~ 4/9	台東区・瞻百堂画廊
山 口 一 彦	室蘭	6/18 ~ 6/23	室蘭市民美術館
山 口 勝 康	「木曾・信仰と祭」木曾路40年の記録	8/9 ~ 8/18	伊那市・伊那かんてんパパホール
山 崎 友 也	北辺のローカル私鉄	11/5 ~ /27	台東区・PHOTO GALLERY UC
山 下 優 僚	風化する記憶『トーチカ』	9/11 ~ 9/23	ベンタックスフォーラム
山 田 訓 生	京都まちなかのかたち	3/13 ~ 3/18	池田市・市立ギャラリーいけだ
山 村 善 太 郎	暮らしの中の一御神木・日本人のこころ	9/12 ~ 9/24	キヤノンギャラリー福岡
山 本 健 紀 夫	鎮魂歌－花鳥風月抄－	3/8 ~ 3/20	京都市・A BOX ギャラリー I
山 本 純 一	越冬・命の鼓動・	1/17 ~ 1/30	キヤノンギャラリ－名古屋
山 本 昌 男	川	3/24 ~ 6/16	独・イヌニ市美術館、ミュンヘン
山 本 昌 男	山本昌男	6/8 ~ 7/20	独・Galerie Baumgarten、日本、米
米 屋 こ う じ	I Love Train ~アジア・レイル・ライフ	3/21 ~ 3/27	キヤノンギャラリー銀座
米 屋 こ う じ	パングラデシュ・レイルライフ	5/7 ~ 5/31	湯島・フォトギャラリー CV
米 屋 こ う じ	アジア・レイル・ライフ～アジア鉄道旅情～	9/15 ~ 9/29	福島県・ギャラリーコールビット
薔 田 純 一	「立花隆の書棚」より「階段 1F、2F、3F」「三階、西棚、南棚」	4/1 ~ 4/30	中央区・八重洲ブックセンター 2F
和 田 剛 一	カワガラス～清流に生きる～	5/30 ~ 6/5	オリンパスギャラリー東京、高知県
渡 部 佳 则	星夜の記憶	7/20 ~ 8/25	新潟県・柏崎市立博物館 特別展示室

物故展（常設展は省略させていただきました）

(故)秋田淳之助	原靈樹<奄美のガジュマル>	6/19 ~ 7/2	銀座ニコンサロン
(故)植田 正治	生誕 100 年記念特別企画展 植田正治の「実験精神」	4/27 ~ 6/30	鳥取県・植田正治写真美術館
(故)植田 正治	生誕 100 年！植田正治のつくりかた	10/12 ~ 1/5	千代田区・東京ステーションギャラリー
(故)植田 正治	植田正治とジャック・アンリ・ラルティエ 照相である	11/23 ~ 1/26	東京都写真美術館 3 F 展示室
(故)木村伊兵衛	木村伊兵衛のふたつの旅～琉球・秋田	9/3 ~ 12/27	フジフィルムスクエア 写真歴史博物館
(故)佐伯 義勝	「料理写真的世界」おいしい瞬間にカメラに食べさせる！	5/3 ~ 5/9	富士フィルムフォトサロン東京
(故)菌部 澄	水辺の記憶 - 1950 年代を中心	5/28 ~ 6/6	コニカミノルタプラザギャラリー C
(故)土門 攀	日本のかお	1/15 ~ 3/24	中野区・写大ギャラリー
(故)土門 攀	よみがえる不朽の名作 土門攀の「古寺巡礼」	6/14 ~ 7/10	フジフィルムスクエア

グループ展（会員中心のものを掲載させていただきました）

#### グループ展名

第33回関西メンバーズ展 関西のプロ写真家 心のメッセージ	会員数		
J P S 会員 100 名	1/11 ~ 1/17	富士フィルムフォトサロン大阪、京都市	
植田正治 (故)、岩宮武二 (故)、他 1 名	2/23 ~ 3/16	キヤノンギャラリー S	
花卉尊、柿木正人	3/5 ~ 3/11	ギャラリー・アートグラフ	
石黒誠、岡本洋典、菊地晴夫、久保田亜矢、他 4 名	5/31 ~ 6/6	富士フォトギャラリー新宿	
会員 5 名、他 1 名	6/15 ~ 8/18	高岡市・ミュゼふくおかカメラ館	
田沼武能、中村征夫	6/22 ~ 10/20	秋田県・フォトギャラリー ブルーホール	
会員 18 名	7/2 ~ 7/7	名古屋市・ノリタケの森ギャラリー	
岩尾克治、官野貴	7/18 ~ 7/24	アイデムフォトギャラリー「シリウス」	
会員 7 名	7/26 ~ 8/1	富士フィルムフォトサロン大阪	
会員 44 名、他 24 名	8/2 ~ 9/5	フレームマン、ギンザ、サロン	
浜口タカシ、西村建子	8/28 ~ 9/2	横浜市・みなとみらいギャラリー	
会員 7 名、他 1 名	8/30 ~ 9/5	富士フォトギャラリー新宿	
会員 6 名	10/29 ~ 11/10	京都市・京都万華鏡ミュージアム	
会員 12 名、他 10 名	10/30 ~ 11/10	長野市・北野美術館分館 北野カルチュラルセンター、他	

## 写真解説

Night Elephant (表紙写真) 福田豊文

写真的アジアゾウは、横浜市金沢動物園で飼育されているボン(オス、38歳)。以前は牙が交差しており、まるでマンモスを彷彿させるような風貌だったが、現在も面と向かい対峙すると、その迫力に圧倒される。『夜の動物園』開催期間中に撮影したが、ほとんど人がいなかったため、思う存分撮影に専念できた。今年の『Night Zoo』は至る所で、一眼レフカメラで夢中で撮影している人を見かけた。喜ばしい事だ。夜の動物園の魅力がもっと大勢の人たちに知ってもらえるよう、今後もライフワークの一環として撮り続けたい。

午前零時のスケッチ (表4写真) 松本コウシ

「午前零時のスケッチ」は、地図のない旅。誰も見たことのない光景、自分の想像力を越えた何かを探し見つけたい、ただそれだけのセンチメントが、僕を25年もの間、夜の写真へといざなった。今の世の中は物質としての寿命ではなく、ヒトが必要とするか否かでモノの「運命(さだめ)」が変わる。消えゆくモノたち、残されるモノたち……、これらが時間や時代を超えて、ひとつつの風景・事象として夜にわかに起ち上がる瞬間がある。ヒトの手を離れた風景たちは、闇という摩訶不思議な時空間の中で、誰も知らない「物語(ドキュメンタリー)」のクライマックスをひっそりと迎えていた。

カーニヴァルの朝 松本徳彦

中世の面影が色濃く残る「水の都」ヴェネツィアを初めて訪ねたのは1983年、かれこれ30年も前のことである。大小の島が寄木細工のように橋で結ばれ、細い道が迷路のように入り組んでいる。迷いながら石壁に沿って小路を歩くと、突如として開けた広場や水路に出る。広場では市井の人たちがベンチで談笑したり、子供と遊んでいる。のどかな光景である。運河沿いには歴史的建造物が軒を連ね、栄華を誇った時代にタイムスリップする。カーニヴァルはキリスト教の禁欲四旬節の前に、社会的地位のある人たちが飲めや歌えやの大騒ぎに仮面を冠って行った風習が、今日では着飾った仮装で競うようになったもの。

店出しの日「舞妓・朋ゆき」 溝縁ひろし

京都には、祇園甲部、宮川町、先斗町、上七軒、祇園東という、5つの花街があります。「朋ゆき」さんは、そのひとつ、先斗町で現在活躍しています。日本の伝統文化を守る技芸の担い手としての暮らしぶりや、厳しさの中で成長する姿を撮影してきました。写真は舞妓デビューの日です。今年、花街は京都市から「京・花街の文化~今も息づく伝統技芸とおもてなし」として無形文化遺産に選定されました。私が、芸・舞妓を撮り始めて40年が経ちます。これを機会に新たな気持で撮り続けていきたいと思います。

厳島神社と煙火 泉谷玄作

世界遺産「厳島神社」を舞台にした海上花火大会。大会名の「水中花火」は、水中で開花させる花火で、通常は球形に開く花火を水中で開花させ、下半球は水面下に没し、上半球のみが水上に現れる。花火が開くたびに、朱色の大鳥居や、紅の社殿のシルエットの明暗が、幽玄な光彩に照らされてくっきりと浮かび上がり平安時代の絵巻物を大観しているような趣きた。花火の聞くタイミング、その間のとり方にも、こういう空間だからだろうか、日本の優美さを感じずにはいられない。まるで社殿と煙火が呼応しているかのようだ。

朝露のノギク 北中康文

10月中旬のこと。隱岐(島根県)の知夫里島を離れる最終日、たまたま車で通りかかった草むらに、このノギクが一輪咲いていた。しかも、深夜から早朝にかけての放射冷却で、草むらは朝露でびっしり。ノギクの花びらにも微細な朝露が所狭しと付着、まるでガラス細工のように輝いていた。ところが、三脚を立てて撮影を始めようとすると、微風が吹き始め、ノギクが揺れ出したのである。当時、フィルムで撮影していたこともあって、ISO感度を上げるわけにもいかず、風が止むのを待って1/4秒のシャッターを切った。

工業地帯 (千葉県市原市椎津) 小倉隆人

この写真的場所は、40数年前までは海岸線で砂浜でした。沖合では貝のアオヤギが沸くように獲れ、海苔漁が行われていました。

現在はこの位置から数キロ先まで埋め立てられ、工業地帯になりました。運河によって東京湾とつながっています。

仲の良い小学生2人が授業のあと、姉崎から遊びにやってきました。

「給食だよ！」 櫻並悦子

東日本大震災以降、東北各地へ通い、この3年間の現状をとらえ続けてきました。相馬市の磯部地区は津波被害と共に、放射能汚染の問題も抱えています。給食の時間、子どもたちは嬉しくて仕方がない様子。教室中が笑顔に包まれていました。相馬市では単独給食を実施している小中学校(14校)で、毎食、食材の放射能を測定しています。測定項目はヨウ素131、セシウム134、137。測定結果が10Bq/kg以上の場合は再測定し、検出された場合は特定食材を取り除くそうです。食の安全が子どもたちの笑顔を守っていました。

織り師 金城ナベ 笹本恒子

終戦後、新憲法が発布されるまで、女性には選挙権も被選挙権もなく、「女・子ども」とひとくくりにされていました。そんな男尊女卑の時代に、そして、炊飯器も洗濯機もなかった時代に、明治の女性たちは子どもをおぶって家事をしながら仕事を続けて、画家の誰々、作家の誰々と名前をあげられるほどになられたのです。大正・昭和生まれの方たちも、粘り強く仕事に打ち込み、何があってもそれをバネに新しい出発をして、生き生きときらめています。昔から、「女の細腕」という言葉がありますが、彼女たちのそれは、細くても芯が強く、筋金入りです。表面穏やかな方でも、決して譲らぬ強さを奥にひそめているようです。その方たちの姿を長く残していく責任は、大正生まれのわたくしにこそあると思いました。写真は金城ナベさん。芭蕉布の織り師。撮影のときは102歳でした。

103列車発車!! 荒川好夫

夕刻の長万部駅から前に1両のC62型SLが加わり、雪深い漆黒、せまる幾多の峠へ向かい発車するSL急行「エセコ」号。すでに前補機の2号機の安全弁からは蒸気が吹き出していて、これから先の峠道がいかに手強いかを表現している。

## 追悼・高村 規さん(名誉会員)

平成26年8月13日、心不全のため逝去。81歳。  
謹んでお悔み申しあげます。昭和34(1959)年入会。

### いつまでも少年のような心を持つ男だった。

木村 恵一

かれこれ60年の長いつきあいになる。日大芸術部写真学科に入学し最初の授業の日にたまたま席を並べたことから友人としてのつきあいが始まった。彼は工芸家の息子、私は銘木商の倅、同じ東京下町の生まれでもくらしや環境の違いが2人とも新鮮にみえたのか以来長いつきあいが始まった。卒業後高村はデザインの勉強のためデザイナーの伊藤憲治氏の門をたたきコマーシャルフォトの分野に進み、私は渡辺義雄氏に師事をし報道写真的世界に入った。分野は違うものの双方の師の研究室が四ツ谷にあり交流は続き、数年後には大学の同級生だった者が集まり写真同人「六の会」なるものに輪が広がった。熊切圭介、齋藤康一、野上透、松本徳彦それに高村と私の6人で、それぞれが自分の分野でフリーの写真家として活動し個展などを多く開いているがそれとは別に数年に一度ずつ銀座のギャラリーを中心に同人展を開いてきた。1995

年10月高村にとっては9回目の個展「智恵子抄彷徨」をJCIIフォトサロンで開催した。高村光太郎と智恵子の純粋な愛の世界の足跡を長い年月に亘って撮り続けていた映像は来館した人々に深い感銘をあたえた。高村光太郎は彼にとって伯父である。父は近代鑄金の世界を確立した高村豊周、祖父は木彫界の伝説の人高村光雲という恵まれた名門の出ながら彼は工芸の道には進まず写真への道を選んだ。高校時代、彼は父か祖父の仕事の道を選ぼうと考えはじめたとき父に言われた。「俺たちと同じ仕事を選んでもどうせ俺たちを越すことはできやしないんだからやめとけ」。きびしい言葉であ

る。1995年2月銀座の和光ホールで「木彫・高村光雲」写真展を開いている。和光ホールの歴史のなかでも初めてと言われる程の大入りだったことを今でも憶えている。

写真界においての活動も大きかった。JPSの委員、理事、監事、を長年(1970~86年)に亘って務め数々の協会運営に力を注いだ。APAの会長も2期4年。発言の多い会員の意見をまとめつつ公益社団法人化への道を導くなど功績は大きかった。

若い頃から彼は、親しい友人からはマンモの愛称で呼ばれていた。マンモスのようにのっそりして大らかなことから誰とはなくつけられた徒名だがスポーツはからっきし駄目。しかし、子供の頃から好きだった凧揚げだけは歳をとってもやめなかった。ペーゴマやメンコも息子が幼くてまだよく理解できないうちから教えていたことも憶えている。愛すべき父親でもあった。

8月13日夕刻、息子の達君(JPS会員)より急に容体が悪化したとの連絡を受け熊切圭介君と入院先の日本医科大学病院に駆けつけたが最早目を開けることもなく集中治療室の計器に表示される血圧の数字が刻々と下がり続け、午後9時20分ついに0になり息を引きとった。まるで若い頃一緒に旅をしたときの寝顔のように、静かで穏やかながら少し腕白そうな顔だった。今は生前の多岐にわたる彼の活動を思い浮かべながら、友を失った寂しさに耐えている。安らかな冥福を祈るばかりである。

合掌



1995年自宅にて(撮影・木村恵一)

#### 略歴：高村 規(たかむら・ただし)

1933年東京生まれ、58年日本大学芸術学部写真学科卒業後、伊藤憲治デザインルームに入り59年からフリー。金沢美術工芸大学講師。(社)日本廣告写真家協会会長を経て顧問。全日本写真連盟顧問。高村光太郎記念館理事長。六の会同人。旭日小綬章受章。著書・写真展=「高村光太郎」「高村豊周作品集」「木彫・高村光雲」「追憶の奏学堂」他多数。2004年(公社)日本写真家協会名誉会員。

# 日本写真家協会発行出版物のご紹介

公益社団法人日本写真家協会では、さまざまな出版物を編集、編纂、発行してまいりました。このページでは、現在販売中の出版物、過去に販売されていた出版物を紹介しております。本の購入(一部を除き)をご希望の方は協会事務局にお問合せください。



## 日本写真家協会(JPS)入会のご案内

- 申込時期：2014年12月～2015年1月
- 入会日：2015年4月
- 協会は1950年の創設以来、写真家の職能と地位確立著作権の擁護、啓発活動を行っています。
- わが国の写真表現の歴史を綴った「写真100年展」「現代写真史展」などを通して、写真表現の変遷を内外に広める活動を行ってきました。最近では「日本のこども60年」「おんな」「生きる」と写真の社会性に富んだ写真展、写真集を発行しています。さらに一般公募の「JPS展」と「名取洋之助写真賞」の実施、写真界に特段の功績を上げられている方に「日本写真家協会賞」を贈るなどを行い、「写真美術館の創設活動」、写真原板の保存収集・データベース化をする「日本写真保存センターの設立」運動など様々な形での文化活動に寄与しています。
- 正会員の入会資格は、職業写真家として3年以上の活動実績のある方。正会員2名の推薦、保証が得られ、うち1名は本会在籍満5年以上の正会員の推薦理由書を提出できる方で、入会申込書と資料を添えて1月に提出。入会が内定後、4月の新入会員説明会に出席することで正会員となります。
- 「入会申込書」は1部1,000円で配布中。問い合わせ先：協会事務局 03-3265-7451



### 編集後記

○先日、山形県鶴岡市に病院取材の仕事で出向いた際、前から気になっていた「クラグの水族館」こと鶴岡市立加茂水族館に寄ってみた。今年6月にリニューアルされた施設は小さながらもアイデアに富んだ展示がされ、作り手の意気込みを感じられる内容である。平日でも大勢の入場者で東北に元気を呼び立っているようだ。（小池）

○7月中旬から3週間ほど、アフリカのガーナとトーゴを取材した。都市部では多くの人々が、モバイルフォンを使いこなしていた。取材したブードゥー教（伝統宗教）の祭司は8台のモバイルフォンを持っていた。なぜそんなに沢山必要なのだろう。まさか様々な精霊のお告げをモバイルフォンで聞くためではないのだろうか……。（飯塚）

○広島県での土砂災害（8月20日）と御嶽山の噴火（9月27日）で亡くなられた方々に心からお悔やみを申し述べます。こうした自然の猛威が大きなりスクとして存在する日本列島で、大規模な自然破壊を伴うハッカダムやリニア新線は本当に必要なのか、そして原発は自然災害に対して安全なのか、今一

度考え直すべきと感じます。（関）

○出版不況の真只中ですが、世界遺産や産業遺産、街歩きなどのブームで、案内本類の販売は少し良いようですが、定年後の方々が旅行し、その目的地では地元退職者の方がNPO団体で案内人となって、観光地では活性化しています。世界遺産登録はこれ以上いらないと思いますが、今後も景気下支えの一部になっていて欲しいものです。（小野）

○この編集後記を書いている今、韓国ではアジア大会が開催され、次代を担うアスリート達が熱い戦いを繰り広げています。ユース世代が中心となる競技も多いこの大会ですが、この中から確実に6年後の中心選手が出来ると考えると、取材に行けなかったのは本当に残念。6年後、自分も中心選手でいるらしくいいのですが。（小城）

○フォトキナの取材で2年ぶりにケルンを訪れた。9月中旬の欧洲とは思えないほどの陽気に、世界規模の異常気象を改めて感じる。そして今回の取材を悩ませたのが円安。2年前は1€=100円前後だったのに、140円近い最近の円安はさすがに痛い。こちらも世界規模の現象。海外取材をする皆さんも同じ痛みを感じているに違いない。（柴田）

### 経過報告(2014年5月～7月)

#### ○5月17日～6月1日 第39回2014JPS展(東京)

東京都写真美術館 入場者4,124名

○5月17日 表彰式、祝賀会、講演会・ブルース・オズボーン「写真の可能性～ソーシャルアクションとしての『親子の日』～」、イベント「フロアレクチャー」「デジタルおもちゃ箱」

#### ○5月23日 平成26年度(第15回)定時会員総会

PM200～445 東京都写真美術館1階ホール 本人出席者118名、代理委任3名、議決権行使書975名、計1,096名、会員外理事3名、監事3名、名誉会員4名、賛助会員17社23名

報告事項:1.「平成26年度事業計画書」の件、2.「平成26年度予算書」の件、3.第40回「日本写真家協会賞」の件、4.理事辞任の件、5.正会員理事辞任に伴う繰り上げ就任の件、6.会費滞納による正会員資格の喪失の件

決議事項:第1号議案平成25年度事業報告及び決算承認の件、第2号議案:名誉会員推挙承認の件、第3号議案:理事辞任に伴う補欠の理事選任の件

#### ○6月5日 三団体協会懇談会

PM6:00～8:00 JPS会議室 18名

#### ○6月23日 第3回技術研究会

PM1:30～4:45 JCII会議室 参加者111名

○一眼ムービーなんて怖くない!スタイルフォトグラファーのための動画撮影セミナー(初級編)

#### ○7月1日～6日 第39回2014JPS展(名古屋)

愛知県美術館ギャラリーE・F 入場者数1,744名

○7月5日表彰式・講演会・松原豊「写真集『村の記憶』そこからはじめたこと。～里山在住写真家活動報告2014～」、イベント「ステップアップ!写真家が教える撮影のポイント&写真何でも相談室」

#### ○7月6日 第4回技術研究会(名古屋)

AM9:30～12:00 愛知芸術文化センター アートスペースE.F 参加者44名

○作品づくりのためのプリントを意識したフォトショップ活用術&一眼ムービーのスマ

○7月13日 平成26年度第1回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」

AM9:30～17:00 福岡県・福岡大学附属若葉高等学校 教師参加者20名

○7月17日～23日 2014新入会員展(東京)

アイテムフォトギャラリー「シリウス」 出品者38名、作品数76点、入場者数714名、「私の仕事」

○フォトキナが開催される年の「賛助会員トピックス」は締め切りをできるだけ延ばさないと、カメラの最新情報を持せられません。今号もギリギリまで、まことに最新情報が掲載できました。デジタルになり、編集作業も印刷行程も早くなり、締め切りが延びて助かっています。（伏見）

○selfieと呼ばれる自分撮りが世界的に流行だ。今秋発表のカメラを見ても、エンター機は軒並み、背面モニタが前方に向くようにできている。確かにSNSで一般の人のレンズが自分に向かっているのは珍しくない。でもイケメンならまだしも、ワタシは自分自身にレンズを向ける勇気ないなあ…。（桃井）

○2年ぶりに北京を訪れた。三里屯は、東京でいえば青山といった感じの洗練された再開発地区。ブランド店舗が立ち並び、外国人も多い。以前は新しい街並みと行き交う人々がどこからかはぐな印象だったが、今やすっかり馴染んで板についてきたように感じられる。競っているわけではないのに、なぜか主役の座を奪われたような気分になった。（山縣）

## 日本写真家協会会報 第157号(年3回発行) 2014年10月20日 印刷・発行 ◎編集・発行人 田沼武能

URL <http://www.jps.gr.jp/> Email [info@jps.gr.jp](mailto:info@jps.gr.jp) 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます

頒布 1カ年・3回 3,500円(消費税・送料共込)

出版広報委員 小池良幸(理事)、飯塚明夫(委員長)、関 行宏(副委員長)、小野吉彦、小城崇史、柴田 誠、伏見行介、桃井一至、山縣 勉

発行所 公益社団法人日本写真家協会(JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル303 電話 03(3265)7451(代表) FAX 03(3265)7460

印刷所 株式会社光邦

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1丁目2番2号 住友商事竹橋ビル12階 電話 03(3265)0611

## Topics

### Decided the 10th “Younosuke Natori Photography Award” for the fiscal year 2014

The works for this fiscal year for “Natori Younosuke Photo Prize” were decided, which is held by the Japan Professional Photographers Society in order to select the works from public entrees with a purpose to find out fresh photographers and to encourage their activities who are active in the documentary field up to 35 years old. The Natori Younosuke Prize is awarded to Mr. Satoshi Takahashi, with the title of “Never succumb females · Cambodia—Wishing the reform”, and the Encourage Prize to Mr. Masaki Nakashio, titled “the Proud of the person at feast, span the hours”.

The subject of works of Mr. Takahashi expresses the females and its wishes of Cambodia who are fighting for life to recapture their own land where deprived by the injustice and wrong. The theme of Mr. Takahashi who located his life point at Phnom Penh, Cambodia since 2007 and his tenacious shots reporting very close with theme made it his fruitful result.

The works of Mr. Nakashio are captured the Matsuri (Local ritual festivals) of his local places in Nara. The original forms even not so famous of Matsuri but which were spanned for long year history with the people of small towns and villages, and his works make feel abundantly its originality. Mr. Nakashio received previously the Encourage Prize (the Second Prize) at the 6th.

### Take place the 8th “JPS Photo Forum”

JPS Photo Forum will take place at the Yurakucho Asahi Hall, Chiyoda Ward, Tokyo, on November 8, 2014. The lecturers are the photographers, Mr. Mitsu-gu Onishi, Mr. Koichi Saito and Mr. Takeyoshi Tanuma.

The theme for the No.8 Forum in this time is “the Snap Shot”. The snap shot is originated from the work “The Terminal” photographed the stagecoach in the snowy day with the hand camera by the American photographer Alfred Stieglitz in 1893, and challenging the possibility of straight photographic expression, and after that, it had been the main stream way of photographic expression and later it became the main stream of photo expression method by Cartier-Bresson, Robert Capa and others.

In Japan, the prevalence of realism photographs advocated by two masters, Ihei Kimura and Ken Domon, after the Second World War, many of photographers dedicated passionately to express seeking the era to make the snapshot in the human living.

With the prevalence of digital camera and smart phone in recent year, anyone does capture the snapshot in anytime, and disclosed it instantly and diffused. The Photo Forum in this time put the question afresh about the intent of snapshot in the present society.

International Affairs Committee  
Executive Director, Naoki Wada

## About the Japan Professional Photographers Society

The Japan Professional Photographers Society was established in 1950. Through its activities it strives to define the role of the professional photographer and secure copyright protection while working to develop photographic culture. In 2001 it received recognition as an Incorporated Body from the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, in March 2011 it was officially recognized as being a Public Interest Incorporated Association by the Prime Minister's office, and since April 1 of that year it has been active under the title, Japan Professional Photographers Society, Public Interest Incorporated Association.

Since its foundation, the society has succeeded in receiving an extension for the period of copyright protection (to 50 years after the death of the artist), held numerous exhibitions concerning photographic history and expression (A Century of Japanese Photography, History of Japanese Contemporary Photography, Sixty Years of Japanese Children, Women, etc.), and published numerous books on photographic history and collections of photographs. In order to contribute to the promotion and development of photographic culture, it holds the JPS Exhibition as an open exhibition, presents a nationwide Photography Study Pro-

gram for elementary school students, the Photo Forum that aims to develop photographic expression, Digital Photography Lectures for the advisors of high school photographic clubs, and presents the Younosuke Natori Photographic Award to uncover and foster new talent. At the same time, it carries out a wide range of activities to contribute the development of photographic culture, such as: cultural exchange with overseas photographers, PR through publishing and information dissemination via the Internet.

Furthermore, it presents the Japan Professional Photographers Society Award in recognition of individuals or organizations who have achieved notable achievements in the development of photographic technology, education, or critique.

The Japan Professional Photographers Society has devoted itself to the establishment of photographic museums, such as the Tokyo Metropolitan Museum of Photography, and is currently actively working towards the creation of the ‘Japan Photographic Preservation Center’ (archive) for the collection and preservation of original photographs.

### Japan Professional Photographers Society

JCII Bldg. #303, Ichibanchō 25, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082

Tel: +81-3-3265-7451 Fax: +81-3-3265-7460

E-mail: info@jps.gr.jp Web site: <http://jps.gr.jp/int/index-e.html>

# 堀内カラーのネットオーダーサービス



大サイズプリントとパネル加工を同時にオーダー

## ネット@ザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラムダプリントで、作品表現に最適な組み合わせが選べ、ドライマウント・マットパネル・アルミフレームのパネル加工も同時に注文できます。

### プリント

- ペーパー：コダックプロ、メタリックの2タイプ
- サイズ：六ツ切～B1までの19タイプ
- フチ取り：白フチ、黒フチ、フチなしの3タイプ

### パネル加工

- 高級アルミフレーム（額縁／シルバー、ブラック）
- マットパネル（オフホワイト、ブラック）
- ドライマウント



高品質なフォトアルバムやポートフォリオの制作に

## ネット@ザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用途に合わせ、表紙はハードとソフト、本文は高級銀塩写真とオンデマンド高精細印刷の各2タイプでオリジナリティ溢れる作品集ができます。

### 〈PRO〉シリーズ

- 高級写真タイプ：銀塩光沢印画紙+液ラミ
- サイズ／ページ：197SQ、A4、20～30p
- カバー：ソフト（ブックカバー付）、ハード（巻き表紙）

### 〈ENJOY〉シリーズ

- 高精細印刷タイプ：  
表紙／マットPP加工、ブックケース
- サイズ／ページ：140SQ、200SQ、A4、20～50p
- カバー：ソフト（並製本）、ハード（上製本）



インクジェット用漆喰シートがプリントの概念を変える

## フレスコジクレー・プリントサービス

繊細で不連続な突起が並ぶ漆喰特有のテクスチャーによって独特の「ゆらぎ」とともに自然な奥行き感が生まれ、絵画のように長期の鑑賞に耐える情緒性豊かな作品が得られます。

### R（ラフ）タイプ

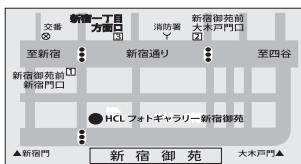
- 表面に柔らかな凹凸のテクスチャーを施したコットンベースの無光沢紙
- キャンバスを連想させる暖かみのある風合いが得られます。

### S（スムース）タイプ

- 表面に上品で繊細なテクスチャーを施した無光沢紙
- 美しい表現と落ち着きのある質感が得られます。

※詳細な商品情報 [www.fresco-g.com/](http://www.fresco-g.com/)

個展・グループ展などの開催を受付けています。



## HCL フォトギャラリー新宿御苑

東京都新宿区新宿1-6-5 ☎03-3226-9602

- 平日=10:00～19:00 ●土曜=10:00～17:00
- 最終日=10:00～15:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
- 地下鉄丸の内線「新宿御苑前駅」新宿門口より徒歩1分



## HCL フォトギャラリー名古屋

名古屋市中区錦1-11-20 大永ビルディング2F ☎052-211-6151

- 平日=9:00～18:00 ●土曜=9:00～17:00
- 最終日=9:00～13:00 ●休館日=日曜・祝日・年末年始
- 地下鉄鶴舞線・東山線「伏見駅」10番出口より徒歩1分

サービスの詳細やご注文はホームページから…[www.horiuchi-color.co.jp](http://www.horiuchi-color.co.jp)

## 2014 堀内カラー フォトコンテスト作品募集

- テーマ：〈ノンジャンルの部〉／〈ネイチャーの部〉
- 応募期間：平成26年10月1日(水)～11月30日(日) 当日消印有効
- 応募資格：アマチュア写真愛好家
- 応募作品：  
サイズA4／四ツ切・ワイド四ツ切  
カラー・モノクロプリント  
(銀塩・インクジェット)  
単体写真のみ・複数応募可
- 審査員：沼田 早苗



アマチュアの皆様に  
お勧めください



- 賞金 10万円+あなたの個展が開けます

金賞 堀内カラー賞は賞金+HCL フォトギャラリー新宿御苑での個展開催権を進呈

- 四ツ切/A4プリントサービス開催

応募期間中、弊社ネット注文や店頭注文が通常価格の20%～40%OFF

■詳細はホームページで：<http://www.horiuchi-color.co.jp>

■お問合せ：堀内カラー フォトコンテスト係 ☎03-3295-1083

プロのために、そのすべてが造られている。

**Canon**  
make it possible with canon

プロフェッショナル・フルサイズ

# 1DX

クオリティーへの圧倒的な要求を満たすフルサイズ。

描写力と機動力。異なる要素を高い次元で融合。あらゆる撮影領域をかつてない高画質で撮影するために、EOS-1D Xは誕生した。新開発35mmフルサイズ 約1810万画素CMOSセンサーを搭載。常用ISO感度51200、最高約12コマ/秒\*の高速連写、新AE・AFシステムなど、プロフォトグラファーの理想に挑んだ解答がここにある。

\*ISO感度32000以上(低温下の場合はISO感度20000以上)では、最高約10コマ/秒

35mmフルサイズ/最高約12fps/ISO51200

**EOS-1DX** [canon.jp/eos](http://canon.jp/eos)



EOSは累計生産台数7,000万台、<sup>※1</sup>

EFレンズは累計生産本数

1億本を達成。<sup>※2</sup>

※1 2014年2月5日現在

※2 2014年4月22日現在



キヤノンお客様相談センター/デジタルカメラ

**050-555-90002**

〔受付時間〕平日 9:00～20:00 土・日・祝日 10:00～17:00 (1/1～3は休ませていただきます。)  
※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556  
をご利用ください。※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマークティングジャパン株式会社

待望の広角端 16mm。  
これが、高倍率ズームの新基準。

世界初  
約18.8倍  
ズーム

# 16-300mm F/3.5-6.3 Di II VC PZD MACRO

広角から超望遠までをカバーする驚異の「約18.8倍」ズーム。  
手ブレ補正機構と高速AFを搭載した万能レンズの決定版。

Di II:デジタル一眼レフカメラ(APS-Cサイズ相当)専用レンズ

Model:B016 希望小売価格 87,000円(税抜) 花型フード付

発売中:キヤノン用／ニコン用／ソニー用\*\*

\*デジタル一眼レフカメラ用交換レンズにおいて。(2014年8月現在、タムロン調べ。)

\*\*ソニー用は、ソニー製デジタル一眼レフカメラがボディ内に手ブレ補正機能を搭載しているため、手ブレ補正機構「VC」を搭載していません。

EISAアワード  
2年連続2機種同時受賞!

ヨーロピアン DSLR ズームレンズ 2014-2015 受賞!



SP150-600mmもEISAアワードを受賞しました。



タムロンレンズ お客様相談窓口 ナビダイヤル

0570-03-7070

東京修理受付窓口

〒110-0005 東京都台東区上野6丁目16番22号 上野TGビル3階 TEL 03-5817-7210 FAX 03-3837-1790

タムロンは、様々な産業分野において精密、高品質な光学製品を創出し、社会に貢献しています。

株式会社 タムロン [www.tamron.co.jp](http://www.tamron.co.jp)

**TAMRON®**

産業の眼を創造貢献するタムロン

写真集電子出版サービス



## 写真集出版と写真展開催 2つの夢を同時に叶えるサービス

### Di-Po 3つのメリット

企画  
制作

写真と電子出版のプロが  
写真集の企画から出版まで  
サポート致します。

写真展

Di-Poで出版された方は、  
フォトギャラリー・アルティザンにて  
出版記念写真展を開催いただけます。

流通  
販売

流通や販売に関する複雑な手続きを  
すべて弊社が管理致します。

Di-Po作品  
Kindleにて  
好評販売中!!



清永安雄  
『ブエノスアイレス』



水越智賀子  
『いといしいとしというこころ。』

ARTiSAN  
フォトギャラリー・アルティザン

### Di-Poで出版された方に、簡易写真集プレゼント

「電子書籍は、手元に何も残らないから寂しい…。」そう思っている方は多いのではないでしょうか?アルティザンでは、Di-Poプランで電子書籍を出版された方限定で簡易写真集を20部プレゼントしております。簡易写真集があれば、ご友人にプレゼントできたり、ポートフォリオとして使用したり、保存用として手元に置いておくこともできます。Di-Poで「手元に残る」電子出版をしませんか?

Di-Po お問い合わせ | 担当：相山 TEL : 03 (3470) 4570 MAIL : info@artisan-tokyo.com

トキヨウ | 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-21-10-1F TEL : 03(3470)4570 営業時間：11:00～19:00 (日曜・祝日休)

ジャバネスク | 〒605-0038 京都市東山区堀池町373-44 TEL : 075(746)2931 営業時間：11:00～18:00 (日曜・祝日休)

WEB URL : <http://www.artisan-tokyo.com> MAIL : info@artisan-tokyo.com (共通)



At the heart of the image



Nikon

# 画力一新。

## 描写の限界を超えた3635万画素

内部機構を一新し実現した、ニコンデジタル一眼レフカメラ史上最高画質。極めて高精度なAFと約5コマ/秒<sup>※</sup>の高速連続撮影は、高画素の撮影領域を別次元へと押し上げた。D810。このカメラは高画素を制約から解き放ち、あなたの世界を一新する。

New

デジタル一眼レフカメラ

# D810

8500万本  
NIKKOR

■ 有効画素数3635万画素 ■ 新開発のニコンFXフォーマットCMOSセンサー ■ 画像処理エンジンEXPEED 4 ■ 常用撮像感度 ISO 64~12800 ■ 進化したピクチャーコントロールシステム ■ 極限まで高めたAF精度 ■ 電子先幕シャッター ■ 約5コマ/秒<sup>※</sup>の高速連続撮影

※CIPAガイドライン準拠。FXフォーマット時、DXフォーマットでEN-EL15以外の電源使用時は約7コマ/秒。

●記録媒体は別売です。



ニコンカスタマーサポートセンター 一般電話、公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30~18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日)  
●ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577におかけください。

0570-02-8000 ● ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499へご送信ください。

[www.nikon-image.com](http://www.nikon-image.com) | 株式会社ニコン・株式会社ニコンイメージングジャパン

# 目的にあった写真…

**MASH**  
+  
**MASH***management*  
+  
**MASH***creative*

マッシュの代表伏見がフォトグラファーのアシスタントだった時、師匠の杉木直也さんに「良い写真って、何だと思う？」と突然聞かれた事があったそうです。

難しく考えて、答えにつまっていると「伏見君、簡単だよ目的にあった写真が良い写真なんだよ」と師匠…

「目から鱗だった」と伏見は言います。

私達、3つのMASHのフォトグラファーは、広告に、エディトリアルに、時にはドキュメンタリーに、常に目的にあった写真を写すように、力をつくします。

## 株式会社マッシュ

市ヶ谷スタジオ・オフィス  
東京都新宿区市谷本村町 2-23  
京都荘ビル B1  
〒162-0845  
TEL 03-3269-6368  
FAX03-3269-1774

原宿マネージメントオフィス  
東京都渋谷区神宮前 6-35-3  
コープオリンピア #317  
〒150-0001  
TEL 03-6418-0886  
FAX03-6418-0887

[www.mash.vg](http://www.mash.vg) / [info@mash.vg](mailto:info@mash.vg)

# エプソンの デジタル プリント 最前線

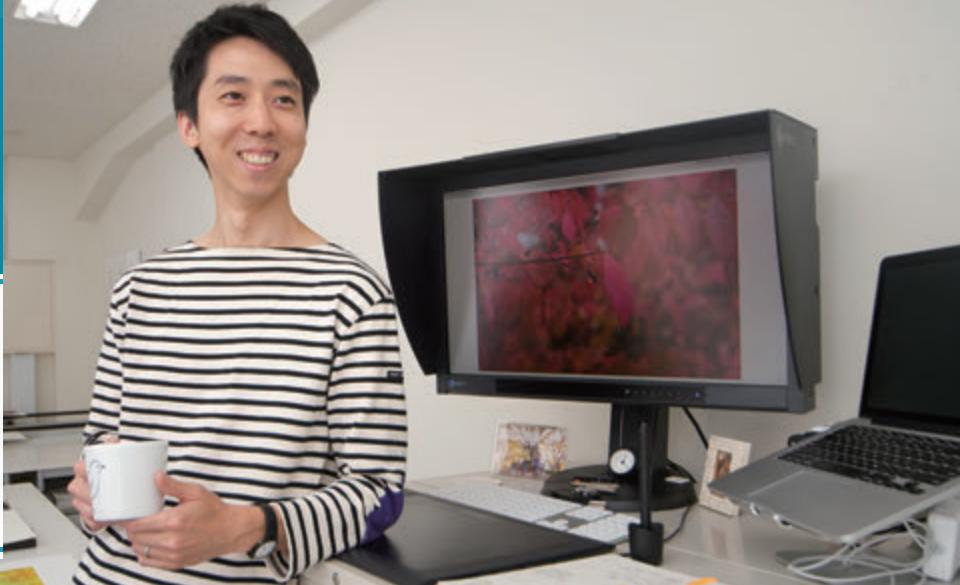
## Comment

プリントインディレクター

**松平光弘氏**

株式会社アフロ（アフロアトリエ）

**Profile** 1999年、ロンドンのラボでプリントとしてのキャリアを開始。帰国後、プラチナバージュムプリントやセラミックハイブリットで名高い「ザ・プリソ」に在籍。2011年、株式会社アフロのプリントインディレクターに就任し、国内外の写真展のプリント制作や文化財の複製などを手がける。atelier.aflo.com



## 用紙の選択が左右する 作品の本質を引き出すプリントの妙

デジタル関連技術の発展に伴い、ますます可能性を広げるインクジェットプリント。

今回は作品の世界観を表現するための用紙の選択について松平氏にお話を伺いました。

### 用紙が左右する写真の印象

写真を作品として仕上げるための重要な要素の1つが、用紙です。いくつかの異なる種類の用紙に同じ写真データをプリントすると、仕上がりはそれぞれ変わります。それは用紙自体の紙白・光沢感・面質が、写真的明るさやコントラスト、色合いや彩度に大きく影響するためです。

例えばエプソンのウルトラスマースファインアートペーパーは紙白が比較的黄色みを帯びているため、プリントすると写真全体の色が黄色くなります。そしてマット系の用紙は光沢系の用紙に比べて黒が縮まりにくい傾向があります。それらを補正するためトーンカーブで青みを加えたり、コントラストを少し上げる調整方法もあります。しかしながら、私は基本的には相殺するような補正を前提にするのではなく、紙の特性を最大限に活かした選択を作家に提言しています。



エプソン ウルトラスマースファインアートペーパー



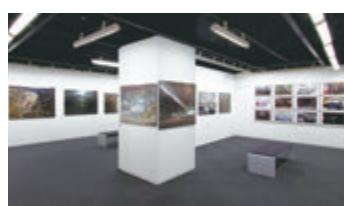
エプソン プロフェッショナルフォトペーパー

©Kogoro Suzuki

### プリントの現場

#### 写真家 鈴木吼五郎さんの場合

鈴木吼五郎さんの写真展「鉱山、プランテーション、縫製工場」では、エプソンのプロフェッショナルフォトペーパー（厚手半光沢）を使用しました。これはRC紙（レジンコート紙）であり、紙白はファインアート用紙と比較するとやや青みを帯びていますが、色調のコントロールが非常にしやすく、落ち着いた光沢感と面質を持った用紙です。このシリーズはアジア・アフリカの鉱山や工場などの風景を記録した作品であり、作家のメッセージを前面に押し出すのではなく、そこにある美しさを中立にプリントで再現したかったという背景がありました。個性を抑えた用紙を選ぶことで、作品の本質を阻害することがないように純粋な仕上がりを求めたのです。



鈴木 吼五郎 *Profile* •

(すずき こうごろう)

1972年生まれ。カメラマンアシスタントを経て2000年よりフリー。2012年 鈴木吼五郎写真展(鉱山、プランテーション、縫製工場) 銀座ニコンサロン 2013年 伊奈信男賞受賞

## プリント前にシミュレーションを

私はプリンターとして10種類以上の用紙に対応できるようにしています。それぞれの特性を理解し制作に当たっていますが、それでもプリントの仕上がりを予測することは容易ではありません。そのため、私はAdobe® Photoshop®を活用して用紙ごとに仕上がりの印象をシミュレーションしています。用紙の特性が仕上がりに与える影響を事前に把握することで、私は制作にかける時間やコストを大きく抑えています。

### 1. 校正設定

Photoshop®メニューbaruの【表示】→【校正設定】から【カスタム】を選択します。【校正条件】の中の【シミュレートするデバイス】のプルダウンリストをクリックし、プリントと用紙の組み合わせで最適なプロファイルを選択し【OK】を押すと、画面上で写真の仕上がりを表示することができます。

### 2. 複製する

校正設定後、Photoshop®メニューbaru→【イメージ】から【複製】をクリックし、画像を複製します。「元画像」と「複製した画像」を横に並べます。そして、複製した画像に近づけるように、元画像を調整していきます。

### 3. 調整する

階調(明るさ・コントラスト)と色調(色相・彩度)を調整レイヤーを使って補正していきます。Photoshop®メニューbaru→【レイヤー】→【新規調整レイヤー】→【トーンカーブ】など。

## 作品の本質を引き出すプリントを

Adobe® Photoshop®でプリントの仕上がりをある程度予測できたとしても、結局のところ、プリントの仕上がりは実際にプリントをしてみないとわからないものです。例えばベルベットファインアートペーパーや和紙などの面質が粗い用紙にプリントする場合、光沢系の用紙に比べて輪郭の描写があまぐなる傾向があります。それは紙表面の凹凸や受容層(インクの滲み)の影響によるものです。画像にシャープ処理を強めにかけるなどの対応策がありますが、その判断をするためには実際のプリントを見比べる以外に方法はないのです。

私は作家に納品するプリントを1枚仕上げるまでに、多くのテストプリントを重ねています。暗室でネガからプリントしていた頃は、露光量やコントラスト、あるいはカラーバランスを調整し、完成させるまでに多くのテストプリントを作っていました。それらを比較・選択することなくして自分のイメージに近づけることはできなかったのです。しかし、ディスプレイで写真を瞬時に表示できるようになった今では、仕上がりに疑いを持ってプリントの質を突き詰める機会が極端に少なくなってしまったのかもしれません。

NEXT

次回は、プリントをする際に気をつけるべきポイントについての話です。ご期待ください。

プリントテクニック情報は、エプソンのフォトボータルサイトへ。 <http://www.epson.jp/katsuyou/photo/>

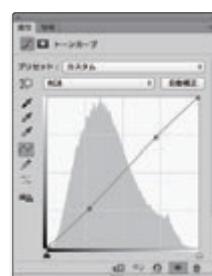


PX-H10000でプロフェッショナルフォトバー（厚手半光沢）にプリントする場合



元画像  
(校正設定された状態)

複製した画像  
(校正設定されていない状態)



トーンカーブで調整



調整レイヤーを追加

(注):Adobe、Photoshopは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標または商標です。

テストプリントは作品の本質を引き出すためにも必要であり、用紙と作品の相性を探るために重要なプロセスです。作品の表現に合った用紙を選ぶ唯一の方法は、実際にプリントするほかありません。惜しみなく手間と愛情をかけたプリントこそが、その答えを導き出してくれる感じています。



SC-PX5VII

●印刷方式/最高解像度:MACH方式/5760dpi×1440dpi※●インターフェイス:Hi-SpeedUSBx1 (PC接続用)x1<背面>、10BASE-T/100BASE-TX、IEEE802.11b/g/n●インク:顔料タイプ各色独立インクカートリッジ(フォトブラック、シアン、ビビッドマゼンタ、イエロー、ライトアン、ビビッドライ、マゼンタ、グレー、ライトグレー)●対応用紙サイズ:L判/KG/2L判/ハイビジョン/六切/四切/A6縦～A3横縦 CD/DVDプリントレイ/ファインアート用紙/厚紙(フロント手差し)用紙厚1.3mm ●外形寸法(W×D×H):収納時616×369×228(mm)●質量:約15.0kg  
※最小1/5760インチドット間隔で印刷します。

エプソン販売株式会社

# フィルムの表現、つづく。

19世紀に誕生した銀塩写真は、その歴史の中で、人々の営み、美しい風景、様々な出来事を写し続けてきました。デジタル映像の時代になっても、銀塩ならではの表現力が放つ魅力は変わりません。そしていま、富士フィルムのプロフェッショナルフィルムのラインナップが、従来の高性能はそのままに、新しい外装をまといました。

写真フィルム技術の到達点、最高水準の品質がここにあります。これからも、富士フィルムは、かけがえのない文化として、銀塩写真の魅力を伝え続けます。



## フジクローム、フジカラー、ネオパン。 富士フィルムのプロフェッショナルフィルムラインナップ。

### FUJICHROME



ベルビア 50

135(35mm 36枚撮)1本/5本パック  
120(6×6cm 12枚撮)5本パック  
220(6×6cm 24枚撮)5本パック※  
シート(20枚入)4×5/8×10



ベルビア 100

135(35mm 36枚撮)1本/5本パック  
120(6×6cm 12枚撮)5本パック  
220(6×6cm 24枚撮)5本パック※  
シート(20枚入)4×5/8×10



プロビア 100F

135(35mm 36枚撮)1本/5本パック  
120(6×6cm 12枚撮)5本パック  
220(6×6cm 24枚撮)5本パック※  
シート(20枚入)4×5/8×10

### FUJICOLOR



プロ 400H

135(35mm 36枚撮)1本  
120(6×6cm 12枚撮)5本パック  
シート(20枚入)4×5/8×10

### NEOPAN



アクロス 100

135(35mm 36枚撮)1本/3本パック  
120(6×6cm 12枚撮)5本パック  
シート(20枚入)4×5/8×10

●フィルムについてのお問合せは…富士フィルム イメージングシステムズ株式会社 プロ営業支援グループ 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-32 TEL.03-6417-3769

●富士フィルム製品のお問合せは…「お客様コミュニケーションセンター」まで。TEL.050-3786-1711 受付時間:AM9:30～PM5:00(土日祝日を除く)

※ベルビア50/100、プロビア100Fの220・5本パックのパッケージは従来のままで。

# 黒を究めると、 色が極まる。

新 Epson UltraChrome K3 インク搭載



[ A3ノビ対応プリンター ]  
**NEW**  
**SC-PX5VII**  
オープンプライス  
\*2014年11月発売予定  
**EPSON ULTRACHROME K3 Ink**

## プロセレクション史上最高画質へ。 待望の **SC-PX5VII** 誕生

見えなかった黒が見えたとき、見たことのない美しさが生まれた。

新 Epson UltraChrome K3 インクがもたらす黒の深化が、いますべての色を進化させる。

さらに緻密で立体的になった表現力が、暗部から細部まであなたのイメージをより忠実に再現。

この黒の頂点から、あなたは果たしてどんな景色を見るのだろう。

## カメラを選ばないプリンター。 *Epson Proselection*

\*オープンプライス商品の価格は取扱販売店にお問い合わせください。\*この広告に記載の仕様、デザインは2014年10月現在のものです。技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

[ SC-PX5VII インフォメーション ] **KDDI 光ダイレクト** 050-3155-8100 (042-585-8444) 在記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスKDDI光ダイレクトを利用しています。在記電話番号をご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT東日本・NTT西日本の固定電話（一般回線）からおかけいただくか、かっこ内の番号におかけくださいますようお願いいたします。

ご購入はお近くの販売店 または  **エプソンダイレクト** で検索 » お電話でも **0120-956-285**



Photo Koshi Matsumoto